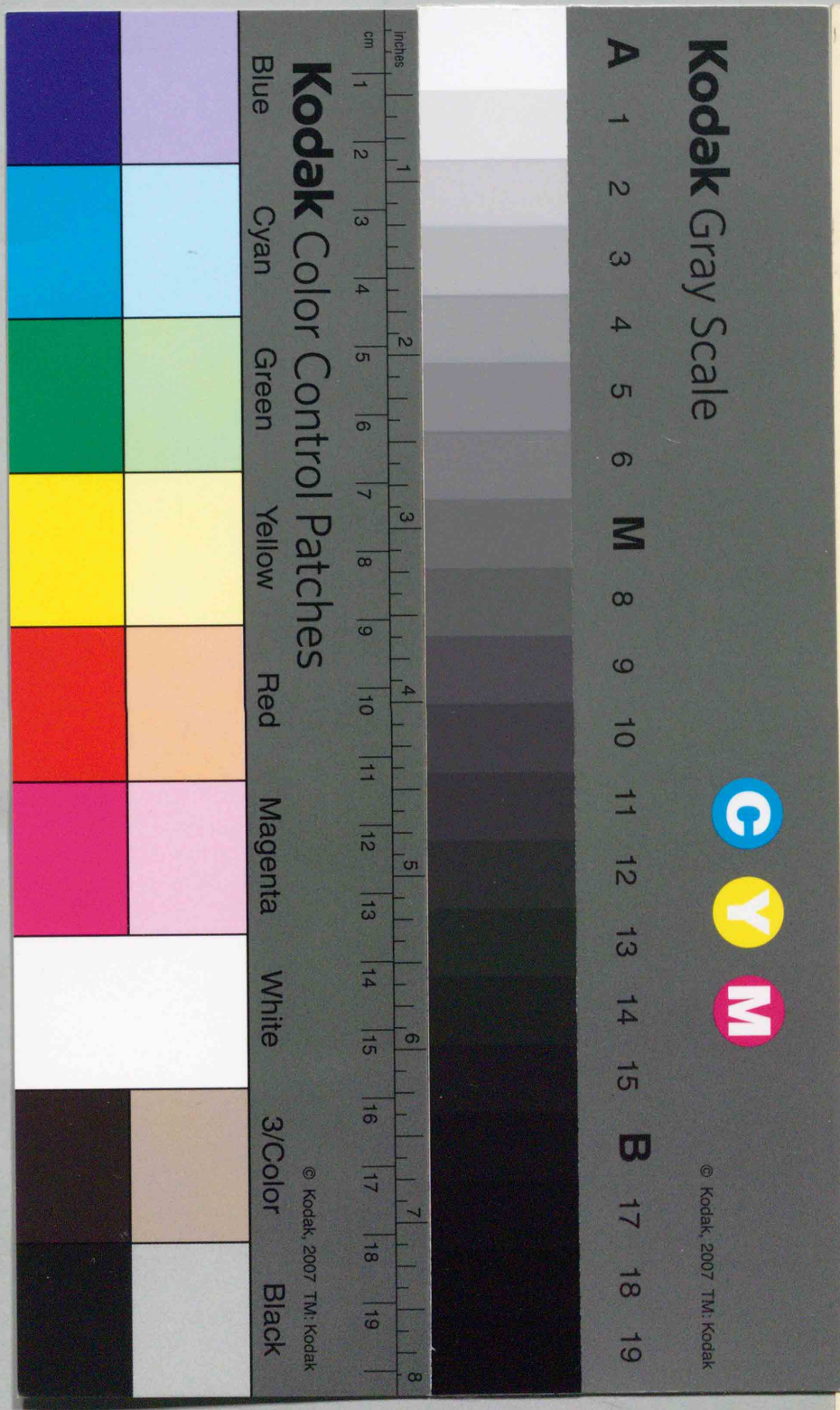


守屋美雄著  
經濟學士  
守屋美智雄 補訂  
新 令 準 據

# 地理選新實業

外國篇  
修正版

4-  
20



42899  
教科書文庫  
4  
293  
44-1941  
20000  
19078

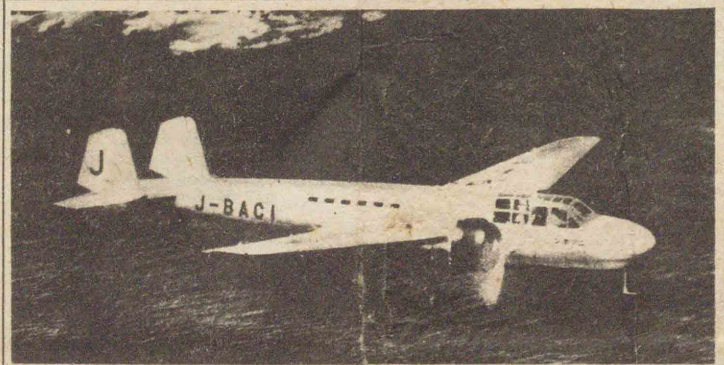
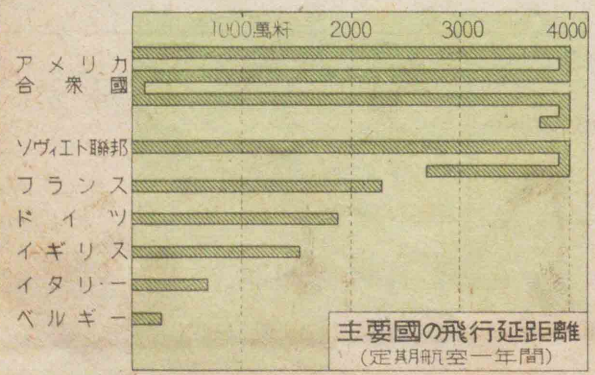


# 資料 空 世界に於ける最新主要航空路

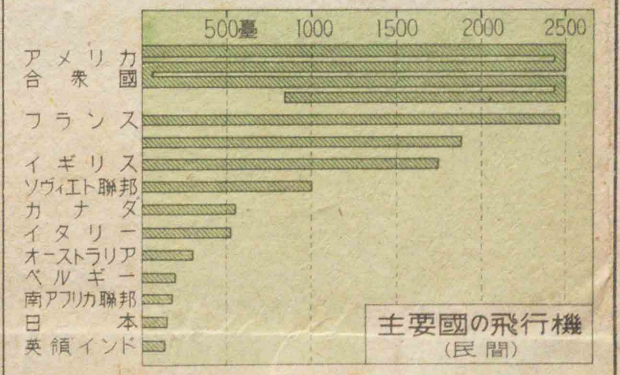
7759  
Mo 18



— 定期航空路  
- - - 不定期航空路  
○ ニッポン丸世界一周飛翔路  
全航程 52860 軒



世界一周飛行の壯途にあるニッポン丸の雄姿





文部省檢定済  
昭和十六年九月二十五日 實業學校 地理科

守屋荒美雄 著  
經濟學士  
守屋美智雄 補訂  
新令準據

# 實業新選地理

外國篇  
修正版  
廣島大學  
圖書印



新京忠靈塔  
(滿洲事變戰死者を祀る)

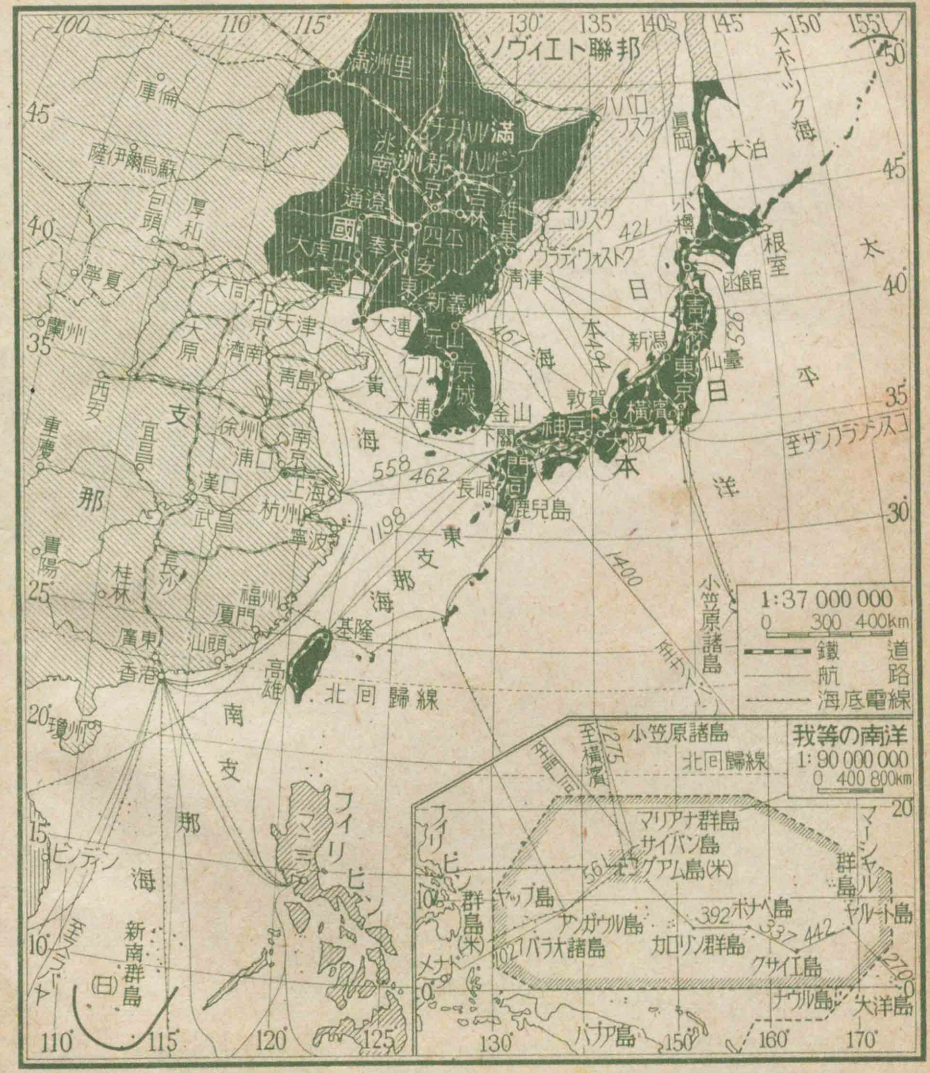
株式會社  
帝國書院

教科書文庫  
4  
293  
44-1941  
2000019078

広島大学図書  
2000019078



## 大日本帝國



我が國の面積	67.5萬方籽	我が國の總貿易額	70.6億圓(昭和14年)
我が國の人口	約1億人	(輸出額 39.3億圓・輸入額 31.3億圓)	
我が國の人口密度(内地1方籽)	186人	新高山の高さ	3950米
我が國の鐵道延長	3萬籽	鴨綠江の長さ流域	790籽32萬方籽
我が國の定期航空路延長	1.9萬籽	東京市の位置	東經-139度45分 北緯-35度39分
我が國の汽船噸數	5.18萬噸	東京市の人口	646萬人(昭和2年)







負ふ責務や、重且つ大なりと言はなければならぬ。従つて本書は、次の諸點に留意して時局の要求に副はんことを努めた。

一、國民精神の作興 常に祖國日本を念頭に置き、各國文化の特性を究めると共に、必ず日本と對比せしむる様工夫し、以て我が國の特質と優秀性とを理會せしむることとした。

二、我が國と各國との關係 東亞の共榮圈たる滿洲國、支那、佛領インド、支那、蘭領東インド方面等、特に我が國と密接な關係を有する地域の記述には、可及的多くの頁數を割き、以て東亞新秩序の建設を目標とする我が國是の眞意義を認識せしむるやう努めた。爾餘の諸國に就いては、日本と關係ある事項に重點を置き、他は簡略を旨とした。

三、世界現狀の認識 世界各國の民族、政治、經濟、交通等、國境變革の根本原因となる可き事項に留意し、歐洲政局の變動は勿論、その他の地方に於ける最近情勢の推移を理解せしめる様に努めた。

四、人文地理の重視 中等教科の地理は、人文地理を中心とする主旨に基き、自然地理は人類生活の自然的環境として人文と比較的關係の深い事項に止め、しかも、人文事項を有機的に取扱ひ、容易に理解し得る様に努めた。

五、明快平易な記述 便宜上、自然人文の各項に分けて述べたが、相互の關係を重視し、力めて平易な表現法を用ひ、難解な語句を避けた。如之、本文、挿圖、共文字を大きくし、鮮明美麗な寫眞と、明瞭な挿圖とを加へて内容の具體化を圖り、興味を以て自學自習し得る様に努めた。終りに臨み、本書の編著に當り、多大の援助を與へられた諸賢に對し、深甚なる謝意を表する次第である。

昭和十五年仲秋

補訂者 守屋・美智雄識



目次

緒論

第一編 アジア

第一章 序説……………三頁  
 第二章 東部アジア……………六  
 第三章 南部アジア……………五  
 第四章 南西アジア……………七  
 第五章 ソ聯領アジア……………五  
 第六章 總括……………三  
 第二編 ヨーロッパ  
 第一章 序説……………六  
 第二章 東部ヨーロッパ……………六

第三章 北部ヨーロッパ……………六

第四章 中部ヨーロッパ……………九  
 第五章 西部ヨーロッパ……………一〇  
 第六章 南部ヨーロッパ……………一六  
 第七章 總括……………一五  
 第三編 アフリカ洲  
 第一章 序説……………一四〇  
 第二章 北部アフリカ……………一四一  
 第三章 中部アフリカ……………一四五  
 第四章 東部アフリカ……………一四六  
 第五章 南部アフリカ……………一四七

第六章 總括……………一四九

第四編 北アメリカ洲

第一章 序説……………一五三  
 第二章 北部地方……………一五四  
 第三章 アメリカ合衆國……………一五七  
 第四章 南部地方……………一六二  
 第五章 總括……………一六九  
 第五編 南アメリカ洲

第六章 總括……………一八三

附 北極地方大洋洲

第一章 序説……………一八七  
 第二章 オーストララシア……………一八九  
 第三章 太平洋諸島……………一九三  
 附 南極地方インド洋太平洋  
 結論……………

第一章 序説……………一七三  
 第二章 北部地方……………一七四  
 第三章 中部地方……………一七五  
 第四章 南部地方……………一七八  
 第五章 西部地方……………一八〇



新島大書庫印

新令一業新選地理 外國篇 修正版

緒論

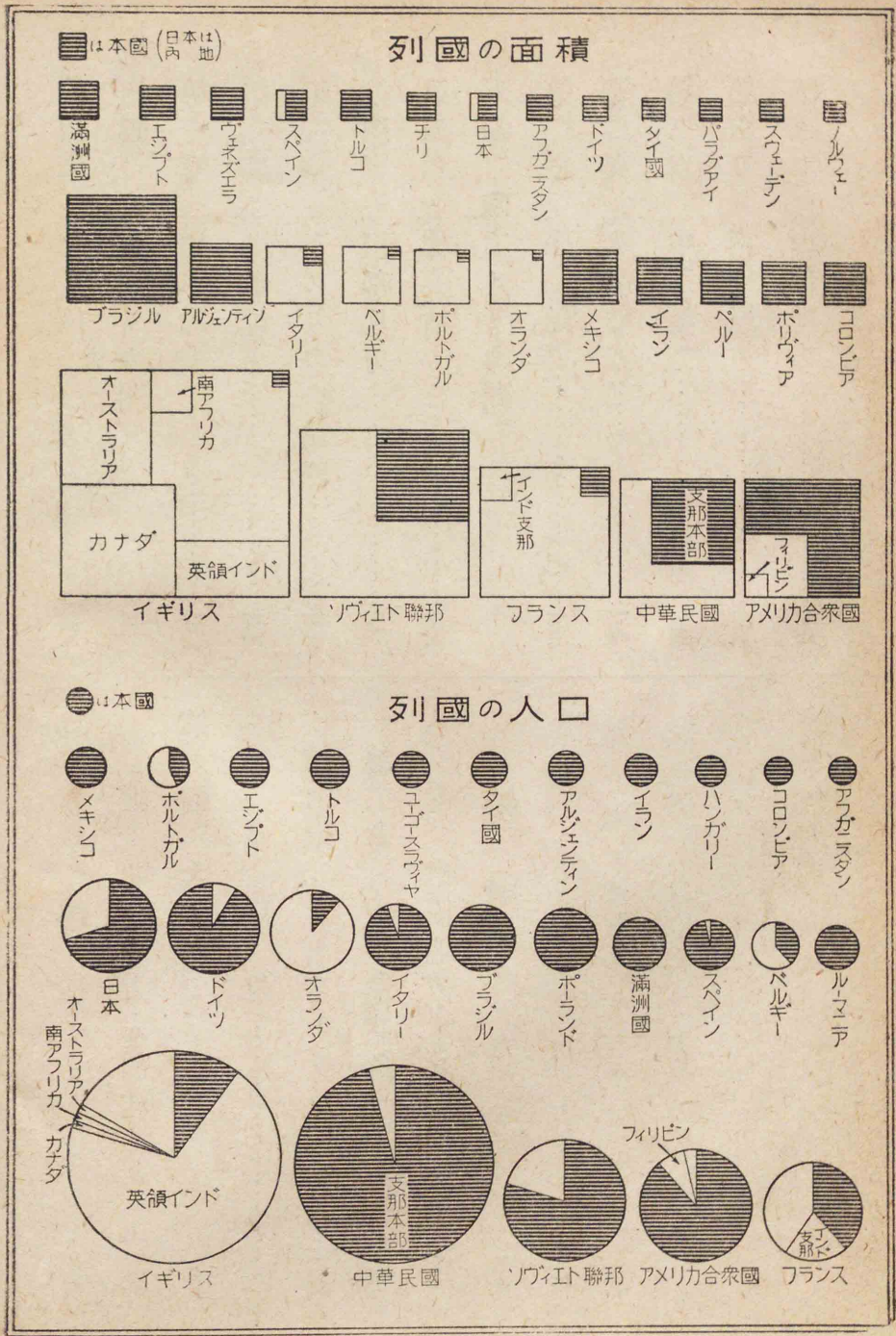
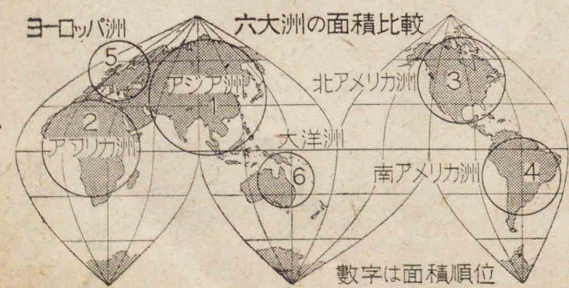
地球の表面

世界の人類

地球の表面 我が地球の表面は陸界・水界・氣界の三界から成つてゐる。陸地の面積は約一億五千萬方呎で、アジア・ヨーロッパ・アフリカ・北アメリカ・南アメリカ・大洋洲の六大洲と、南極大陸とに分たれる。海洋は陸地の凡そ三倍に當り、太平洋・大西洋・インド洋はその主なものである。

世界の人類 地球上に生存する全人類は約二十一億人を數へ、アジア・ヨーロッパ・アメリカ・アフリカの四人種と海岸島嶼住民とに大別する。

緒論





これ等の人類は、或は種族的に、或は歴史的に結合して六十餘の國家を形成し、夫、その地の自然を利用して生活を営み、独自の文化を創造してゐる。近年領土の大小、資源の貧富又は民族運動等に起因する列國間の對立が益、著しくなつて來た。

## 日本と世界

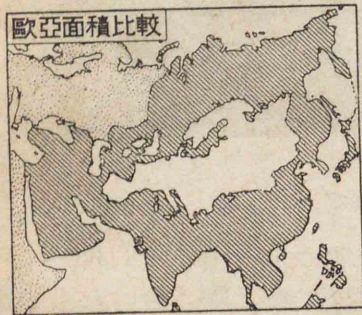
**日本と世界** 我が國は、太平洋の一隅を占め、世界無比の國體と優秀な國民性とにより、今や英、米と共に世界三大強國の一となり、滿洲國及び新興支那と協力して東亞の新秩序を建設し、肇國の理想に向つて邁進してゐる。

我等は既に日本地理を學んで我が國發展の現情を知り得たが、更に進んで外國地理を修め、各國の情勢を究めると共に、我が國と諸外國との關係を明かにし、以て、世界に於ける祖國日本の姿を知り、我が國の進展、延いては世界文化の發達に貢獻する様つとめねばならない。



北支那特殊の景觀 曠野を行く幌馬車





アジア 洲

アシア大陸は、ユーラシア大陸の東半を占め、その面積は世界全陸地の約三分の一に當り、人口は世界總人口の過半に達する。地勢、氣候、人種も複雑で、産業、交通機關等は各地域ともその發達を著しく異にしてゐる。曾ては、世界最古の文明や、大宗教を生んで、世界文化の發祥地であつたが、今や東亞の盟主たる我が國及び盟邦滿洲國の外は、數個の弱小獨立國があるのみで、大部分の地域は歐米列強の勢力下にある。

地勢海洋 中央の山地は、世界の屋根と稱せ

第一編 アジア(亞細亞) 洲  
第一章 序 說

面積 四七〇萬方  
人口 二五〇萬 人 一 一 方 杆 七 〇 人



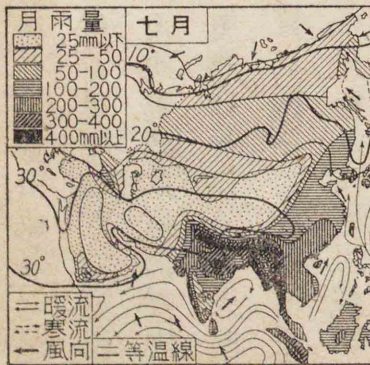
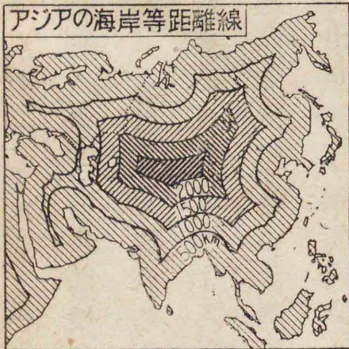
上海のバンドと日本人街 虹口とを結ぶガーデン橋



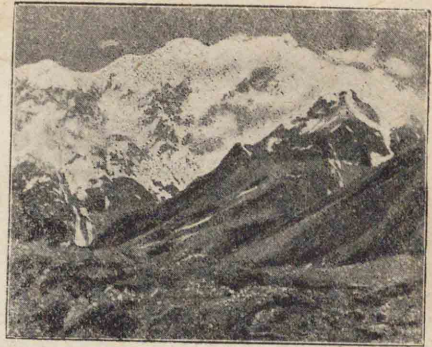
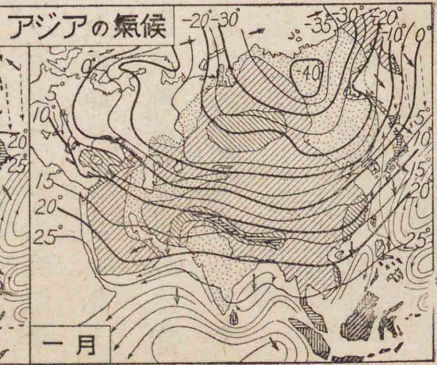
氣候

アジア

洋の恩恵を遮り、各地の文化を孤立せしめて、著しくその進歩を妨げてゐる。  
 氣候 土地が廣く、地勢が複雑なので、氣候



く、オホーツク海、東支那海、南支那海等の縁海があり、また陸棚も廣い。南東部の弧状列島の外側は、諸處に海溝がある。インド洋は三大半島(インド、アラビア、インド支那)によりベングル灣、アラビア海等に、分れ、島嶼が少い。大山脈は内陸に及ぼす海

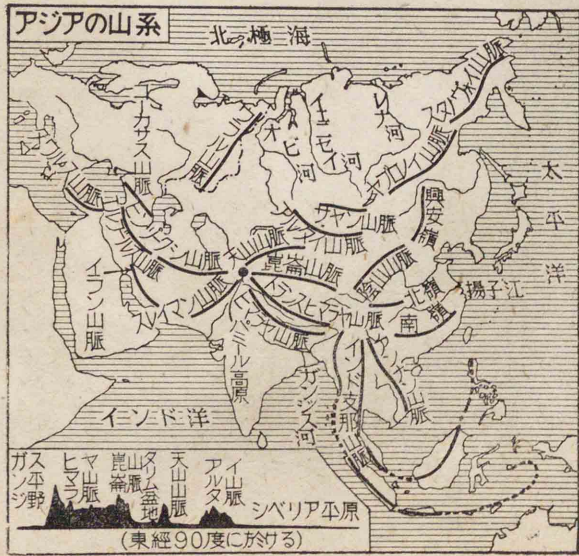


ヒマラヤ山脈 (カンチェンジュンガ山)

アジア

ブルズ・コーカサス等の諸山脈や高原(イラン・アナトリア)がある。河谷平野は山地と臺地との中に挟まれ、黒龍江、黄河、揚子江、ガンジス等の流域にその主要なものである。半島・島嶼は太平洋岸に多

られるパミール高原から東西に延びる山脈と、その間に挟まれた高原盆地とから成つてゐる。東にはヒマラヤ、インド支那、崑崙山、天山、アルタイ、サヤン等の山脈と共に、西藏蒙古の高原、タリム盆地等があり、西にはヒンヅークシ、エル



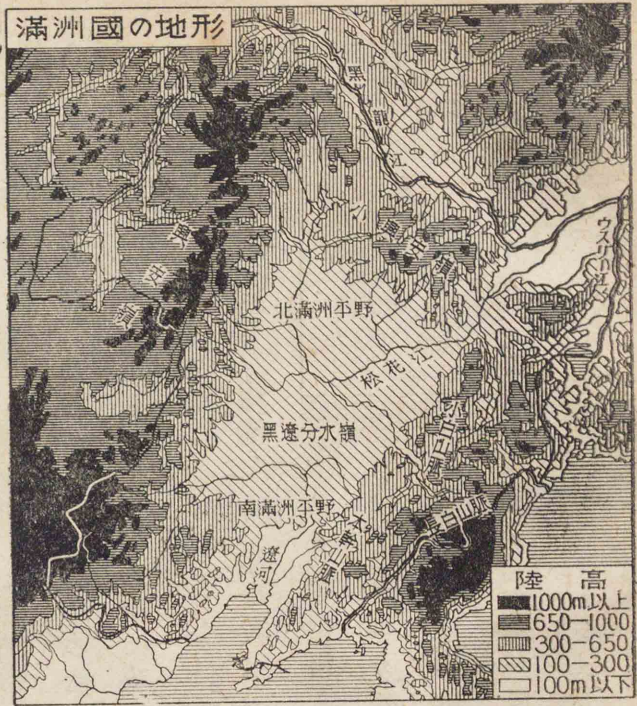
四

五









地勢

高原に續く。北部には小興安嶺が横たはつてゐる。これ等に圍まれた滿洲平野は曠漠たる大平原で、松花江流域の北滿洲平野と、

代表者をあげて滿洲國の獨立を宣言し、元清朝の宣統帝であつた溥儀氏を執政に推戴して、王道國家を建設するに至つた。次いで昭和九年、溥儀執政は皇帝に即位され、茲に滿洲帝國が成立した。その後我が國と密接な關係を保ちながら、健全な發達をつゞけてゐる。

**地勢** 東部は、長白山脈・本幹山脈等の山地より成り、北西部は大興安嶺が南北に連り、西方に緩斜して蒙古

遼河流域の南滿洲平野とに分れる。黒龍江・ウスリ

江は滿ソ兩國の自然的國境として重要性を有し、松花

江・遼河と共に水運に利用せられる。湖沼には興凱湖・

鏡泊湖・貝爾湖等がある。

**氣候** 緯度からいへば滿洲國は我が奥羽から樺太にかけての位置にあつて、氣候も稍似てゐる。然し海から隔つてゐるので、一般に大陸性氣候である。夏季は

日照時間が長く三十度以上の高温となり、南東季節風によつて南

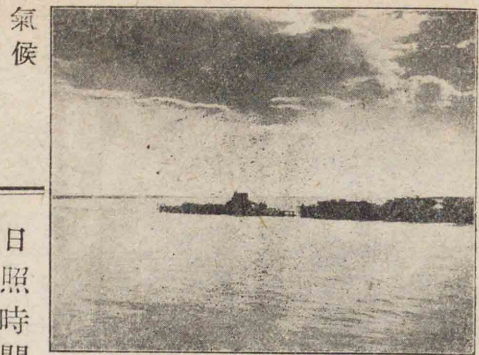
部に降雨が多い。冬季は北西季節風

が吹き荒び、晴天がつゞき乾燥して著

しく寒く、河川は凍結し、農耕は全く行

はれない。朝鮮と等しく三寒四温の

現象がある。



洋々たる黒龍江

氣候

日照時間が長く三十度以上の高温となり、南東季節風によつて南部に降雨が多い。冬季は北西季節風が吹き荒び、晴天がつゞき乾燥して著しく寒く、河川は凍結し、農耕は全く行はれない。朝鮮と等しく三寒四温の現象がある。







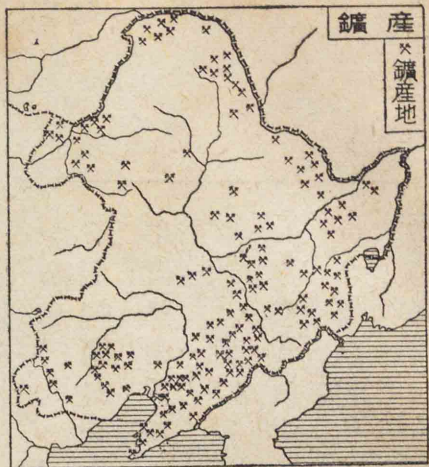
興安嶺の森林景觀



開原に於ける大豆の集積

滿洲平野

産業  
東部山地



アジア洲

また河谷には農業が発達し、移住朝鮮人によつて開拓された間島地方は特に名高い。ウスリー江沿岸地方及び松花江流域は建國以來、我が集團移民によつて開拓が進められてゐる。遼東半島では柞蠶を飼養し、沿岸は天日製鹽が行はれる。

(二) 滿洲平野 夏季は氣温が高く、降雨も多い



産業 地勢氣候によつて(一)東部山地、(二)滿洲平野、(三)西部山地の三區に分ける。

(一) 東部山地 金・鐵・石炭等有用鑛産が多く、その一部は我が國に供給されてゐる。鴨綠江・豆滿江・牡丹江の流域は森林が繁茂し、木材の産が多いので、近時大いに發展した我が國の人絹業製紙業へのバルプ原料供給の資源として重視されてゐる。

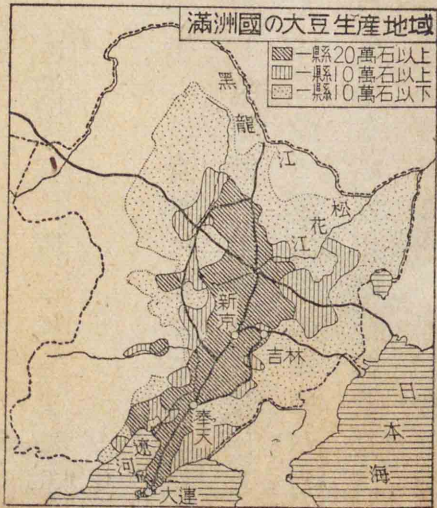




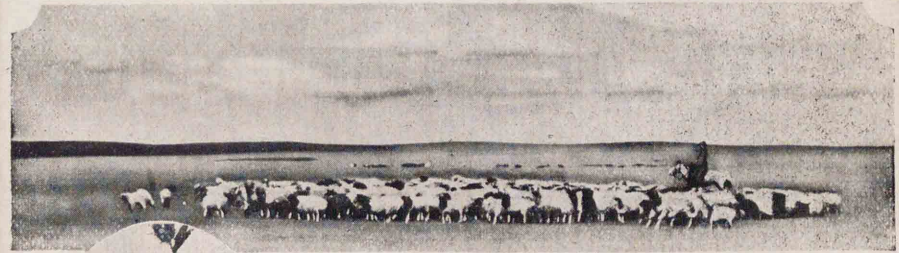
アジア

のて、到る處に農業が行はれ、この國第一の生産地となつてゐる。然し農耕期間が短く、且つ一般に雨量が少いので、大豆、高粱、粟、小麥等乾燥氣候に堪へる作物が選ばれる。大豆は北滿洲を主として各地に産し、世界總産額の約六割を占め、大部は大豆のまゝ、又は豆粕、豆油として輸出される。奉天、新京、海龍は大豆集散地で、搾油が盛である。我が國は年々多量の大豆及び豆粕を輸入してゐる。高粱、粟は土民の常食又は醸造に用ひられる。小麥は主に北部に産し、哈爾濱に製粉、麥酒醸造業が発達した。南滿洲には玉蜀黍、棉、煙草、甜菜、麻も多く、又朝鮮人によつて米が作られてゐる。近年、苹果

ので、到る處に農業が行はれ、この國第一の生産地となつてゐる。然し農耕期間が短く、且つ一般に雨量が少いので、大豆、高粱、粟、小麥等乾燥氣候に堪へる作物が選ばれる。大豆は北滿洲を主として各地に産し、世界總産額の約六割を占め、大部は大豆のまゝ、又は豆粕、豆油として輸出される。奉天、新京、海龍は大豆集散地で、搾油が盛である。我が國は年々多量の大豆及び豆粕を輸入してゐる。高粱、粟は土民の常食又は醸造に用ひられる。小麥は主に北部に産し、哈爾濱に製粉、麥酒醸造業が発達した。南滿洲には玉蜀黍、棉、煙草、甜菜、麻も多く、又朝鮮人によつて米が作られてゐる。近年、苹果



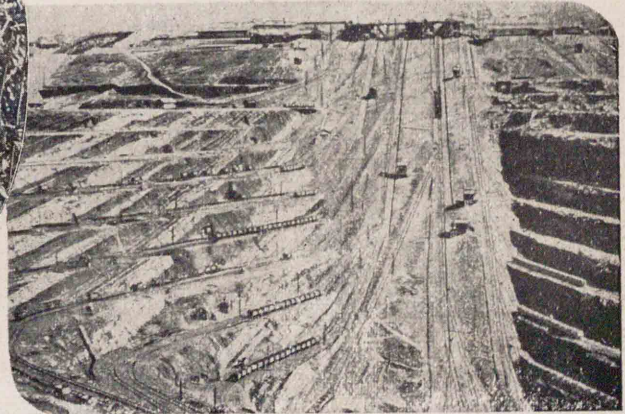
興安北省に於ける羊毛の集積



コロンバイルの牧羊

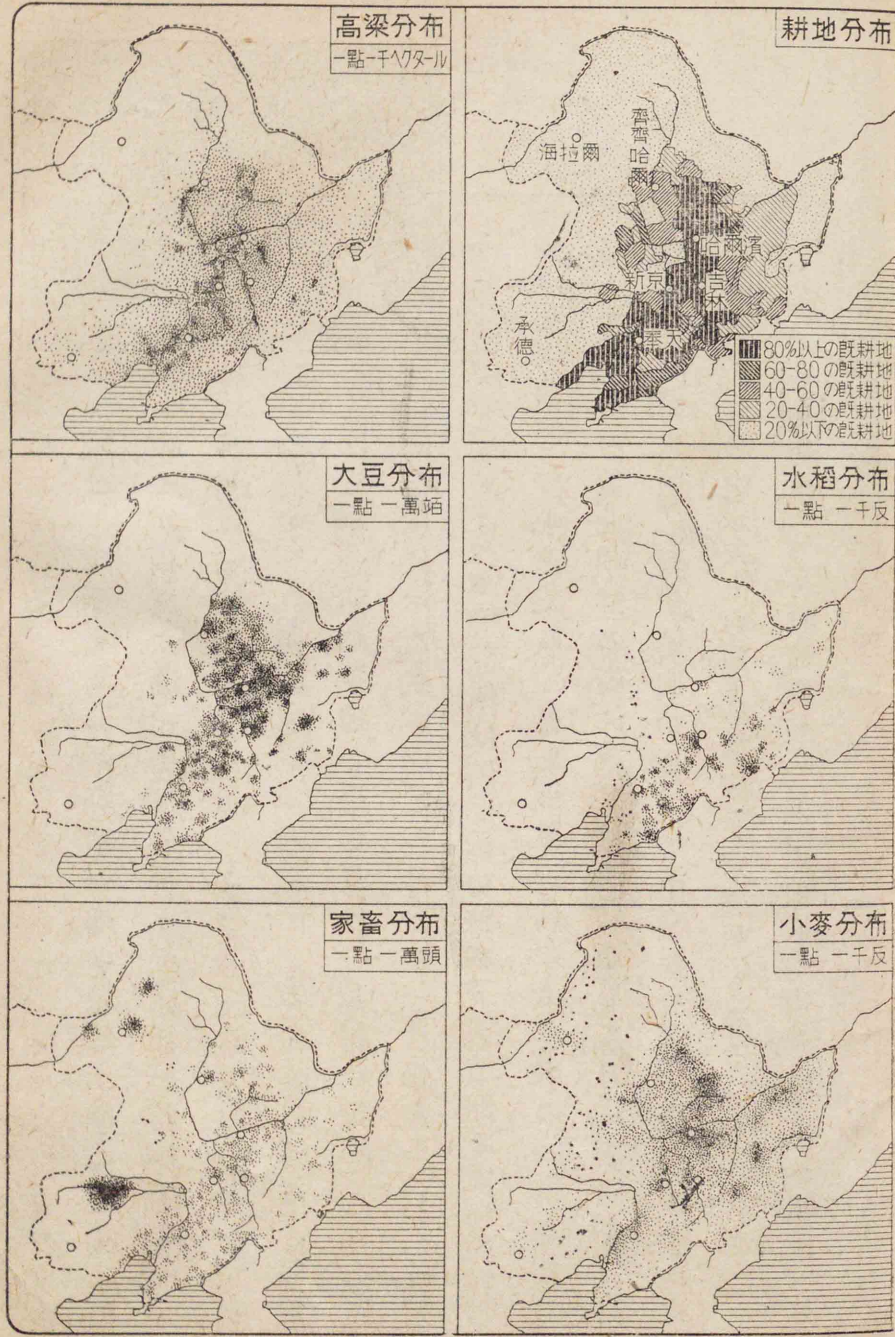


高粱の刈入

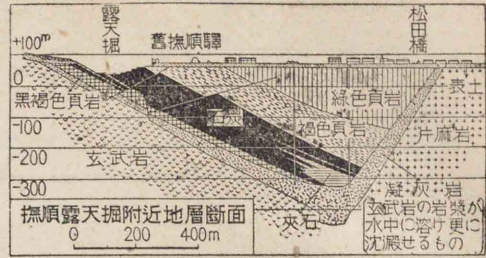


撫順炭田の露天掘





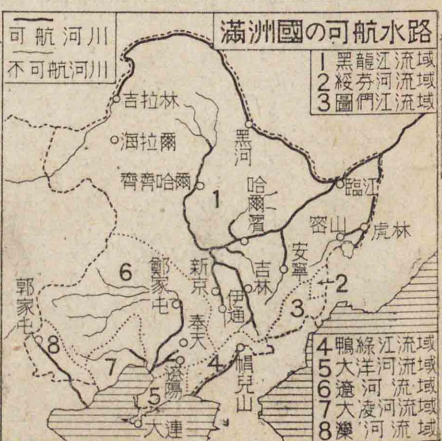
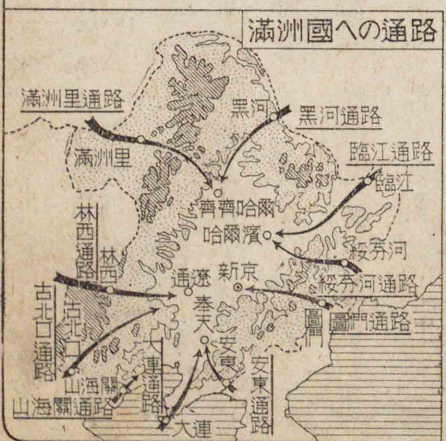
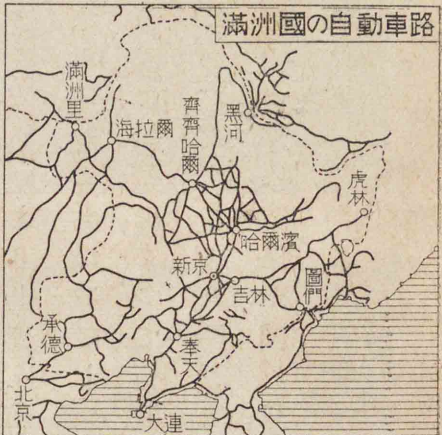
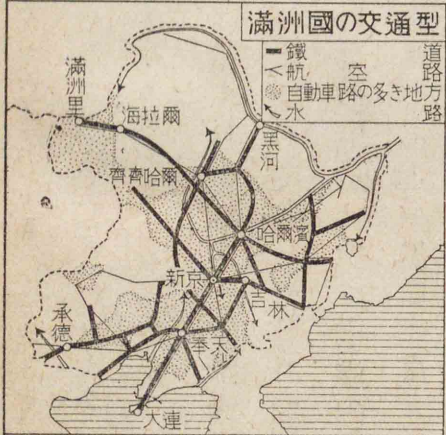
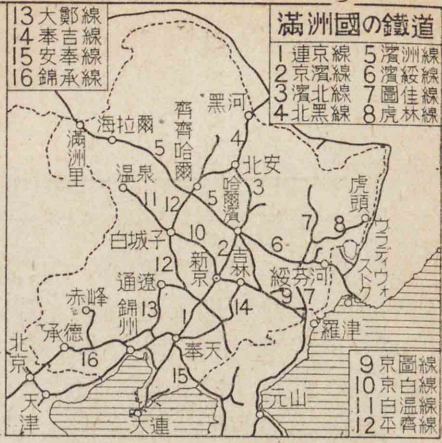
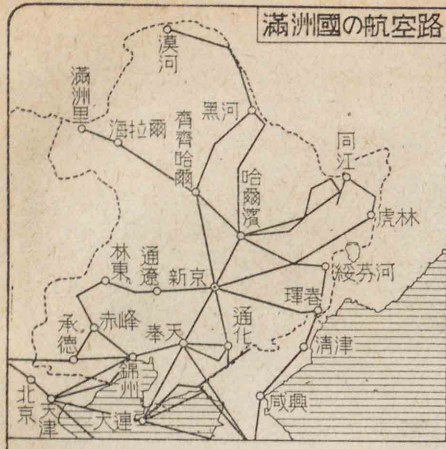
西部山地



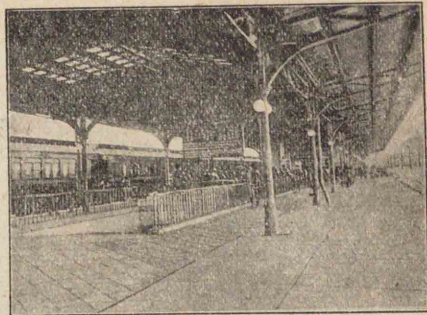
その他の果實の産を見るやうになつた。馬牛騾驢等の家畜は勞力と肥料とを供給するため、各農家に飼養せられ、豚は食料に供せられる。東部の山麓には鑛産が多く、石炭は撫順、煙臺、本溪湖、牛心臺等に産する。撫順炭田は滿洲國第一で、年約一千万噸を産して我が國へも輸出し、また外層の油母頁岩から重油が採取される。更に四平街、錦州、吉林と共に石炭液化の新工業も勃興してゐる。鐵は本溪湖、鞍山附近に多く、昭和製鋼所に於て精鍊される。

西部山地 大興安嶺の北部と小興安嶺とは森林に富んでゐる。南部には石炭を産し、阜新、北票で採掘し、遼東灣の壺盧島に搬出してゐる。呼倫貝爾盆地方面は蒙古人によつて、羊、山羊の遊牧が行はれる。これ等の畜産は一般に粗悪であるが、近年品種の改良に成功し、現在市場に出廻るものに羊毛、羊皮等があり、將來を有望視





交通 鐵道



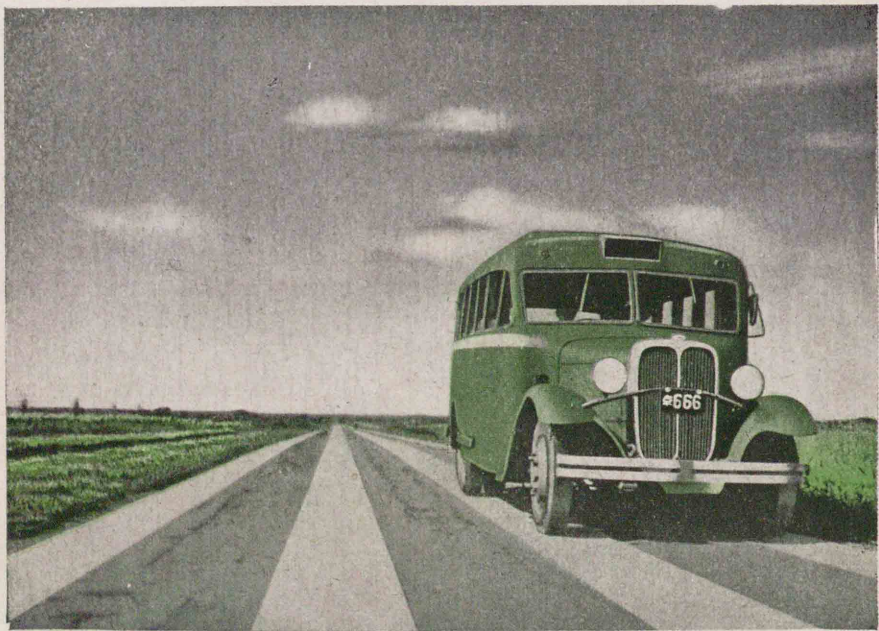
新 京 驛

されてゐる。交通 低平な滿洲平野は、交通の發達上頗る恵まれてゐるが、周圍の諸山脈は外部との交通を妨げてゐる。京道路は從來不完全なものが多かつたが、建國後次第に改修せられ、定期自動車路線も二萬軒に達する。鐵道は近年急速に發達し、全延長は一萬軒に近い。然し、その密度は未だ我が内地の八分の一に過ぎない。連京(天連新京)京濱(新京哈爾濱)二線は、濱綏(哈爾濱綏芬河)濱洲(哈爾濱滿洲里)安奉(奉天安東)等の諸線に連結し、亞歐連絡の大幹線の一部をなしてゐる。その他、北朝鮮の清津雄基羅津に通じて日滿兩國を連絡する京圖(新京圖們)圖佳(圖們佳木斯)拉濱(拉法哈爾濱)の三線や、北支那に通ずる奉山奉天山海關、京承線(北京承德)もある。北朝鮮を經由する日滿連絡線によれば、滿洲國の内地より海へ出るのに

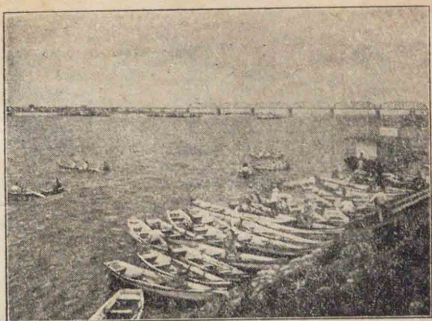




北滿に於ける我が移民の農耕



滿洲國の自動車道路



江 花 松

水運

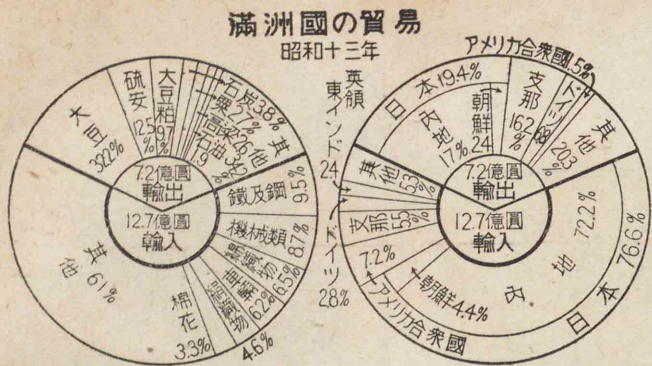
航空事業

大連を經由するのに比して、二百軒も短縮されるので、新京地方の經濟上の發展は勿論、日滿の政治的及び軍事的連絡上、最も重要視されてゐる。

その他虎林・大鄭・奉吉・平齊・齊北・京白・濱北・北黑・洮索・錦承等の諸線が開通し、沿線の開發を大いに助けてゐる。これ等の鐵道は、總て南滿洲鐵道株式會社に經營を委託されてゐる。黑龍江・松花江等は北滿洲、遼河は南滿洲の動脈で、下流は汽船により、上流は戎克ツヤクで、水運の便を果してゐる。冬期は河川も道路も共に凍結してよい楯道となる。

海運は主に我が國の船舶によつて行はれ、大連を主とし、安東・營口・壺盧島及び北鮮の三港は重要な門戸である。航空事業は近年急速に發達して、國內各地に空路が開け、日本内地・北支那を連絡し、新京東京間の所要時間は僅かに十時間である。通信事業も着々進





アジア洲

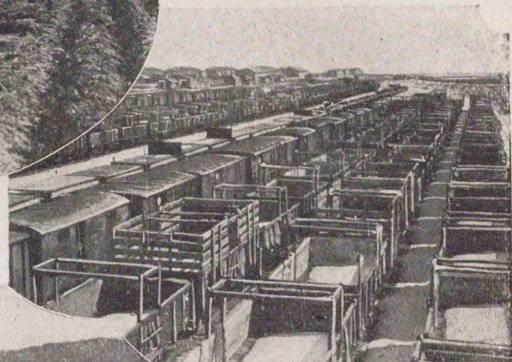
商業 貿易 對日貿易

展して國內の重要都市には何れも電信電話が通ずる。滿洲國は治安の維持・産業の開發及び國防の諸點より、交通の完備が目下の急務とされてゐる。

商業 産業の發達、交通の進歩等により、商業の發達が促され、各種の商取引機關もあるが、隊商祭市等も今尙行はれる。鐵道沿線は商業が進み、奉天哈爾濱は夫々南滿北滿の中心である。貿易は對日貿易の大なる事と、輸入超過の著しいことが特色である。輸出は大豆・硫安・大豆粕・石炭・粟・高粱等の農産物が七割を占め、輸入は鐵及び鋼・機械類・綿織物・車輛等の精製品が多い。取引先は日本・支那・ドイツ等が主で、大連・安東・營口の三港を通じて行はれる。對日貿易は全貿易高の六割を越え、生産資材の輸入により、著しい入超を示してゐる。

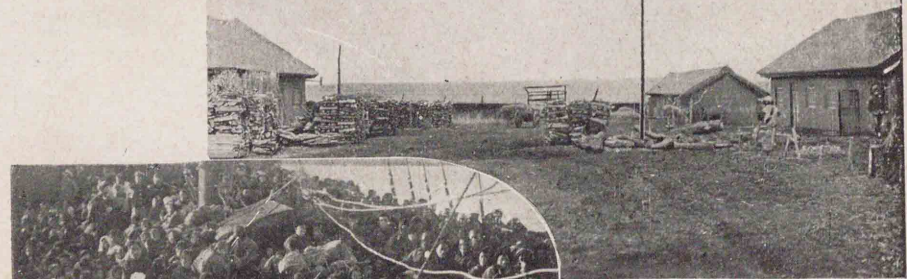


北滿に於ける  
我が移民の大豆收穫



鏡泊湖の冬季交通

滿洲里驛の貨車集合

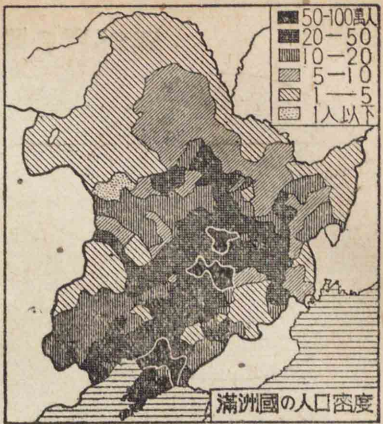


我が移民部落



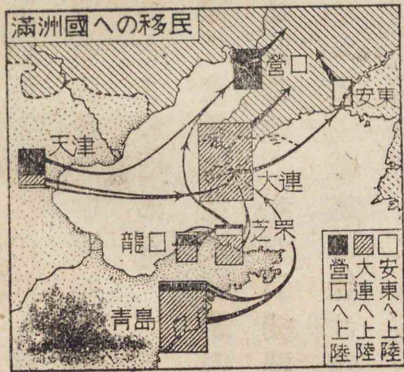
芝罘から乗船した  
支那移民の大群



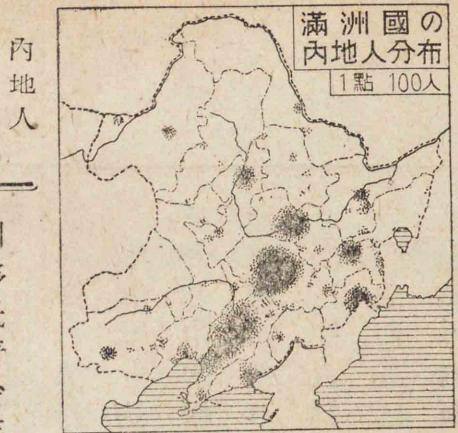


住民  
 滿洲族  
 漢族  
 蒙古族  
 朝鮮人

七十萬に達し、  
 西部山地、呼倫  
 貝爾盆地に於  
 て牧畜を營み  
 喇嘛教を信ず  
 る。日鮮族中



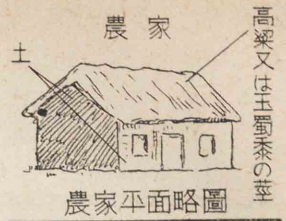
住民 人口は約三千六百萬で人口密度は二十六人に過ぎないが早く開けた南滿洲には多く、日鮮・滿漢・蒙露の五民族より成る。原住民の滿洲族は百八十万と稱せられ、東部に多い。漢族は主要民族で九割を占め、現在尙毎年の移住者は四十萬に及び、農業・商業に従事し、主に儒教・道教を信じてゐる。蒙古族は



内地人

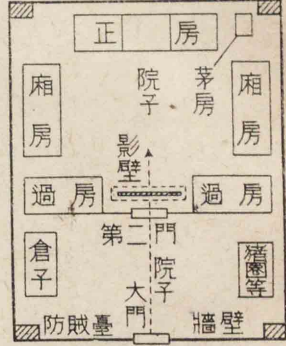
半島からの移民は約百萬と稱せられ、間島を主とし、國內各地に在つて農業に従事し、水田の開拓者である。我が内地人は從來鐵道沿線に多かつたが、滿洲建國後は移住者が相踵ぎ、今や事變前に二倍し、七十萬人に達した。滿洲國內には廣い未耕地が残存し、到る處内地人の居住に適するので、我が國は二十二年間に百萬戸、五百萬人の内地人移住計畫を實施し、集團移民、青少年義勇軍、自由移民等、建國以來昭和十四年までに既に五十萬に餘る移民を送つた。これ等の移民は、滿洲國の農業開拓に任ずる拓士で、將來は同國文化の指導的役割を有するものである。我が國は曾て南滿洲鐵道株式會社によつて學校、病院等を設け、滿洲國の文化のために盡して來たが、建國後は同國政府を援け、政情の安定、民情の融和、教育の普及に勉めたので、國民の生活は次





農家平面略圖

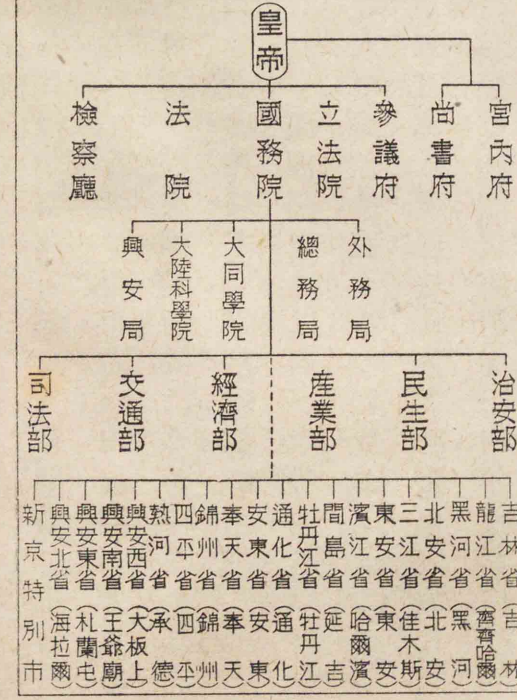
アジア州



政治

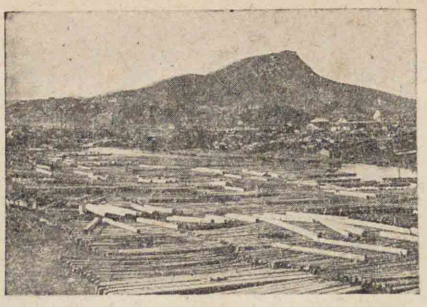
政治 君主國で、皇帝は立法・司法・行政を統べ、陸海軍を統率する。皇帝の諮詢機關には參議府があり、中央政府は三院六部より成る。政府とは別に官民合同の協和會がある。

滿洲帝國政治組織一覽



第に向上し、又日本語普及の結果、特に日滿兩國国民一心一體の實が揚つて來た。滿洲の住家は周圍に牆壁をめぐらし、防賊裝置をなすものが多く、古い都市も支那特有の城壁をめぐらすものが多い。

二〇



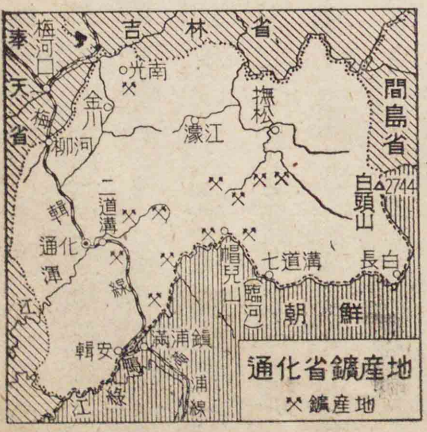
安東の木材集散

處誌 安東省 通化省

間島省

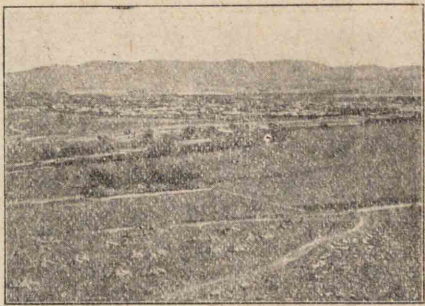
溝と共に木材を集散し、又製材・製紙等が榮えてゐる。通化省は東邊道とも稱され、森林が多く、近時採炭・製鐵の業が大規模に起つて來た。通化はこの中心である。間島省は豆滿江流域で、半島からの移民が多く、米その他の農産が多い。

アジア州



二二





延吉の遠景

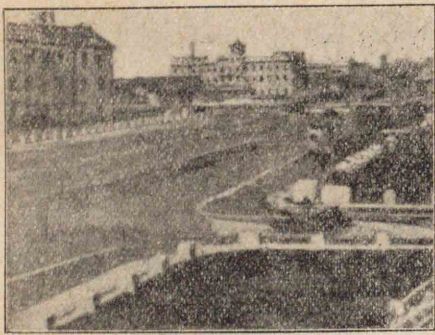
們は琿春と共に國境の要地、龍井、延吉(局子街)は盆地の中心である。牡丹江省はソ聯に隣接し、中心牡丹江市は交通の要衝にあたり、木材を集散する。東安省の虎林線沿線には、本邦集團移民が多い。三江省は松花江下流及び黒龍江・ウスリー江流域に互る低地を占めて、國防上重要な地方である。地味が肥沃で、農業の好適地が廣いから、我が移民の開拓地が多く、その中心佳木

斯市は松花江に臨む河港である。依蘭(三姓)は木材、毛皮を集散する。黒河省は黒龍江の流域で、砂金を産し、國防上重要な地域である。黒河は瑗瑗と共に、國境の要地である。北安省は滿洲平野の北端に當り、肥沃な耕地が廣く、我が集團移民地が多い。北安は農産交通の中心都市である。龍江省は北滿の主要部で、農牧が行はれ、齊々、哈爾市は昂々、溪と共に交通の要衝に當り、南部の洮南は牧

牡丹江省  
東安省  
三江省  
黒河省  
北安省  
龍江省

濱江省

吉林省  
新京特別市



新興滿洲國の首都新京

畜の中心である。濱江省は北滿の要部を占め、農産物が豊である。哈爾濱市は松花江に臨み、水陸交通の要衝に

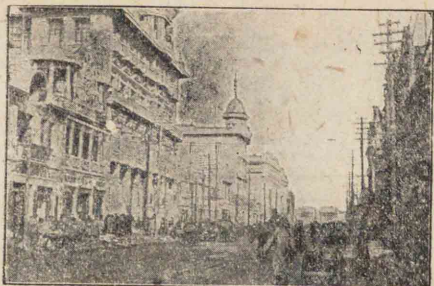


哈爾濱のキタイスカヤ街

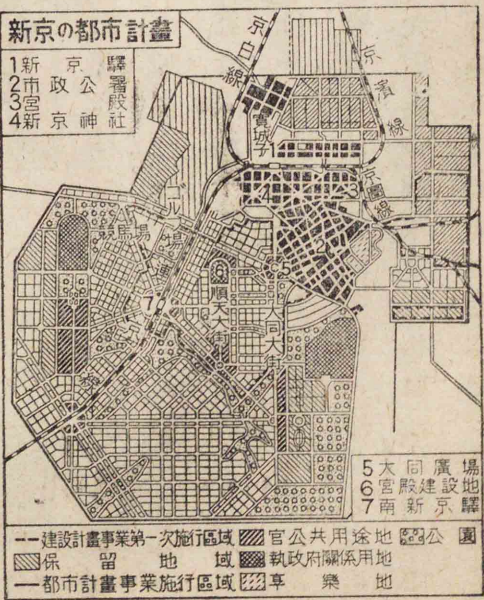
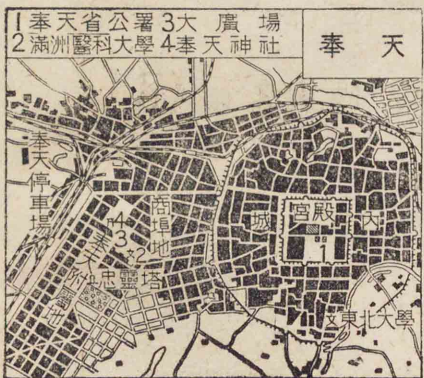
當り、北滿に於ける政治經濟の中心で、大豆・小麥の取引や、製粉・醸造・搾油等の工業が榮えてゐる。吉林省は滿洲平野の中央を占め、農業が盛である。吉林市は松花江に臨む河港で、木材の集散製材が行はれる。新京市は滿洲國のほとんどの中央を占め、建國後首府として大規模に造營せられた近代都市で、中央政府に屬する特別市である。連京線の終點に當



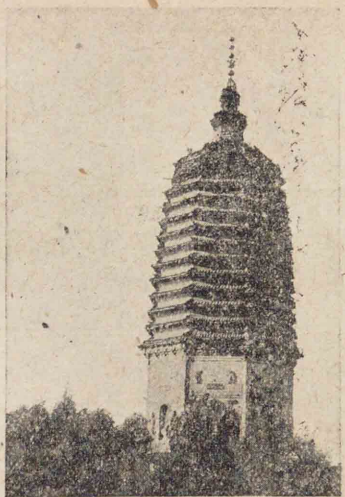
奉天省は開拓がよく進み、人口が最も  
 大使館等がある。奉天省は  
 はれる。我が關東軍司令部  
 等を集散し、又製紙・製粉が行  
 交通上の要地で、大豆・高粱・粟  
 り、濱京・京圖線等が集中する



奉天の浪速大通



稠密で、南滿洲の主要生産地をなし  
 てる。奉天市は交通・商業の中心  
 をなし、搾油・製粉・製糖・醸造等の工業  
 が行はれ、鐵嶺開原と共に農産物の  
 集散地である。撫順市・鞍山市は鑛  
 三  
 一四

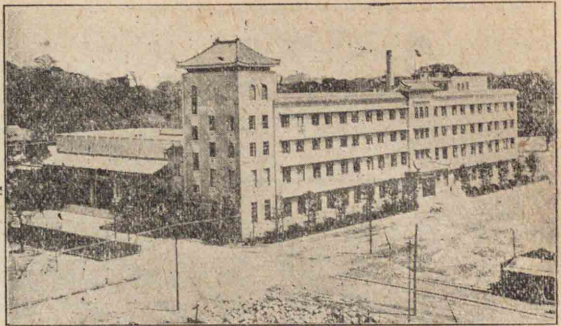


遼陽の白塔

四平省  
 錦州省  
 熱河省  
 興安四省

多い。錦州市は交通都市で、南方の壺盧島は築港中で、將來の發展  
 が期待されてゐる。  
 熱河省は支那本部・内蒙古に接し、蒙古族が多  
 く、牧畜が行はれる。承德熱河は京承線によつて北京に通じ、又灤  
 河によつて渤海灣に通ずる交通の要衝で、北方の赤峰と共に羊毛  
 毛皮を集散し、内蒙に入る門戸である。興安四省は未開地が多く、  
 蒙古人によつて、牛・羊・馬等の放牧が行はれる。海拉爾は北省の中  
 心をなし、外蒙との取引に榮え、國境に近き滿洲里市はシベリアと  
 二五





滿洲國留日學生會館(東京市)

日本と滿洲

移民

の貿易が行はれる。

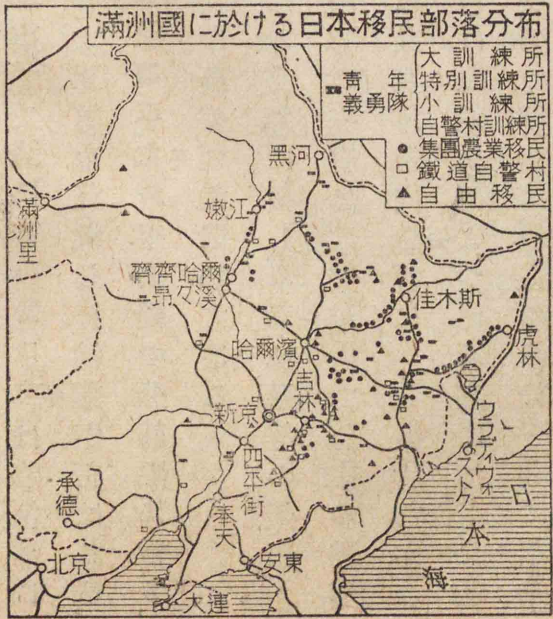
日本と滿洲國 滿洲國は我が國の援助・指導により發

達し、我が國とは密接不可分の關係にある。即ち

(一) 移民 滿洲國

は肥沃な未耕地が多く、本邦移民の移入地として最も適してゐるので、同國も日本

移民を歓迎し、その開拓を期待してゐる。我が國は既に述べた如く、遠大なる内地人移住計畫を立案・實施し、これにより我が國の人口問題を解決する



と共に、滿洲國の文化開發を計つてゐる。

經濟提携

(二) 經濟提携 滿洲國には豊富な資源があるが、従來は資本・技術が不足で利用されなかつた。建國後、日・滿條約によつて本邦人は滿洲國內に自由に居住往來し、また既に三十億圓以上の資本を投じ、これが開發を計つて來た。その結果滿洲國の産業は振興し、兩國

共同防衛

の貿易は頓に増加して、共存共榮の實をあげてゐる。

(三) 共同防衛 以上の如く日・滿兩國は、經濟上頗る密接な

關係にあるので、兩國は防守同盟を結んでゐる。我が國は關東軍司令官を特派し、特命全權大使を兼ねしめ、我が滿洲派遣軍の統率と、外交とを司らしめてゐる。滿洲國軍は皇軍指導の下に漸次強化され、皇軍と共に治安防備に努めてゐる。

かくて滿洲國は近代國家の形態を整へ、我が新東亞建



我が移民の野菜栽培

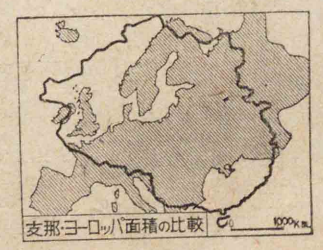


設の大理理想實現の一部を擔當して、重要な役割を果してゐる。

### 第二節 支那(中華民國)

概説  
支那本部  
四〇〇萬方  
四三〇〇萬人

概説 支那はアジア洲の東部から中央部に互り、大陸の約四分の一を占め、その面積・人口は共にヨーロッパ洲に匹敵する。而して天産資源に恵まれてゐるにも拘らず、民族が不統一のため、國勢が揚らず、歐米諸國に壓迫されつゝ、却つてこれに依存する情態であつた。然るに支那事變が起るに及び、新國民政府が生れ、日支提携による新支那の建設を見ようとしてゐる。



支那は、支那本部と蒙古聯合外蒙古新疆省・青海省・西藏とから成り、各政治組織を異にしてゐる。

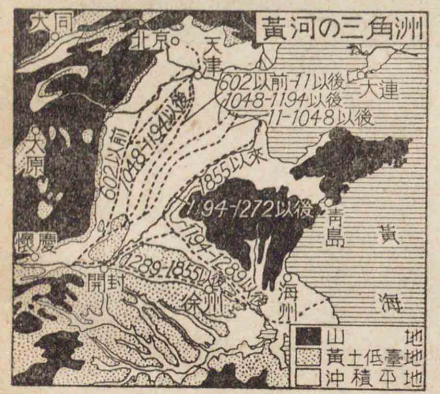
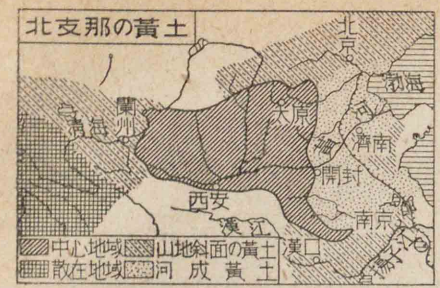
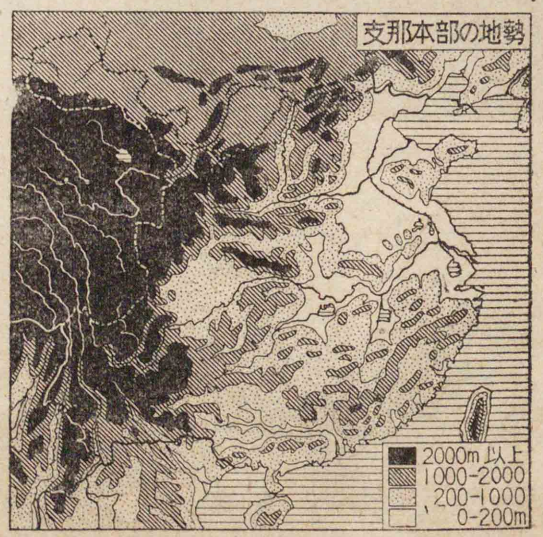
#### 一、支那本部

地勢 西部は一帶の高地で、北部の太行山脈及びその西方の黄土

渭水盆地  
四川盆地

北支那平野  
黄河・白河

高原より、南部の雲貴高原に達し、その間に肥沃なる渭水盆地・四川盆地等がある。東部は低地をなし、崑崙山脈から續いてゐる南嶺・北嶺によつて北支那・中支那・南支那の三大平野に分たれる。



北支那平野は、黄河・白河の流域である。黄河は青海に發し、長さ四千千米侵蝕された黄土を下流に堆積し、古來屢、氾濫して河道を變じた。





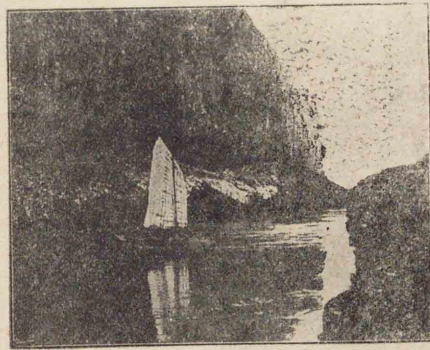
黄土地方の道路

中支那は揚子江の流域である。揚子江は崑崙山脈に發し、四川盆地、洞庭湖、鄱陽湖の水を入れて、下流に江浙平野を開いてゐる。

揚子江は延長五千二百軒に及び、世界第四の長流で、水量が豊富で、灌溉舟運の便が多く、沿岸に數多の開港場が發達してゐる。減水した時

中支那平野  
揚子江

でも、漢口までは二千噸、宜昌までは千噸の汽船が廻り、小汽船は更に四川盆地に達する。灌漑は支那本部の四割、我が國の二倍半に



揚子江上流に於ける三峽の峻



揚子江流域と日本内地の面積比較

南支那平野  
珠江  
海岸

氣候  
産業



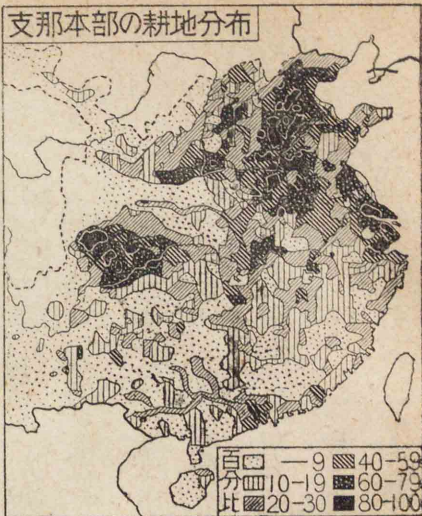
達する廣大な面積を占め、現在支那に於ける最も重要な生産地帯であり、また文化地帯でもある。

南支那平野は主に珠江の流域である。海岸は北部に山東半島が突出し、遼東半島と共に渤海灣を抱き、附近に砂濱が發達してゐる。南部海岸は屈曲に富み、その南に雷州半島が突出し、これに近く海南島が横たはつてゐる。

氣候 溫帯に位し、季節風帯に屬するので、夏は南東風が卓越し、沿岸は一般に雨が多いが、冬は北西風となり、著しく乾燥する。その中、北支那は山東半島が南東風を遮る爲、夏季は雨量が少い。中支那の氣候は一般によく、夏季に氣温が上り、南支那は亞熱帶性氣候で、高温多雨である。

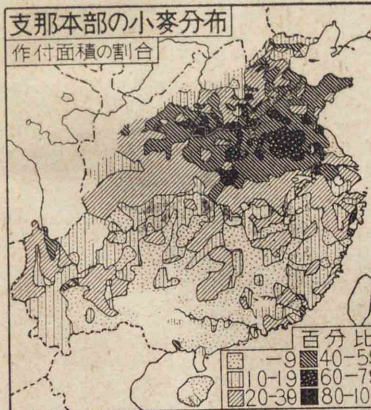
産業 支那は領土が廣く、地勢、氣候が複雑なので、その資源が豊である。





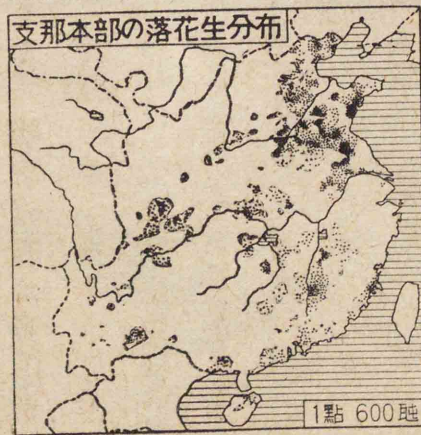
北支那 農業 鑛業

は河北省の開  
灤井陘臨城山  
東省の淄川博  
山坊子等が知  
られ、鐵は山東  
省の金嶺鎮で

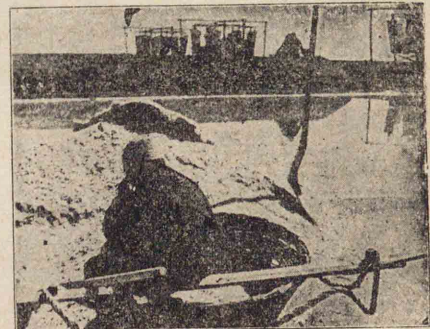


支那本部の小麦分布 作付面積の割合

北支那 黄土地域は地味が肥沃で、農耕に適し、  
夙くから開拓が進んでゐる。一般に北支那は  
雨量が少ないので、水田は未だ少く、滿洲國に似て  
小麥・大豆・高粱・玉蜀黍・落花生等を産し、又夏季の  
高温と灌漑によつて棉が栽培される。山地  
は石炭鐵等の埋藏が多いが、未だ十分に發掘さ  
れてゐない。炭坑で



支那本部の落花生分布

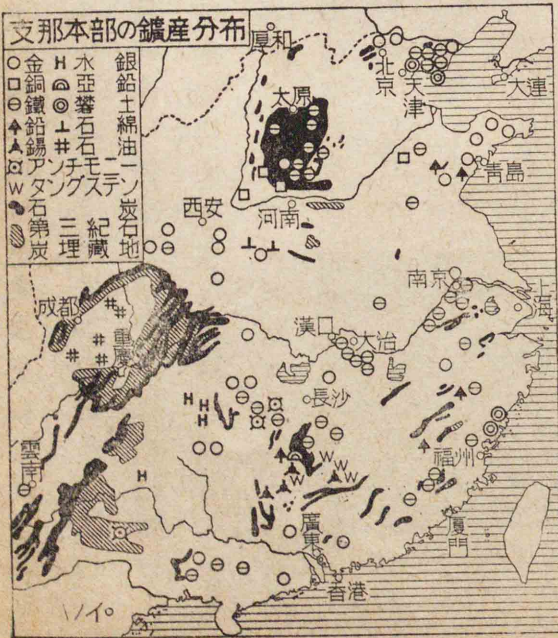


長蘆鹽

採掘されてゐる。陝西省には石油を産  
する。渤海沿岸は砂濱が續き晴天勝ち  
で、天日製鹽が行はれ、長蘆鹽・山東鹽は我  
が國へも輸出される。この外、山東半島

製鹽業  
綿工業  
中支那  
農林業

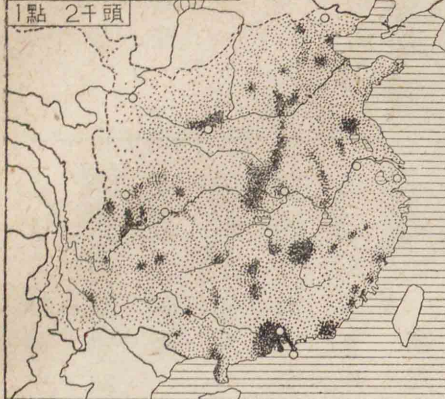
蠶や牛の産が多く、また天津  
青島濟南では支那棉を原料  
とする綿工業が盛である。  
中支那 揚子江流域で、氣温  
が高く、雨量も多いので、我  
國に似て、米・茶の産が多く、養



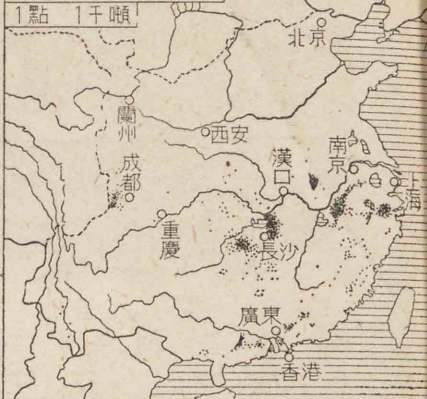
支那本部の鑛産分布



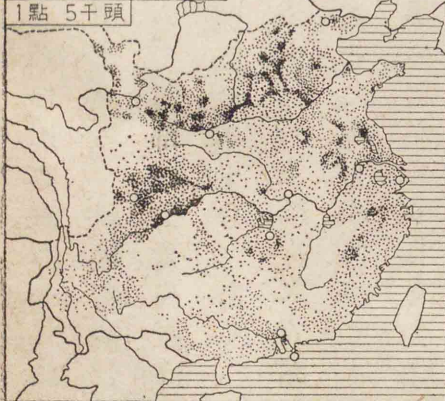
支那本部の牛分布



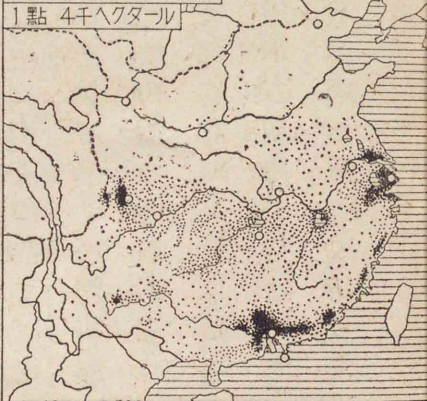
支那本部の茶分布



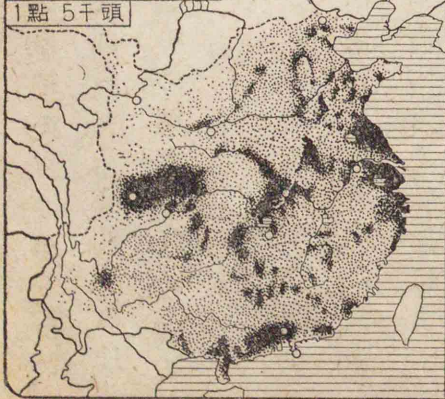
支那本部の羊分布



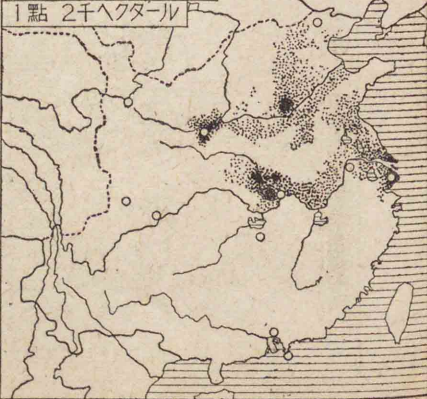
支那本部の米分布



支那本部の豚分布

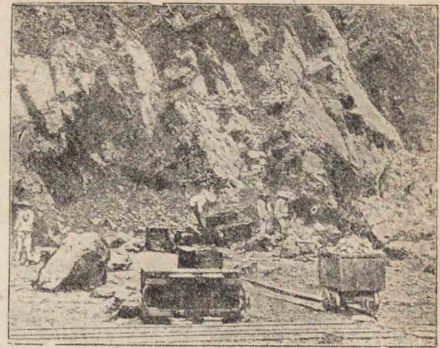


支那本部の棉分布



南支那  
農林業

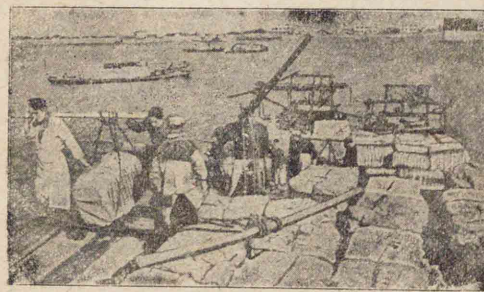
鑛業  
工業



大冶の鐵鑛

南支那 亞熱帶季節風帶に屬し、高温で雨多いため、山地は樟肉桂竹その他の林産物であるが、上海漢口等には紡績その他の近代工業が勃興した。

蠶も行はれる。また、棉・苧麻・落花生の産も豊富である。耕作には家畜を利用し、鶏豚も多く飼養されてゐる。揚子江沿岸は鑛産が多く、鐵は大冶・桃冲等で採掘され、萍郷の石炭と共に、搬出に便利なのが特色である。大冶の鐵は、萍郷炭によつて漢陽で製鍊せられ、一部は我が國へ輸出されてゐる。その他湖南省のアンチモニー、江西省のタングステンは世界的に有名である。工業は、製絲・製茶・絹織等、一般に在來の手工業であるが、上海漢口等には紡績その他の近代工業が勃興した。

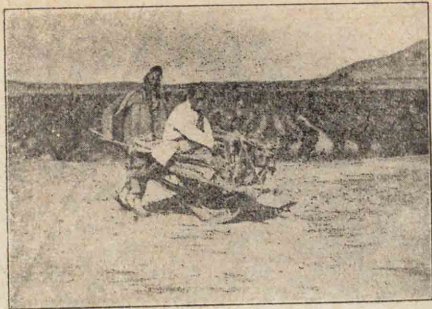


上海の工業地帯に陸揚げされた棉花



交通

南船北馬



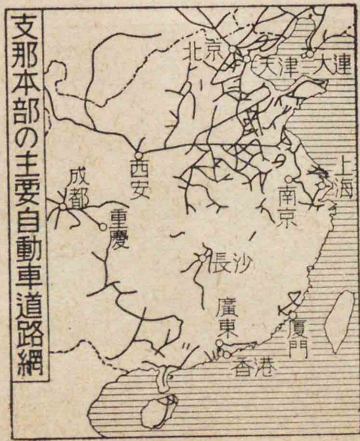
南船北馬

に富み、平野・河谷には我が臺灣のやうに甘蔗・米・茶・果實等が作られ、養蠶・養豚・養鶏も盛である。耕地の割合に人口が多く、海外に移住する者が少くない。西部の雲貴高原は銅・錫等の鑛産が多いが、交通が不便なため、開發は不十分である。

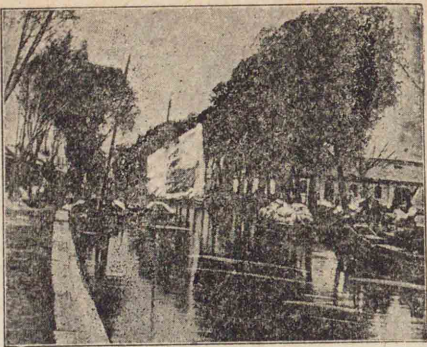
交通 廣大な領土の統一上にも、又資源自給の必要上にも、交通の發達が望まれてゐるに拘らず、極めて不備である。支那には、古來

一 輪 車

南船北馬の語があり、北支は航行不便で、多く馱獸によつて往來し、中支南支に於ては、揚子江・珠江を始め、多くの河川運河によつて舟運の便がある。この外、支那特有の一輪車・轎等があり、馬車の利用も行はれてゐる。我が國の發明に係る人



支那本部の主要自動車道路網



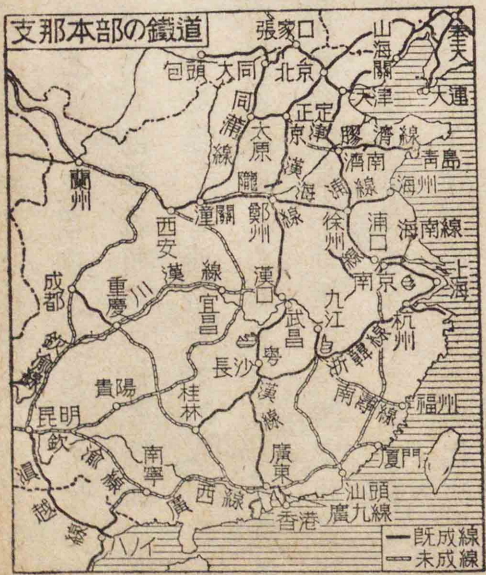
大 運 河

方車も市街地では盛に用ひられる。自動車・鐵道・船舶・航空機等の交通機關は、外國資本によるものが多い。

大運河 今から千三百餘年前隋の文帝の時に、その一部を開鑿し、煬帝がこれを大成した。天津・杭州間全長二千三百里に達し、世界最長運河で、萬里の長城と共に支那の二大工事と稱せられる。元來、南方の米を北方に輸送する目的を有つものであつたが、今は海運と津浦鐵道とのために利用が減じ、所々に土砂が堆積して小舟を通ずるに過ぎない所もある。

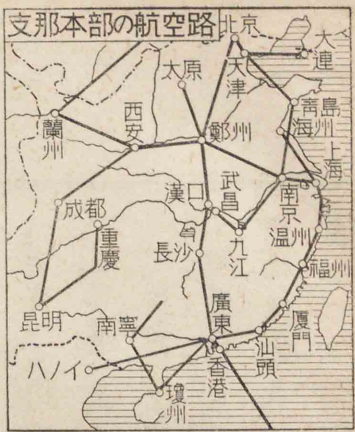
鐵道は主として東部低地に發達してゐる。京漢(北京・漢口)粵

アジア



支那本部の鐵道





海運

内陸水路

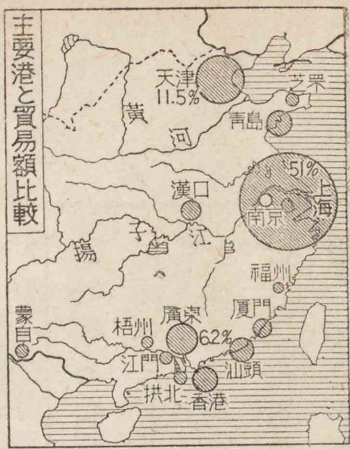
航空

無線電信

商業

漢(武昌)廣東(津浦)天津浦口(海南)上海南京(南潯)等の諸線は南北に通じ、京包(北京)包頭、京山(北京)山海關、膠濟(青島)濟南、隴海(海州)西安、浙贛(杭州)南昌等の諸線は、略東西に走つて海岸と奥地とを連絡してゐる。別にフランス經營の滇越(昆明)ハノイ鐵道がある。海運は我が東亞汽船、日清汽船、日本郵船等の諸會社及び英米等外國船によるものが多い。揚子江は重要な内陸水路で、諸外國の航路に開放され、二千五百軒の上流重慶まで溯航出来る。航空事業は外資により、近年著しく發達した。殊に最近、日支合辦による惠通航空公司是日滿支の連絡に重要な役割を果してゐる。無線電信も各處に設けられてゐる。

**商業** 支那は面積・人口が龍大で、大資源を擁し、しかも商業は支那人の長ずるところであるが、商業發達段階の低いのと、交通の不便、



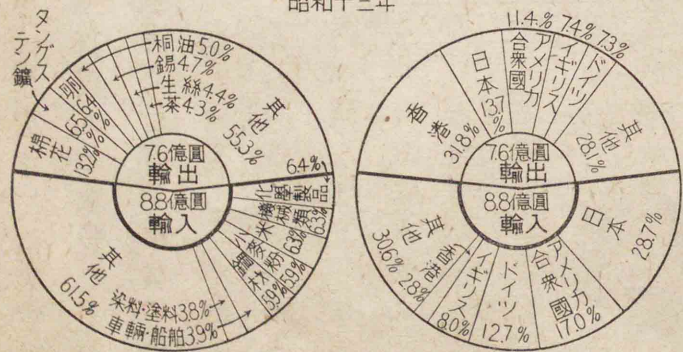
住民人口

貨幣制度の不統一等はそれを妨げてゐる。貿易は未だ盛でないが、主として上海・香港・天津・廣東・青島・漢口等を中心として我が國及び米英獨との間に行はれる。輸出は棉花・タングステン・鑛・鶏卵・桐油・錫生絲等の原料・食料品等が多く、輸入は化學製品・機械類・米・小麥粉等の全製品・半製品が大部分を占め、年々著しい輸入超過である。近年産業の開發、戦後の復興等に要する資材を多く我に仰いでゐる。内陸には他國との接壤地帯に開市がある。

**住民** 人口は四億二千萬に達し、河北・山

アジア洲

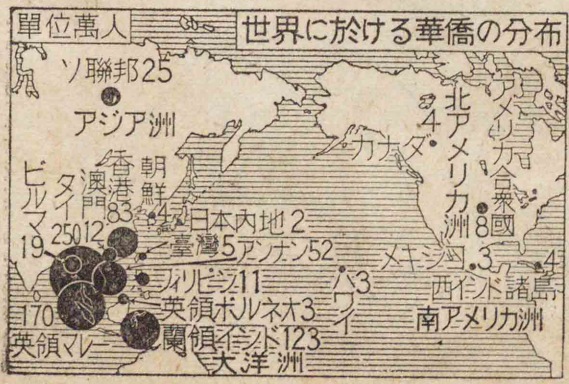
支那の貿易 昭和十三年







東・河南・江蘇・浙江等の各省は密度が特に大である。毎年の人口増加が三百萬人の多數に上るので、海外に移住する者が多く、これを華僑と稱し、その数は今や八百萬に達してゐる。彼等は頑健でよく寒暑に耐へ、世界到る處に發展して、毎年莫大な送金をする。住民は南西部に居住する少數の苗族の外は、概ね漢族である。漢族は利己主義で經濟に長じ、獨立心が鞏固であるが、阿片吸引等の弊風がある。宗教は古來儒教・道教が行はれてゐる。言語・宗教・風俗の不統一は、共に著しく國家の發達



を妨げてゐる。  
**政治** 古來革命相踵ぎ、幾多の國家が興亡して來たが、昭和三年國民政府が全支那を統一した。然るに歐米に信賴し、聯ソ容共抗日政策を行つた結果、昭和十二年七月支那事變を惹起するに至つた。抗戰三年有餘、支那本部の主要部は皇軍に占領せられ、こゝに親日防共を標榜する新國民政府が確立して、蔣政權は名實共に一地方政權と

華僑  
漢族



化し、今や没落の一途を辿つてゐる。新國民政府は五院十四部より成り、北支那の重要性に鑑み、北京に華北政務委員會、蒙疆に蒙古聯合自治政府が設けられてゐる。

處誌  
北支那

**處誌** 北支那 曾ては支那文化の發祥地となり、四千年の歴史を飾つた地方で、防共上極めて重要な位置を占め、高度の自治を許されてゐる。農産・鑛産・水産(鹽)等の資源に富んでゐるが、開拓が十分でなかつたから、支那

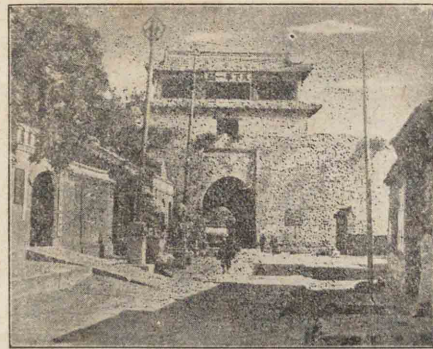




北支の政治中心地 北京



新國民政府の首府 南京の中樞部(中山路)



山海關の樓門

山東省

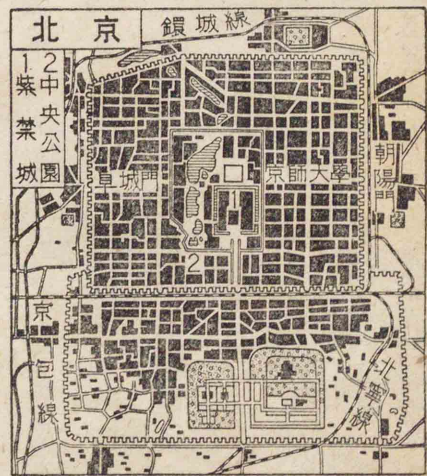
河北省

河北省は滿洲國蒙古に接し、重要な位置を占めてゐる。北京は城郭都市で、滿洲蒙古に通ずる交通の要地である。内城には宮殿、官衙が多く、外城には商業が行はれ、北支那政治經濟の中心である。天津は、白河に臨み、北支那第一の貿易港で、邦人經營の紡績業が發達した。塘沽、大沽はその外港である。秦皇島は不凍港で、開採炭を輸出し、山海關は萬里の長城の起點をなし、國境の要地である。山東省は開拓が進み、河北省と共に人口が稠密なため、滿洲

河北省は滿洲國蒙古に接し、重要な位置を占めてゐる。北京は城郭都市で、滿洲蒙古に通ずる交通の要地である。内城には宮殿、官衙が多く、外城には商業が行はれ、北支那政治經濟の中心である。天津は、白河に臨み、北支那第一の貿易港で、邦人經營の紡績業が發達した。塘沽、大沽はその外港である。秦皇島は不凍港で、開採炭を輸出し、山海關は萬里の長城の起點をなし、國境の要地である。山東省は開拓が進み、河北省と共に人口が稠密なため、滿洲

事變以來、我が國は北支那開發會社を創設し、日支提携してその開拓を圖つてゐる。

アジア洲







太原の市街の景観

アジア洲

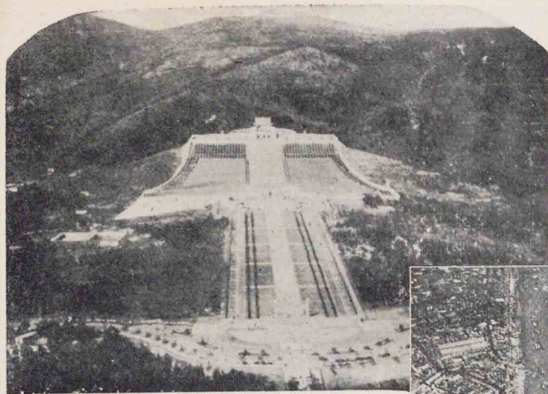
山西省  
河南省  
陝西省  
甘肅省  
中支那

に移住する者が多い。青島はこの地方の門戸に當り、綿工業を初め邦人經營の工場が多く、農産物・牛・鶏卵・鹽等を輸出し、我が國との取引が盛である。芝罘は、半島東岸の開港で、絹・紬・柞蠶絲を産する。濟南は交通の要地で、棉花の大集散地をなしてゐる。山西省は鐵石炭の埋藏に富み、太原はその中心である。河南省は黄河南岸の廣大な地域を占め、開封は古都として名高く、西方の河南は、古の洛陽で史蹟が多い。陝西省の渭水盆地は、麥類の産が多く、中心の西安は、古の長安で、咸陽と共に舊都として名高い。甘肅省は山地が多く、産業が振はない。蘭州は新疆省中央アジアに至る要地である。

中支那

支那第一の生産地で、平野はよく耕作せられ、揚子江の水運の便があり、開拓が進み、人口も多く、文化が発

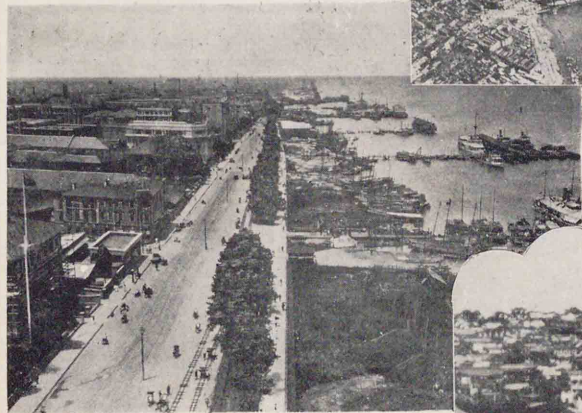
南京の中山陵



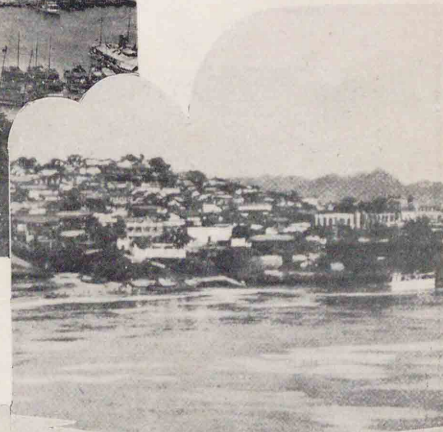
天津の日本租界  
(橋は萬國橋)



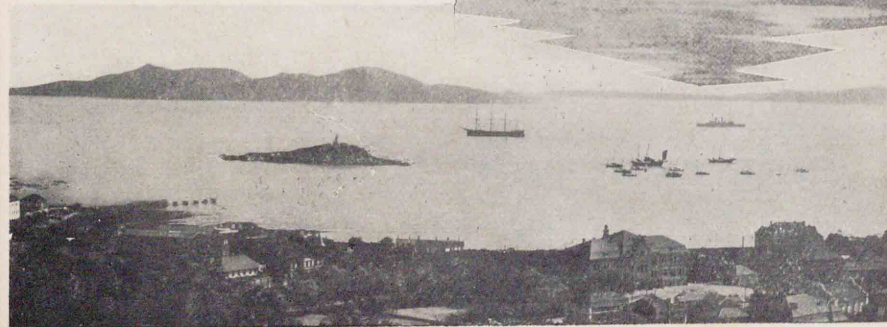
漢口



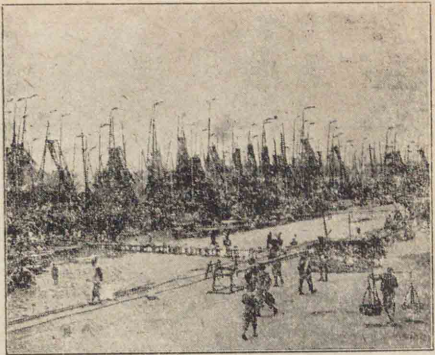
重慶



青島







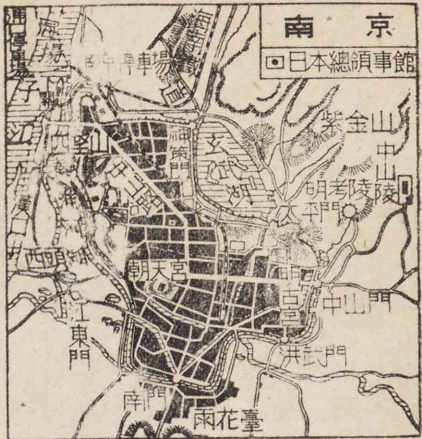
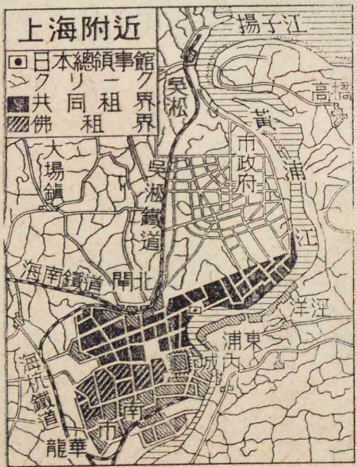
吳 淞 港

江蘇省は揚子江下流の平野を占めてゐる。上海は吳淞を外港とし、揚子江流域を後背地として、急速に發達した東亞屈指の貿易港であると共に、支那第一の近代商工都市である。貿易が頗る盛で、生絲・茶・絹織物・棉を多量に輸出し、紡績造船製粉等の工業も行はれる。

江蘇省

また邦人の投資經營にかゝる紡績工場が多い。

上海附近にはクリークと稱する水路網が發達し、灌溉交通に盛に利用されてゐる。しかし今次支那事變の際は、我が軍の進撃上に多大の不利を與へた。



蘇州無錫は、生絲・絹織を産し、附近には勝地が多い。南京(江寧)は、要害の地を占め、古來屢、帝都となつた處で、郊外には史蹟が多く、最近新國民政府の首府として政治の中心となつた。我が大使館も置かれた。下關は、その外港で、對岸の浦口との間に連絡船を通ずる。北部の徐州海州は、交通上の要地

浙江省

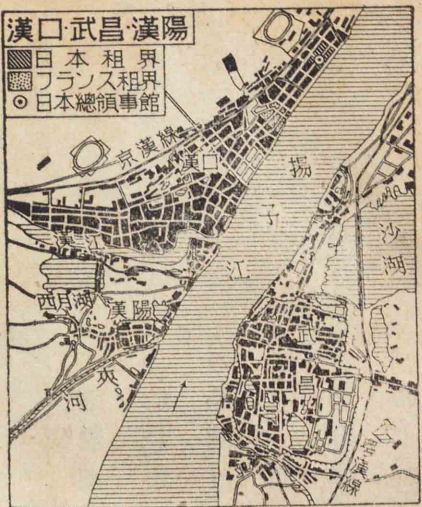
安徽省

江西省

湖北省

で、海岸に連雲港がある。浙江省は物産が豊で、富裕者が多く、杭州は大運河の起點に當り、絹織物を産する。安徽省は鐵山に富み、揚子江岸の蕪湖は河港で、米・茶を集散する。鄱陽湖は江西省の北部にあつて、附近は豊沃な江西平野となり、その附近に茶産地の九江避暑地の廬山、製陶地の景德鎮がある。南昌は水陸交通の要衝である。湖廣平野は、農工業が盛である。湖北省の漢口は中支那の

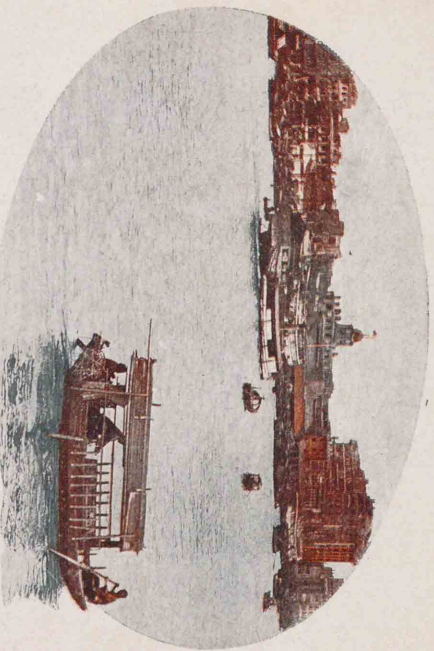
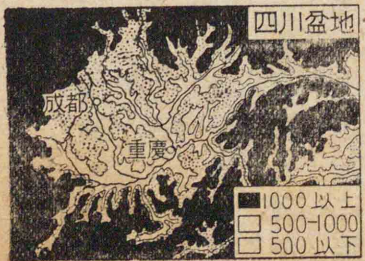




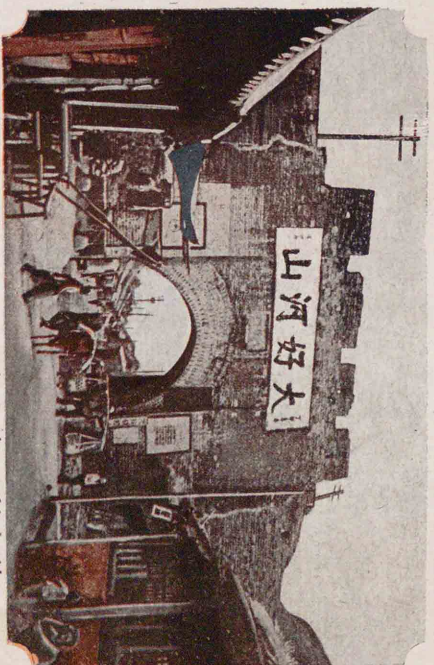
湖南省  
四川省  
西康省  
南支那  
廣東省

中央を占め、揚子江と漢江との會點に位し、水陸交通の要地となり、揚子江中流第一の貿易港で、茶棉・麻を輸出し、また紡績製油が行はれる。對岸の武昌は紡績、漢陽は製鐵に榮え、漢口と共に武漢三鎮と稱せられる。湖南省の洞庭湖は、風景が美はしく、長沙・沙市・宜昌は開港場である。四川省の四川盆地は天産が豊で、人口も多く、優

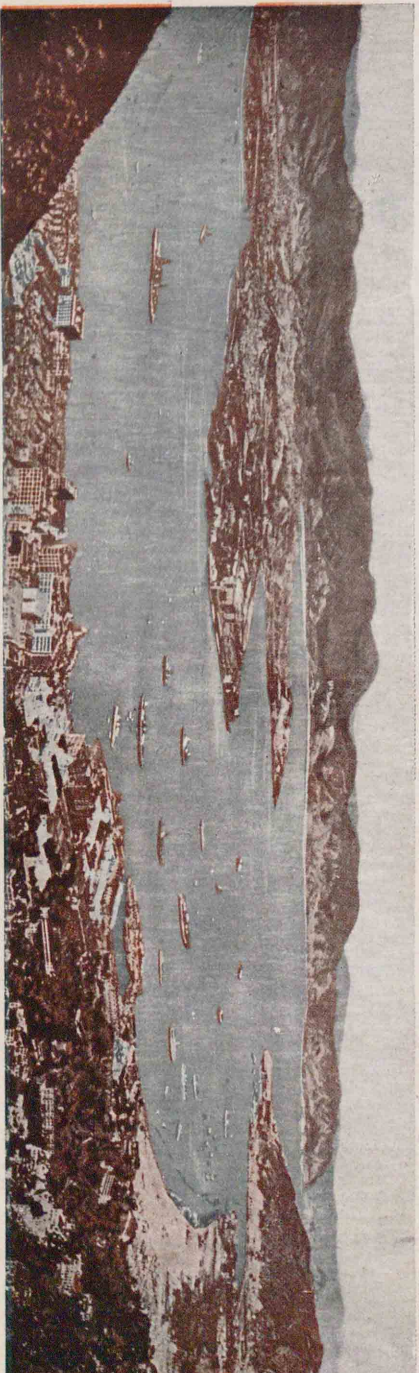
に一國の實力を有する。その中心重慶は河口より二千五百料、揚子江最上流の開港場で、生絲・茶・桐油を集散し、成都は生絲絹織物を産する。西康省の康定(打箭爐)は西藏に入る門戸である。



南支那第一の都 廣東



張家口(蒙古聯合自治政府の所在地)



香港より九龍半島を望む (手前はヴィクトリア港市)



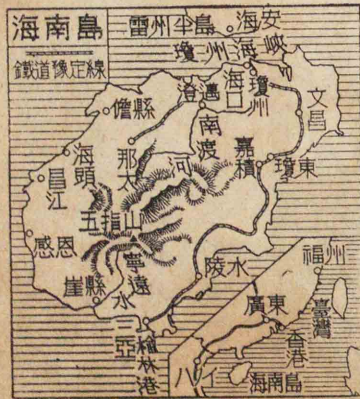
福建省  
廣西省  
貴州省  
雲南省  
海南島  
四二萬方  
三〇萬人



福州市街

が各中心である。蒙自騰越は佛領インド支那・ビルマに近い貿易市である。海南島は廣東省の一部である。我が臺灣より稍廣く、丘陵に富み、平地が廣い。氣候は熱帶性で、高温多雨なため、米甘蔗その他の熱帯生産に適し、又森林や鑛産に富み、將

アジア洲



四七

生産地である。廣東は珠江下流の貿易港で、生絲・絹織・花筵を輸出し、水陸の交通が便利なので、商工業が盛である。東部の汕頭、西部の北海は華僑の出入で賑ふ。福建省は臺灣の對岸で、我が國と關係が深く、福州・廈門は茶砂糖を集散し、臺灣との取引、華僑の出入で榮える。廣西省は珠江の流域で、桂林がその中心である。貴州省・雲南省は西部の山地で、未開地が廣く、貴陽・昆明(雲南)

北京郊外の  
石景山製鍊所

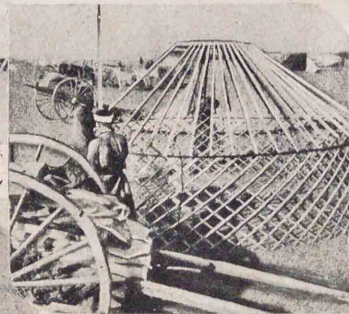


包頭市街

蒙古人と包



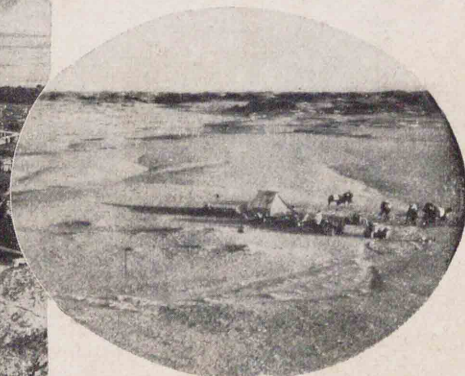
ラッサの達賴喇嘛宮殿



蒙古包の組立



ゴビ沙漠





香港

八三方軒

一壺萬人

九龍半島

五三五方軒

二五萬人

澳門

二方軒

六萬人

廣州灣

六〇方軒

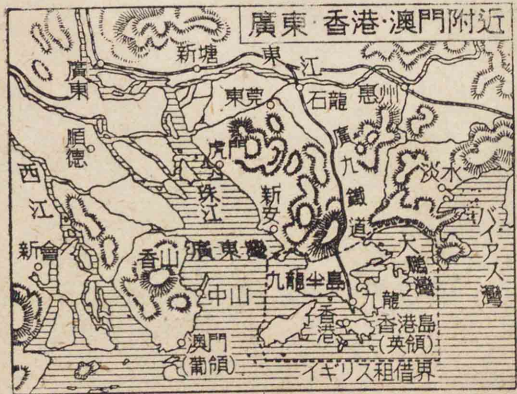
二五萬人



海口附近の水田

來の開拓が期待されてゐる。人口は三百萬餘で、漢族が多く、北岸の海口、南岸の榆林は良港で、同島の門戸をなしてゐる。香港は、廣東灣の一小島で、對岸の九龍と共にイギリス領である。港

市をヴィクトリアと稱し、自由貿易港で、仲繼貿易が行はれ、イギリスの東洋に於ける軍事・經濟上の重要な根據地である。北方の九龍半島は、同國の租借地である。澳門はポルトガルの領土、雷州半島の廣州灣はフランスの租借地である。



## 二、蒙疆地方

概説  
六〇萬方軒  
六〇萬人

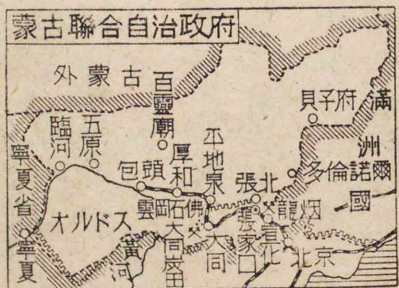
概説 滿洲國の西隣、舊の察哈爾・綏遠兩省に山西省の一部を加へた地方を蒙疆地方と呼ぶ。文化は未だ發達してゐないが、支那事變を契機として民族精神を高め、我が國の援助を得て政治上にも産業上にも急速な進歩を見つつある。

地勢氣候

地勢氣候 この地方は蒙古高原の南半で、一般に土地が高い。氣候は大陸性氣候で、盛夏には三十度を超え、酷寒には零下四十度にも達して、氣溫の差が著しく、且つ雨量が少いため、沙漠・草原が廣く連つてゐる。

産業・交通

産業交通 五原包頭附近の黄河の流域は、人工灌漑によつて農業が行はれ、高粱・小麥・大豆等を産し、主に漢族が従事してゐる。草原には、蒙古族によつて羊・山羊等の遊牧が行はれる。鑛産資源に富





住民政治

み、鐵は東部の龍烟に於て採掘し、北京郊外の石景山に於て精鍊される。石炭は大同附近で採掘されてゐる。その他天然資源が少くないが、未だ十分に利用されない。鐵道京包線は黄河沿岸の包頭より大同・張

家口等を経て北京に通じ、その地の大動脈となつてゐる。



龍烟の鐵鑛採取



坑 住民政治 住民は約六百萬人で、漢族が多く、蒙古族は僅かにその一割に過ぎない。昭和十二年、支那事變の初期に當り、皇軍によつてこの地の治安が回復せられ、やがて昭和十四年九月、張家口に蒙古聯合自治政府が樹立された。次いで新支那中央政權が樹立するや、これに参加して高度の自治區域となり皇



張家口の毛皮屋

軍援護の下に防共の前衛に任じてゐる。

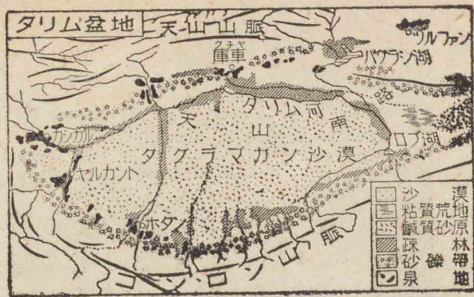
處誌 張家口は長城の一關門を占め、北京・外蒙に通ずる交通の要衝に當り、羊毛・毛皮の取引が行はれ、蒙古聯合自治政府の所在地である。北方の多倫諾爾は滿洲國と取引が行はれ、大同は石佛で名高く、附近には大炭田がある。厚和歸綏は外蒙・新疆に達する交通の要地、西方の包頭は、黄河に臨み、京包線の終點で水陸交通の要衝である。西方黄河の屈曲點一帶は、人工灌漑によつて沙漠を開き、農業が盛に行はれ、五原はその中心となつてゐる。

三、外蒙古

外蒙古はゴビ沙漠の北部を占め、西はアルタイ山脈から東は興安嶺に接する廣大な地域で、一帯に高原が連り、北するに従ひ、低下してソ聯領シベリアにつゞく。雨量は少く、草原・沙漠の處が多い。



蒙古人民共  
和國  
ソソ人民共  
和國  
天山南路  
天山北路



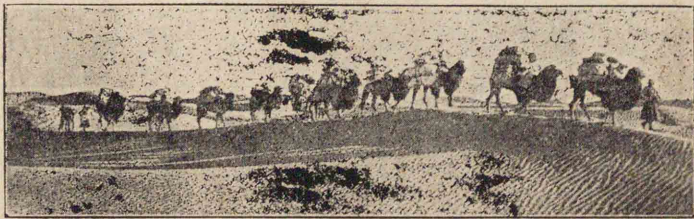
アジア洲

人口は七十萬餘で蒙古族が多く、遊牧生活を行ひ、喇嘛教を信じてゐる。現在、ソ聯の援助を受けて獨立を宣言し、蒙古人民共和國と稱してゐるが、恰もソ聯の一部なるかの觀がある。首府庫倫(ウランバートル)は、政治宗教の中心で、毛皮・羊毛・茶等の取引が行はれ、買賣城(アルタンブラク)はシベリアのキヤフタと交易をする。

外蒙古の北西部山地に居住する蒙古族は、自らソソ人と稱し、ソソ人民共和國を設立し、ソ聯の支援を得て支那より分離してゐる。

#### 四、新疆

天山山脈によつて天山北路天山南路に分れ、大陸性氣候で雨量が少い。天山南路のタリム盆地は大部分が沙漠で、益



タクラマカン沙漠を渡る隊商

五二

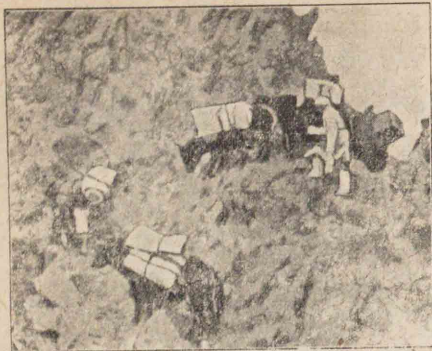
地周縁の河岸は、僅かに農業・牧畜が行はれ、ヤルカンド・ホタン等の聚落が発達してゐる。天山北路はイリ河の流域で、降雨量が多く、農業・牧畜が行はれ、首府迪化はその中心である。住民はトルコ族が多く回教を信じてゐる。

#### 五、青海

崑崙山地の一部を占め、不毛の部分が多く、人煙稀な高原である。首都西寧は、北支那の蘭州より西藏に至る通路に當り、交通上の要地である。

#### 六、西藏

ヒマラヤ・崑崙二大山脈間に横たはる一大高原で、高さ平均四千米に達する。ヒマラヤ山脈は、交通の大障壁となるばかりでなく、インド洋の水分を遮るので、城内は雨が少く、沙漠草地・鹹湖が各地に點在してゐる。西藏族は、三百七十萬で、牦牛・羊の牧畜を營み、喇嘛教を信ずる。喇嘛教主達賴喇嘛は薩拉に



商隊の牛

アジア洲

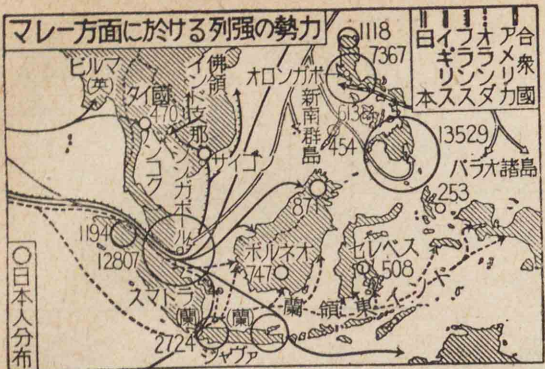
五三



アジア洲  
在つて、政治宗教の實權を握つてゐる。

日本と支那 支那は我が國に最も近く、昔から互に往來し、文化を同じうして、その關係は世界何れの國よりも密接である。我が國は今次事變により在來の容共抗日政權を打倒し、善隣友好協同防共經濟提携の實現を圖り、既に親日防共政府は樹立され、北支那開發、中支那振興の二國策會社も設けられ、戦後の復興と資源の開發とは次第に實績を擧げて來た。そのため、在留邦人は事變前に數倍し、支那の對日貿易は振興して諸國中第一位となつた。滿洲國に隣接する外蒙古は既に赤化した、が内蒙はソ聯勢力の南進を阻止する重要な位置に位して、我が國と共に防共に努めてゐる。我等日本國民は新興支那滿洲國と共に、新東亞を建設し、アジア民族のアジアを確立することに邁進すべきである。

概説



○日本人分布  
アジア洲

第三章 南部アジア

南部アジアは熱帶季節風帶に屬し、世界有數の大生産地である。インド支那半島、マレー諸島及びインドを含み、原始民族が多く、大部は歐米諸國の植民地である。

第一節 インド支那半島 マレー諸島



概説 インド支那半島、マレー諸島は、アジア大陸と、オーストラリア大陸との中間を占め、兩大陸をつなぐ陸橋の如き觀を呈し、また太平洋とインド洋とを區別してゐる。世界屈指の熱帶生産地域で、豊富な資源と多數の未開住民の消費力とは經濟的價値を大



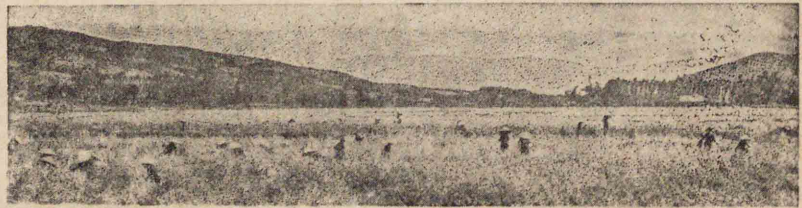
らしめ、この地方は今や列國勢力の活動舞臺となつた。



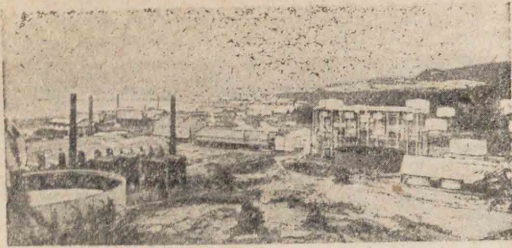
地勢氣候

の大河が南流し、夫々下流に肥沃な平野を造つてゐる。熱帯季節風帯に屬し、夏は南西風が卓越し、驟雨が多く農業に適するが、冬は東北風が吹いて雨量が少く、乾期となる。東部には夏季に屢、颱風が襲ふ。

産業 資源は豊富であるが、資本・勞力が不足なの

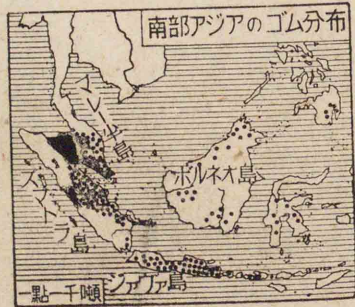


インド支那の米田



ボルネオの油田

で、未開地が廣く、英蘭・佛米等の投資により、僅かに開發されてゐるに過ぎない。農業では米・玉蜀黍・甘藷・煙草等が自給上、土着民によつて作られ、世界一の米の輸出地となつてゐる。白人の投資により、低廉な勞力を利用して農園が經營せられ、甘蔗・椰子・茶・珈琲・規那・ゴム・マニラ麻等を産出し、ゴムは世界總産額の九割に及んでゐる。到る處熱帯林が繁茂し、インド支那半島のテイク、フィリピン、ボルネオのラワン、藤が著はれてゐる。鑛産では、マレー半島と、これに續くバンカ、ビリトン兩島の錫は世界の過半を占め、スマトラ、ボルネオの石油、佛領インド支那の石炭、英領マレーの鐵、マレー半島、ビントアン島のボーキサイト等も知られる。漁業も盛んで、鱈・鮪・鰹等の漁獲が多く、遠洋漁



南部アジアのゴム分布



三〇〇萬人

三萬方糶  
一五〇萬人



緩衝國としてのタイ國

業には邦人の活動する者が少くない。

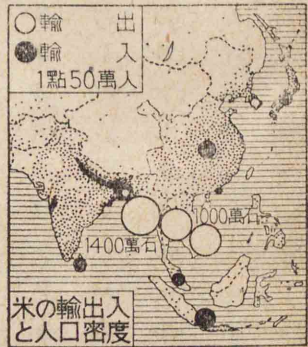
佛領インド支

那 十九世紀

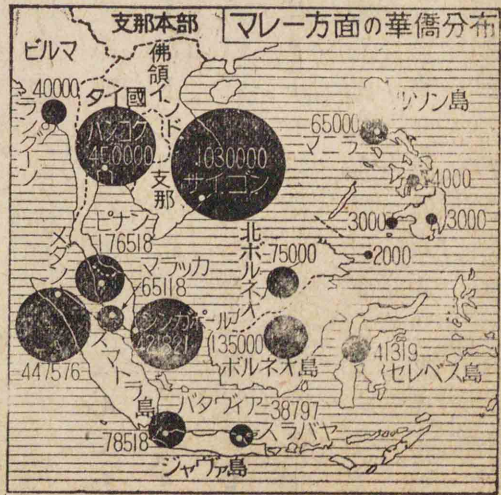
末にフランス領となつた。

川・ソンコイ川下流の平野は米を産

し、ハイフォン・サイゴン(サイゴン米)よ



米の輸出入と人口密度



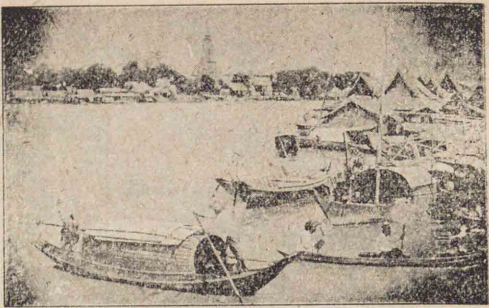
支那本部

マレー方面の華僑分布

り輸出し、シロンは精米が盛である。これ等は主に華僑の手によるものが多い。首府ハノイは支那の昆明・龍州に鐵道を通ずる。

タイ國(シム) 英佛領土の中間に位する立憲君主國である。住民はタイ族と稱し、佛敎を深く信じ、到る所に

バンコク



壯麗な寺院が多く、特殊の景觀を呈する。華僑は住民の五分の一を占め、經濟上の實權を握つてゐる。平野に米、半島部に錫、北部山地にテイクを産し、首府バンコクはその集散地として榮え、バクナムを外港とする。古來我が國との關係が深く、近年我が文化を輸入し、兩國間に定期航空が開かれるに至つた。タイ佛領印度支那間に國境の紛争があつたが、一九四一年日本の調停により、タイ佛印間に平和條約が締結され、兩國の友好關係を回復せしむると共に、東亞共榮圈確立に資した。

ビルマ

二四七萬人

三萬方糶

英領マレー

半島

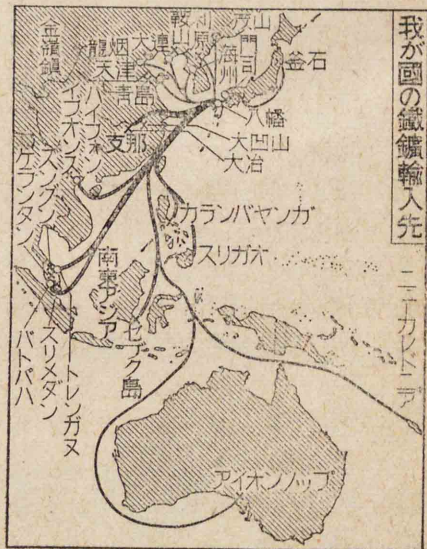
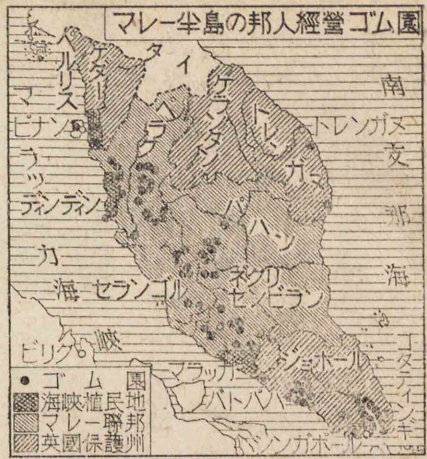
三萬方糶

五〇萬人

ビルマ ビルマは近年インドより分離して、イギリスの直轄植民地となつた。平野は米産地で、首府ラングーンは其の輸出に榮え

山地はテイク材を出し、その他石油、寶石、錫が多い。英領マレー半島 西岸はゴムの栽培に適し、世界需要の四割を出し、また椰子、パイナップルも栽培されてゐる。鑛産も多く、錫は世界

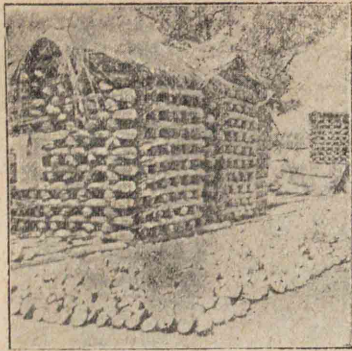




第一の産額を有し、鐵は邦人によつて採掘せられ、殆ど我が國に供給されてゐる。華僑は住民の四割を占め、盛に活

蘭領東インド  
一四萬方  
五〇〇萬人

動してゐる。シンガポールは、半島の南端にある小島に發達した都市で、東西交通の要衝に當り、イギリスの東洋に於ける海軍根據地をなし、錫、ゴム、香料等を輸出し、ロンドンとの間に航空路が開通してゐる。またマラッカ、ピナンと共に我が商船の寄航地である。蘭領東インド面積はオランダ本國の六十倍に達し、我が國の約三倍に當り熱帯資源が頗る豊富である。スマトラは、石油、錫、ゴム、



籃とコブラ

地として著れる。ボルネオ島は世界第三の大島で、蘭領はその大部を占め、木材、籐、燕窩、椰子、ゴム、石油等を産し、バリクパバンは我が商船の寄航地である。

北部 英領で、ゴム、石油等を産し、北方のサンダカン附近に







アバカ マニラ麻の原料

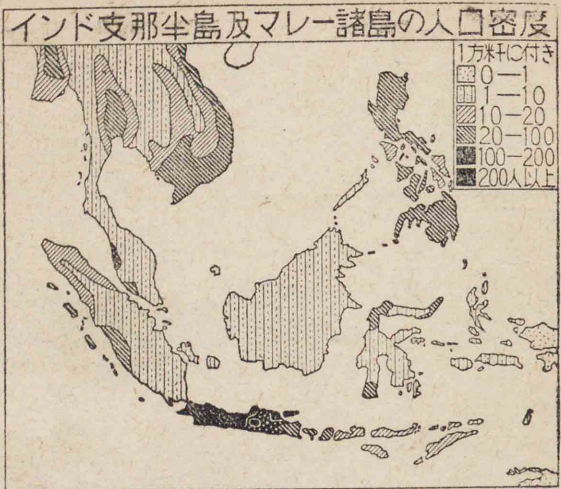
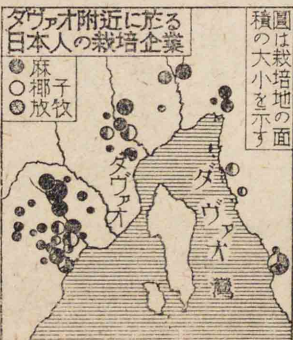
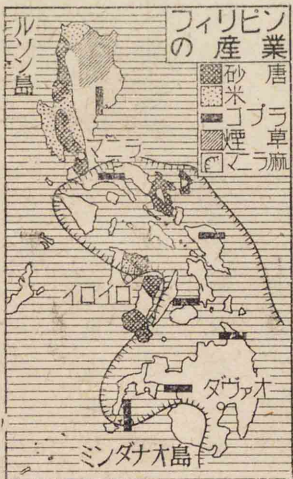
邦人のゴム園がある。

セレベス島は珈琲・香料を産する。モルッカ島は丁子・肉桂・肉荳蔻・胡椒等の香料の産が多く、古來香料諸島と稱せられ、アンボynaはその輸出港である。

米領フィリピン 熱帯性氣候で、颱風の被害を受けることが多い。甘蔗・煙草・椰子・マニラ麻米等が栽培せられ、ダラオ附近には邦人約一萬四千人が栽培事業に活躍

米領フィリピン  
三萬方軒  
三〇〇萬人  
住民政治

東洋艦隊の根據地である。  
住民政治 住民  
は一億二千萬に  
餘り、民族は複雑

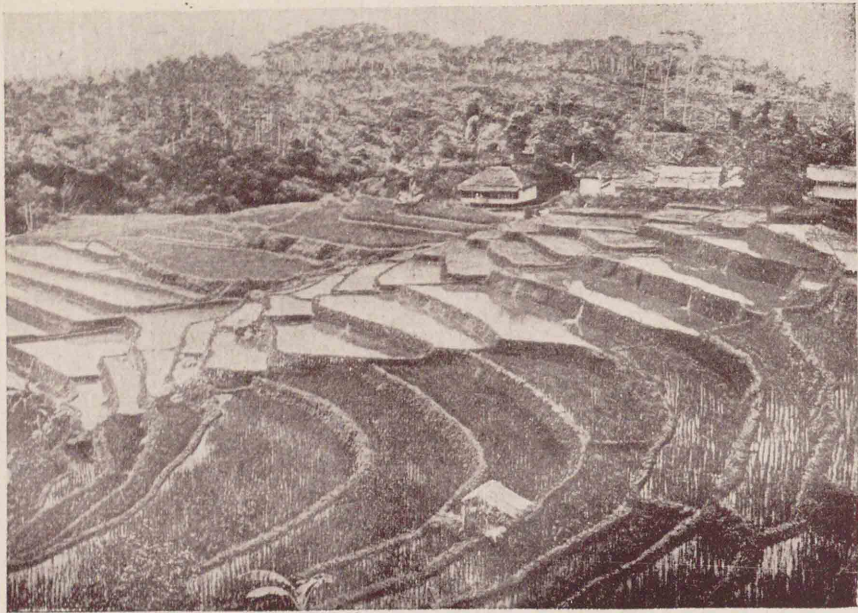


日本との關係

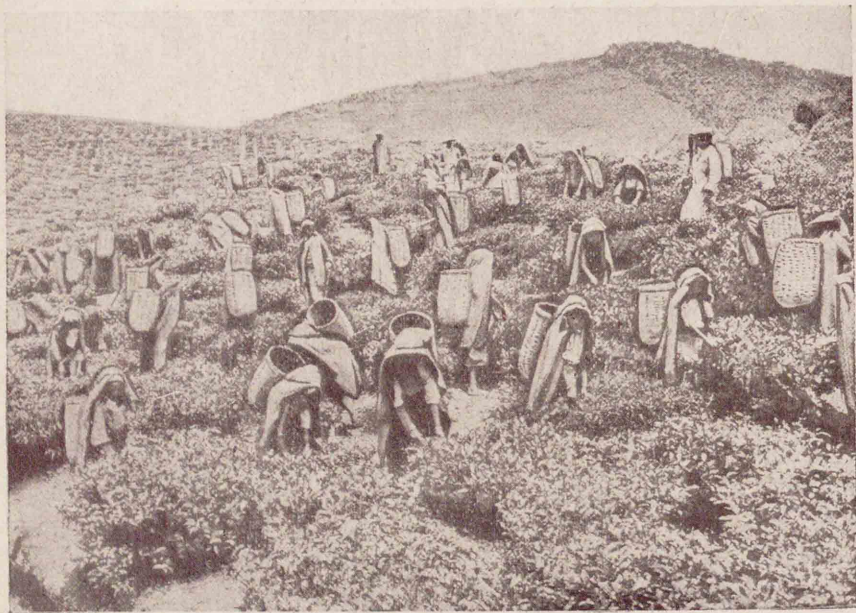
化が向上するに従ひ、民族的に自覺し、佛領インド支那・ビルマ・フィリピン等に獨立の機運が動いて來た。

日本との關係 この地方は我が國に接近し、古來往來が繁く、その關係が密接である。我が國の南洋投資は三億圓に上り、ゴム・椰子・





フィリピンの階段状水田



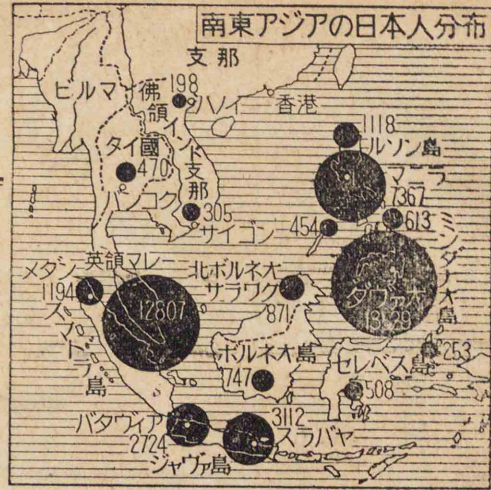
セイロン島に於ける茶摘

概説  
三〇〇〇萬人  
四〇〇萬方軒

概説 インド洋に突出する三角形の大  
半島とその基脚部とから成り面積は我

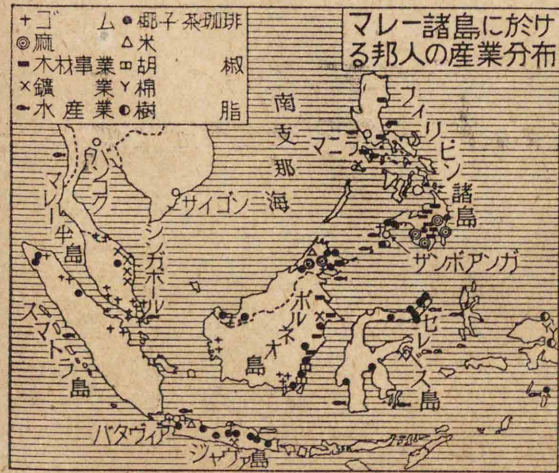
第二節 インド

多く、経済上頗る重要な關係を有して  
ある。

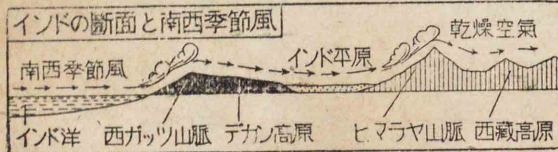
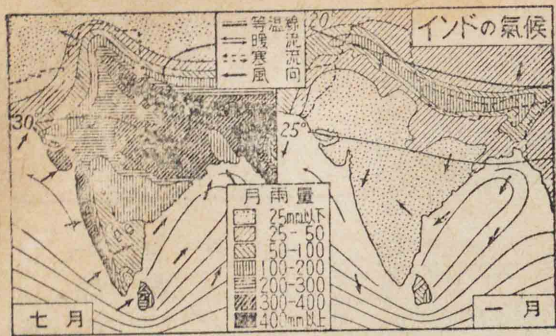


アジア洲

木材・鑛業・漁業等の諸事業を經營し、商業・農業に  
従事する者も多く、その數は五萬人に達する。  
我が國はこの地方より、ゴム・砂糖・麻・木材・石油・鐵  
等を輸入し、我が織物類・石炭・雜貨等を輸出して、  
貿易高は七億三千  
萬圓(昭和十二年)に  
及び、我が歐洲・濠洲  
兩航路の寄航地も







地勢  
北部山地  
ヒンドス  
タン平原  
デカン高原

が國の約六倍に當る。大部は熱帯に屬し、世界的の豐饒地である。世界最古の文明が起り、熱帯中、人口の最も稠密な地方である。

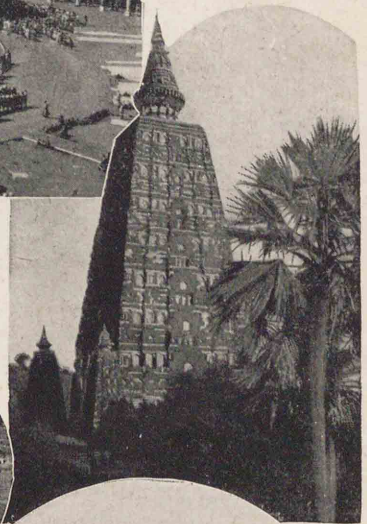
地勢 北部には世界の最高峯エヴェレスト(八八八二米)を戴くヒマラヤ山脈やカラコルム山脈等、高峻な山脈が連つてゐる。この山脈の南方は大生産地のヒンドスタン平原で、ブラマプトラ、ガンジス、インダス等の諸川が流れる。半島部の大半はデカン高原が占め、東方に緩斜し、西縁は海岸に急斜してゐる。海岸は一般に單調で、良港灣に乏しく、半島の南端に近くセイロン島がある。

氣候 大部は熱帯で、一般に高温であるが、北西部の山地は溫和である。夏季は南西季節風がすぐれ、西海岸北部山麓に降雨が多く、中にも東

ブダガヤの大塔



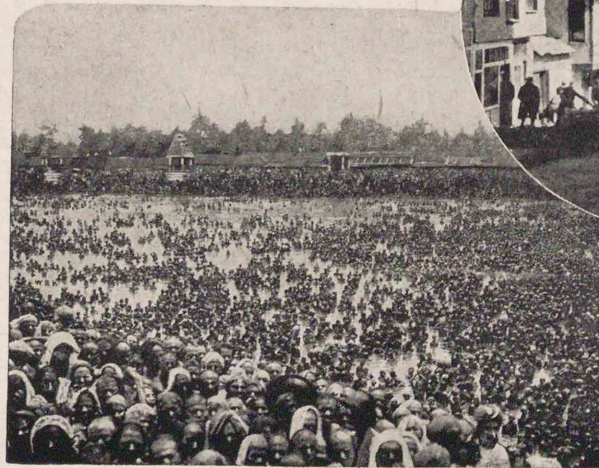
メッカの回教靈場(カーバ)



デリー市の鳥瞰

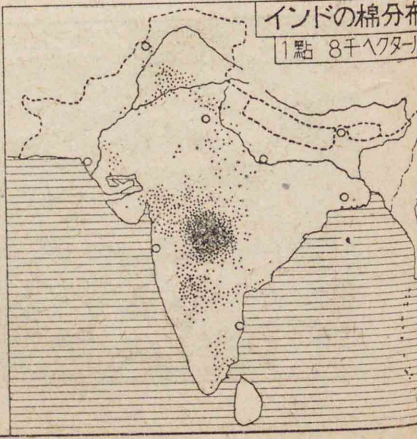
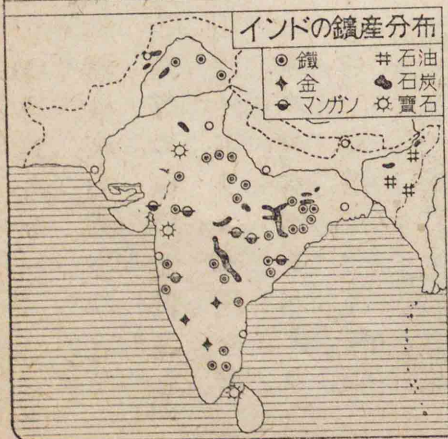
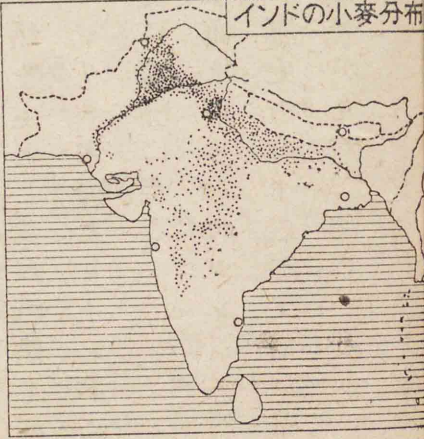
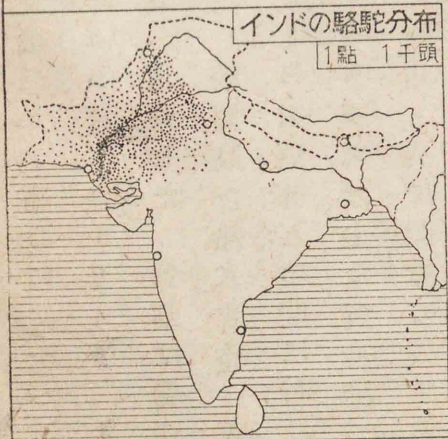
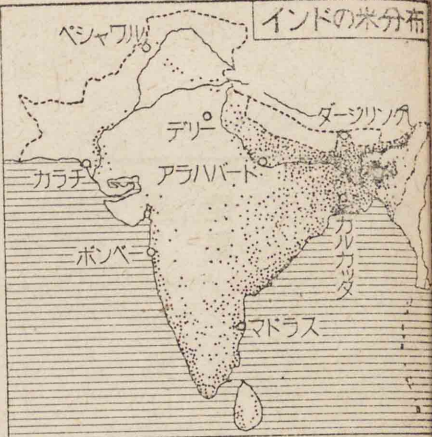
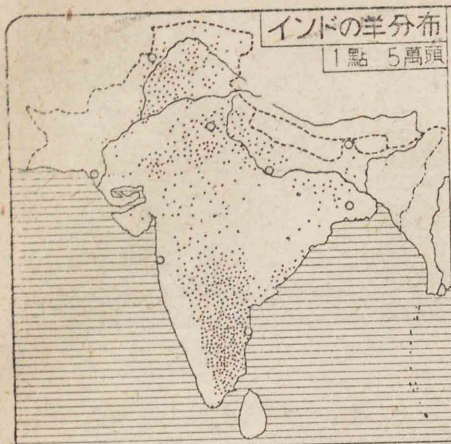


アンカラ  
(トルコの首府)

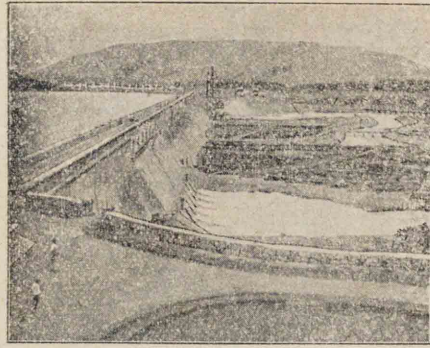


ヒンズー教徒の沐浴





産業・交通  
農業



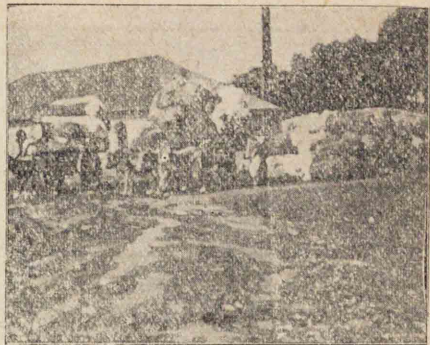
インドの人工灌漑

部山麓のアッサムの雨量は世界第一である。冬季は北東風となり、一般に乾期となる。北西部は雨量に乏しく、草地・沙漠が廣い。  
**産業交通** 平地・高原は開拓が進み、農耕が行はれる。雨量の多いガンジス河流域は米・甘蔗・黄麻の世界的産地で、アッサムやセイロン島には茶が多い。その他菜種・落花生・阿片の産も夥しい。

甘蔗・米の産額は現在世界第一であるが、殆ど国内で消費せられ、国際市場には出ない。茶園の多くは白人の所有にかかり、主に紅茶・緑茶を産し、我が國の茶と競争の地位にある。

デカン高原は棉作に適し、米國に次ぎ、世界第二の産地である。西部の少雨地には大規模の人工灌漑が行はれ、主に大麥・小麥が作られる。家畜を耕作に利用するので、到る處に黄牛・水牛が飼養せられ、北西部には駱駝・羊等が多く、皮革の産が有名である。鑛産は北東部に





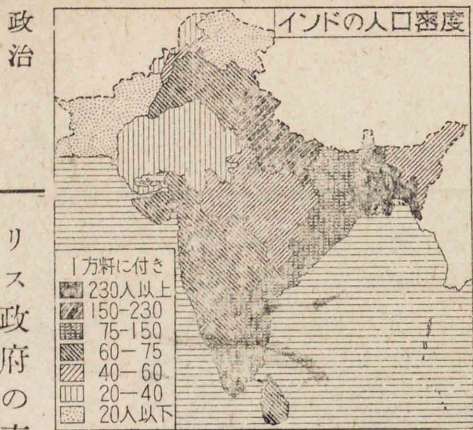
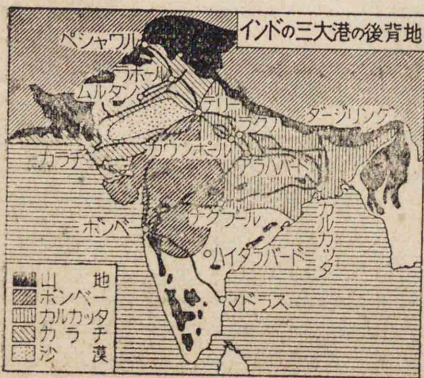
インドの棉搬出

石炭・鐵・デカン高原に金・マンガンの産がある。近年ボンベイ・カルカタ等には紡績・製麻・製鐵等の近代工業が勃興した。貿易は農産・畜産等の原料・食料品を輸出し、精製品を輸入する。取引はイギリス本國を第一とし、日・米・獨等との間に行はれ、カルカタ・ボンベイ・カラチ・マドラスは主な貿易港である。鐵道は七萬軒に近く、河川と共に開發に役立ち、

牧畜 工業

住民

海運はイギリス船を主とし、我が汽船も活躍してゐる。イギリス本國よりインドに通じた空路は、更に濠洲に至る。  
**住民** 三億七千萬と稱せられ、ガンジス河下流に多く、古い歴史を有するが文化の程度は低く、無教育者が九割に及んでゐる。



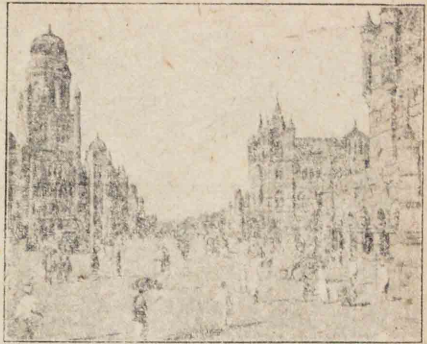
政治

處誌

リス政府の直轄地となつた。ベルチスタンを含み、インド帝國と稱し、イギリス國王を皇帝に仰ぎ、總督によつて治められる。近年民族精神が高まつて來て自治獨立を要求してゐる。  
**處誌** カルカタはインド第一の都會で、ヒンドスタン平原の大生産地を控へ、貿易が盛に行はれ、近時紡績・製麻等の工業が勃興した。ベナレスはヒンヅー教の聖地である。デリーはムガル帝國の

アジア

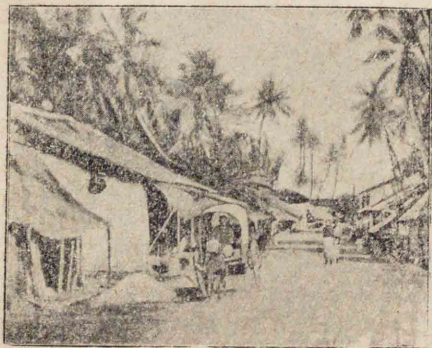
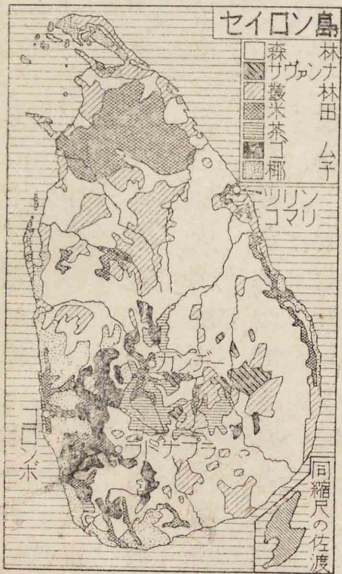




舊都で、壯麗な宮殿寺院が多い。近郊にニューデリーを建設し、こゝに總督府を移した。ボンベイはデカン高原を後背地として綿工業、棉花の輸出に榮え、我がボンベイ航路の終點である。

セイロン島 イギリスの直轄植民地である。年中高温多雨で、茶・ゴム・椰子・珈琲及び亞鉛・寶石を産する。首府コロンボは貿易港で、歐洲南

阿等に  
至る我  
が諸航  
路の寄  
航地て  
ある。



セイロン島の景觀

日本とイン  
ド

ネパール・ブータン兩國はヒマラヤ山中の小王國で、英國の勢力が強い。日本とインド 曾てこの地に起つた佛教は、種々の文化を伴つて我が國に傳り、我が文化の發展に大きな影響を與へた。今日では米國・滿洲國に次ぎ、我が國第三の貿易相手國で、我が綿布・雜貨を輸入し、棉花・牛皮・麻等を我に供給してゐる。近年國內産業を保護せんがため、日本綿布の輸入を制限するに至つた。カルカッタ・ボンベイ・コロンボは我が汽船の寄航地である。

### 第四章 南西アジア

概説

概説 アジア・ヨーロッパ・アフリカの漸移地帯に當り、乾燥氣候で、草地・沙漠が廣く、農業・牧畜が行はれる。住民は五千三百萬に達し、何れも回教徒で、多くは白人の勢力下にあるが、近年民族的に自覺し、次第に獨立しようとする氣運が盛になつた。

アジア



地勢氣候産業

アジア

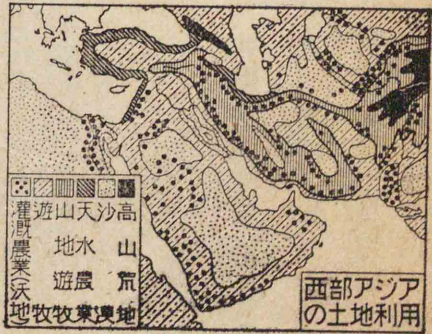
地勢氣候産業 北部にはイラン高原が東西に連り、南部のアラビア高原との間にメソポタミア平原・ペルシア灣を挟む。高原は酷熱寡雨で、草地・沙漠が連り、アラビアの泉地に、馬駱駝、北部高原に羊・山羊等の牧畜が行はれ、絨毯・葡萄等を産する。メソポタミア平原はティ



ユーフラテス河畔の景觀

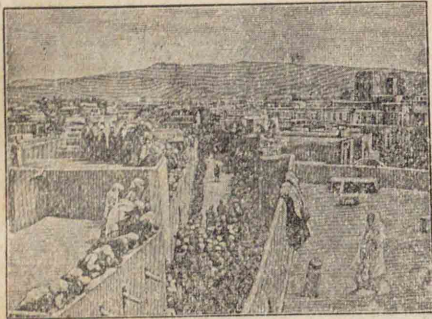


ユーフラテス、兩河の流域を占め、世界最古のバビロニア文化の發祥地である。今では小麥・煙草・棉・棗椰子等を産し、文化は低い。地中海沿岸は、棉・玉蜀黍・葡萄・オレンジ等



西部アジアの土地利用

交通 住民政治  
イラン  
一畝萬方  
二五〇萬人



テヘラン

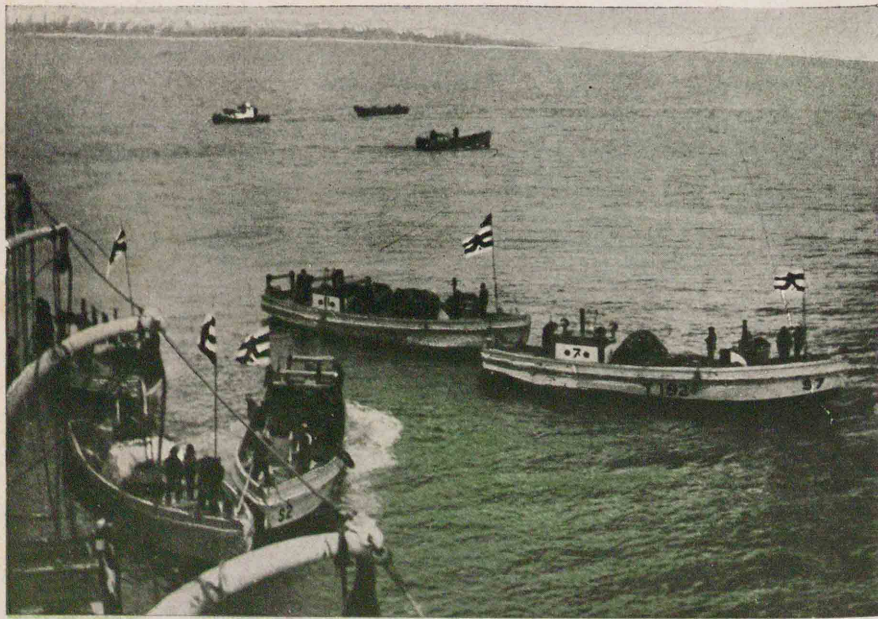
アジア

を産し、紅海沿岸のモカ珈琲は、良質で著れる。イラン高原の南西部にはモスルを中心として石油を産し、送油管により地中海・ペルシア灣沿岸に送られる。交通 アジア・ヨーロッパ・アフリカ三大陸の連絡點に當り、古來交通上の要地である。歐亞をつなぐバグダッド鐵道（スクタリ・バスラ）は完成に近く、高原の横斷線や、ヘジャス鐵道も通じた。英・佛の航空路も、この地を経てインド・南洋に通じてゐる。住民政治 コーカシア人種に屬するイラン族・セム族、アジア人種のトルコ族が大部を占め、何れも回教を奉じてゐる。イラン地方はイギリス・ソヴィエト聯邦間の緩衝地帯となつてゐるが、ベルチスタンは既にインドに併合せられた。イランはテヘランを首府とする獨立の立憲王國で、近年國力が回復した。



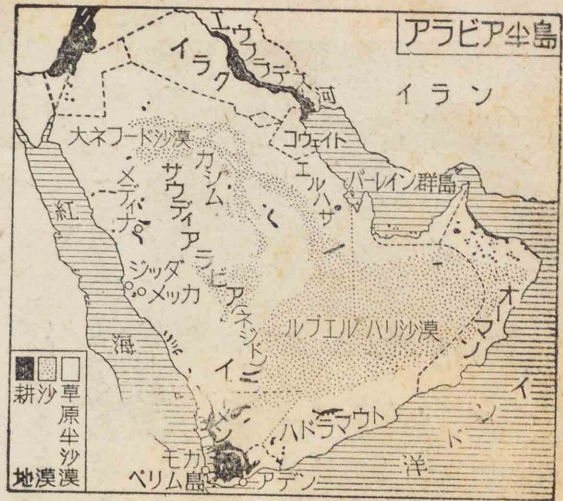


シベリアの落葉松の原始林



北洋に活躍する我が漁船

トルコ(歐洲)  
の領土を合  
む  
一三〇萬人  
其萬方軒

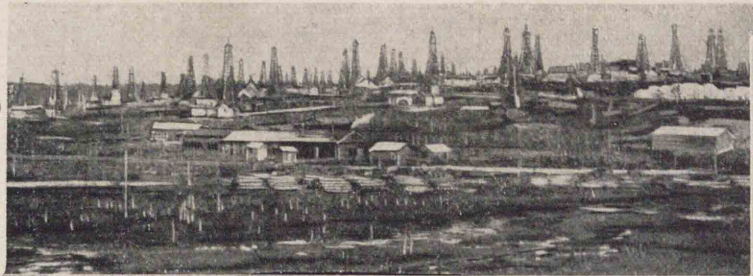


アジア洲

七四

アラビア半島はセム族が多く、曾てはトルコに属してゐたが、歐洲大戰後分割されて、英佛兩國に統治を委任せられた。近年回教徒の活動は目覺しく、**イラク**は既にイギリスの委任統治を離れて獨立し、**シリア**も亦フランスとの間に獨立の協定が成立した。**サウディアラビア**はアラビア半島の大部を統一して、英領の**アデン**及び英國保護下の**オーマン**と對立してゐる。英國はその委任統治地**パレスタイン**にユダヤ人國家を建設せんとして、多くのユダヤ人を集結せしめてゐる。**イエルサレム**はキリスト教の聖地で、巡拜者が多く、東方に**ケラク**がある。**トルコ**は海峽地帯を挟み、歐亞に跨る立憲共和國である。曾ては強大な國家であつたが、歐洲大戰に敗れて領土が縮小した。





北樺太のオハ油田



キルギスの草原



ツングースのキャンプ



カムチャツカの東海岸



ウラディヴォストク港

日本と南西  
アジア

首府アンカラは牧畜の中心で、交通の便がよく、イスタンブールは黒海三の入口を扼し、歐亞連絡の要衝である。

サイプラス島はイギリス、ロードス島はイタリアに属し、何れも地中海東部に於ける軍事上の根據地である。

日本と南西アジア 近年、本邦綿製品の進出は著しく、我が國は棉食鹽・石油等を彼に仰ぎ、貿易は將來性を有する。

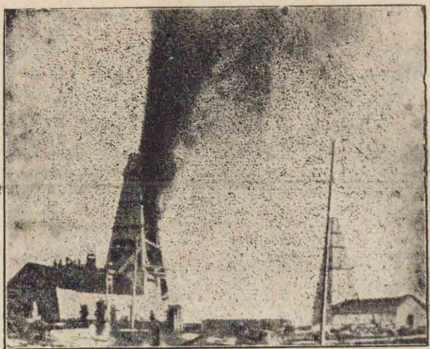
#### 第四章 ソ聯領アジア

ソ聯領アジアは、北極海斜面及びこれにつゞく内陸流域及び太平洋斜面・コーカシアを主とする地域で、アジア洲の三分の一に達する廣大な面積を占め、ソヴェト聯邦全面積の四分の三に當つてゐる。

##### 第一節 コーカシア

裏海・黒海の間位し、コーカサス山脈によつて内コーカシア・外コーカシア





バクールの油田

イカシアに分れる。内コーカシアはロシア共和国に  
屬し、外コーカシアはアゼルバイジャン、アルメニア、ジョー  
ジアの三共和国より成る。北部の草原では牧畜が行  
はれ、南部の沃野には葉煙草、棉花、葡萄、茶を産する。ま  
たバクールの附近に産出する石油は、バツームに送油管  
を通じ、<sup>五</sup>ここから歐洲各地に輸出される。

石油の産地

### 第二節 中央アジア

裏海東方の内陸流域を主とし、西部はキルギス草地、ツラン低地が  
連り、その間にバルハシ湖、アラル海等の鹹湖がある。沙漠、草地が  
廣く、牧羊が行はれ、又河畔は灌漑によつて棉花、小麥、果實、繭等を産  
する。中央アジア、タシケント、トルクシブ鐵道は相連つてサマル  
カンド、タシケント等の都市を通じ、政治、經濟上の重要線となつて  
ゐる。<sup>二</sup>住民は回教徒のトルコ族が多く、ソ聯はこの地と民族、宗教

の同一な新疆、アフガニスタンに進出を企ててゐる。

### 第三節 シベリア

概説 主として北緯五十度以北に位し、著しく北偏する廣大寒冷な地域  
で、面積は我が國の十九倍に當る。滿洲國、支那及び我が國に隣接し、これ  
等の諸國と重大な關係を有してゐる。

地勢 南東部にサヤン、ヤブロノイスタノヴォイ等高峻な山脈が連

り、北西に緩斜して廣大なシベリア平原となり、こゝにオビ、  
イニセイ、レナ等の大河が流れてゐる。黒龍江は、滿洲國と  
の境をなして流れ、オホーツク海に注ぐ。南境に近く、世界  
最深のバイカル湖（四六二米）がある。太平洋岸にはカムチャ  
ツカ半島が突出してオホーツク海を抱き、北極海沿岸は出  
入が多い。

氣候 冬季が長く、寒氣が酷しいので、河川が凍結し、レナ河

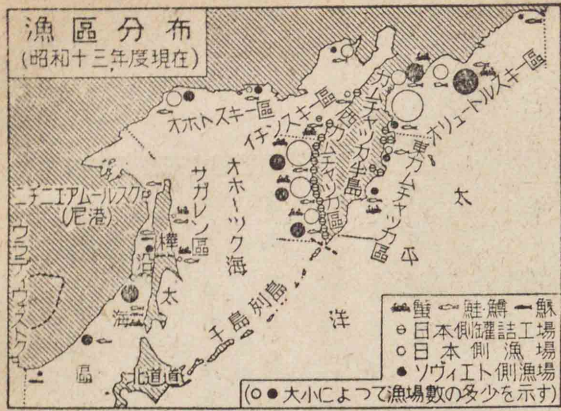
二五〇萬方  
一五〇萬人  
概説

地勢  
氣候

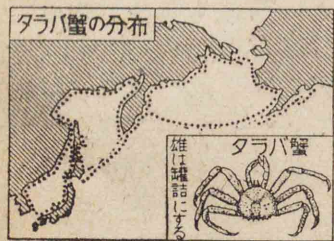


シベリア河川の結氷期間





アジア洲



オホーツク海及び附近の河海は鯨・鱈・鮭・鱈・タラバ蟹等の水産に富み、我が國も漁業權を有するので、日ソ兩國から出漁するものが多く、殊に夏季の漁獲が大規模である。ニジニアムールスク（ニコライエフスク）及びカムチャツカ半島東岸のペトロパヴロフスクは漁港で、邦人發展の根據地である。コマンデル諸島は、臘豚獸の繁殖地として名高い。

ク及び西部のクズネツ・イルクツクには製鐵・車輛・航空機・製粉等の工業が發達した。東部のウラディウオストクはシベリアの門戸で、商港・軍港を兼ね、車輛・兵器・食料品・造船等の工業が行はれ、敦賀との間に定期航路が開かれてゐる。



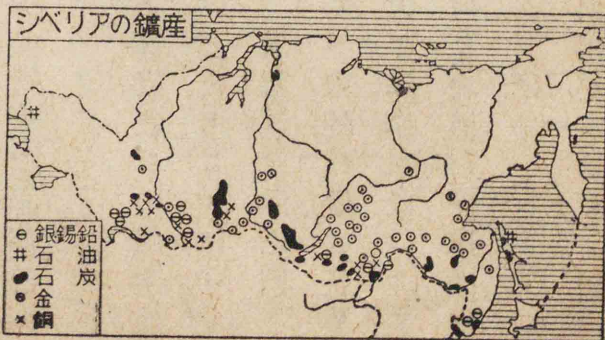
産業・處誌  
高地帯

流域には世界の寒極がある。夏季は短い、大陸性氣候のため割合に暑く、森林が繁茂し農業が行はれる。

地勢・氣候・産業等の關係上、一、高地帯、二、草地帯、三、森林帯、四、凍土帯の四區に分けられる。

産業・處誌 一、高地帯 南東部の山岳地帯で、礦物の埋藏が多く、石炭はソ聯第一のクズネツを初め各地に産し、金・鐵・銀等も多く、また我が國の經營

が國の經營にかゝる北樺太のオハ油田・ツエ炭田も知られてゐる。豊かな礦産を利用し、東部のハバロフスク・コムソモルス

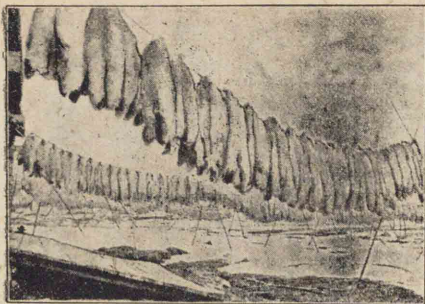




草地帯

アジア洲

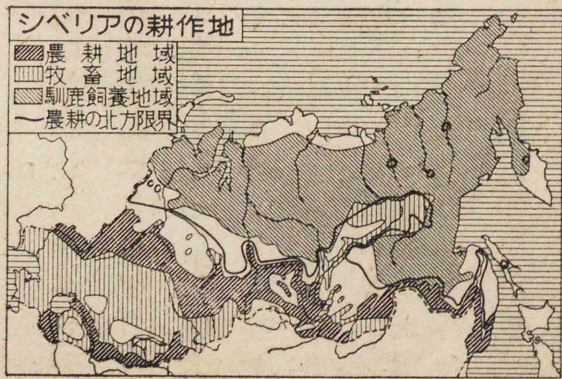
森林帯



乾燥の毛皮のツクヤク

(二)草地帯 主としてオブ河の流域で、肥沃な黒土に被はれ、夏に雨が多いので、麥類・馬鈴薯等を産し、シベリアの穀倉と稱せられる。また牧畜も行はれ、牛酪等を産する。  
オムスグ・トムスグはその中心で、ノヴォシビルスクは、中央アジアに至る鐵道の分岐點に當り、近時急速に發達し、商業が榮えてゐる。西方のウラル山脈は林産・鑛産が豊で、ペルムス・ウエルドロフスクの鑛業都市がある。

(三)森林帯 草地帯の北を東西に連る密林地帯で、木材・毛皮・獸・狐・貂・栗鼠・狼を産し、チタ・ヤクーツクはその集散



八〇

凍土帯

地である。

(四)凍土帯 低地で一年の大部分は凍結し、夏季は僅かに蘚苔類を生ずる。土人は馴鹿を飼ひ、狩獵を行つてゐる。近年ヨーロッパからこの地を経て、北米・極東に通ずる航路・航空路が着眼せられた。

交通・商業 鐵道が普及せず、今なほ家畜が交通機關として用ひられ、冬は橇の利用が多い。概ね河川は、結水期が長く、水運の利が少いが、夏季はよい航路となる。シベリア横斷鐵道は、歐亞連絡の大幹線で、政治上・經濟上重要視されてゐる。

シベリア横斷鐵道 北アジア横斷の世界最長鐵道(ウラディヴォストク・チェリアピンスク)で、これを利用すれば、東京・ロンドン間の旅程が十八日(北米經由二五日、スエズ經由五〇日)である。軍事上の目的で、十二箇年の歳月と、十七億圓の國費とを以て完成(一九〇一年)したが、今や産業上の價值も大で、沿線一帯を開發し、農産物をヨーロッパの市場に送る。

アジア洲

八一



また近時、極東經營のためにバム鐵道(タイシエトソウガワニ)を建設中である。航空路は、ソヴェト聯邦本國と連絡し、またシベリアの沿岸各地を連ねてゐる。貿易は主にソヴェト聯邦本國を通じて行はれるが、ウラディウオストクを経由するものも多い。輸出品は、穀物、畜産、礦物、水産物で、輸入品は、加工品、茶等である。

住民政治

住民政治 住民の九割はロシア人である。初めは流刑植民地であつたが、シベリア鐵道の開通後、農民の自由移住が著しく増加し、鐵道沿線に移民の定着を見たもので、この外に少數の原住民が住んでゐる。居住民族の種類により自治州と直轄州とに分れ、何れもロシア共和國に屬してゐる。十六世紀以來のロシア極東政策は今も依然つゞけられ、一九二四年には外蒙古を獨立せしめて、これを共產化し、また近年極東軍を増派し、經濟を強化して絶えず隣國への進出の機を覗つてゐる。

日本とシベリア

日本とシベリア 明治三十七八年戰役の結果、我が國はロシアより南樺太を取り、カムチャツカ半島、オホーツク海沿岸の漁業權を獲得した。また第一次歐洲大戰後、北樺太の石油、石炭の採掘權を得、今や北洋に活躍する邦人は二萬數千人に上つてゐる。然るに近年、ソ聯は滿洲國境を侵してその治安を亂し、支那の共產軍を援助して我が大陸政策を妨害する外、故意に我が北洋漁業、鑛業を壓迫し、樺太國境を侵すなど、絶えず問題を惹起してゐる。我等は速に東亞の安定を計り、防共の施設を強化して眞の平和を招來しなくてはならない。

第六章 總括

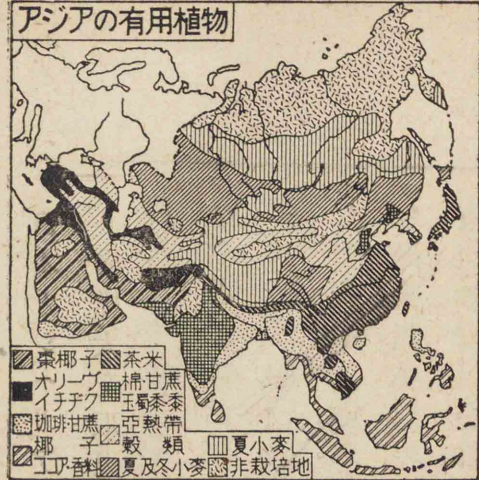
産業  
農産

産業 アジア大陸は面積が廣く、地勢氣候が複雑なもので、天産が豊富である。季節風帯には、米、茶、棉、甘蔗、ゴム等の農産が多く、養蠶と



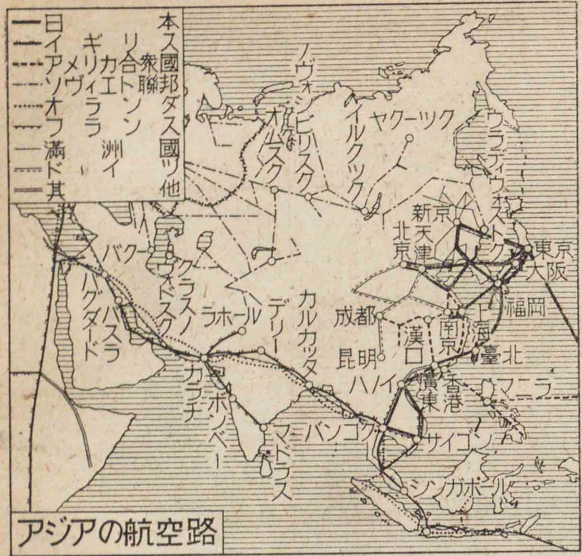
交通 工業 水産 鑛産 森林 牧畜  
航空 鐵道 商

アジアの有用植物



共にこの地帯の特色である。中央より西部に亙る高原地帯は乾燥して草原が連り、羊・山羊・馬・牛等の牧畜が行はれるが、近年人工灌溉によつて次第に農業が發達して來た。  
熱帯・亞寒帯には夫々特有の森林が繁茂し、石炭・石油・鐵・錫等の鑛産も多いが、未だ開拓が進んでゐない。北東部の海上は世界有数の漁場で、我が國が世界第一の水産國として發展してゐる。手工業は各地に行はれてゐるが、近代工業は我が國が最も發達してゐる。  
**交通・商業** 未だ運搬に人力・駄獸による地方がかなり廣く、近時、次第に自動車に代つて來た。鐵道網は、我が國・滿洲國・インド等に發達し、亞歐連絡の重要鐵道も通じてゐる。河川交通は揚子江以外に見る可きものが無い。航空

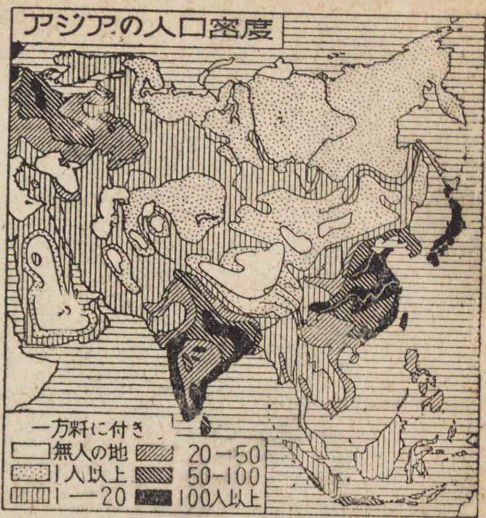
海運 貿易



アジアの航空路

路は近時漸く開け、東部では、我が國と滿洲國及び支那の各主要都市が連絡され、北部では、モスクーから極東地方まで達し、沿岸各地を連ねてゐる。南部は、英・佛・和の各領土とその本國とを連絡するものがある。また、太平洋横断により北米大陸との間にも航空路が開けてゐる。海運は極東を中心に日・英兩國船を主とし、米・佛等の汽船が活躍してゐる。通信機關もかなり整備されてゐる。貿易は一般に振はないが、日本以外の諸國は、歐米列強へ主に食料・原料を輸出し、列強から織物・鐵機械・車輛等の工業品を輸入してゐる。  
**住民** 世界人口の過半に達し、東部・南部の季節風帯に稠密で、北・西部の寒帯或は乾燥地には稀薄である。住民の四分の三はアジア人

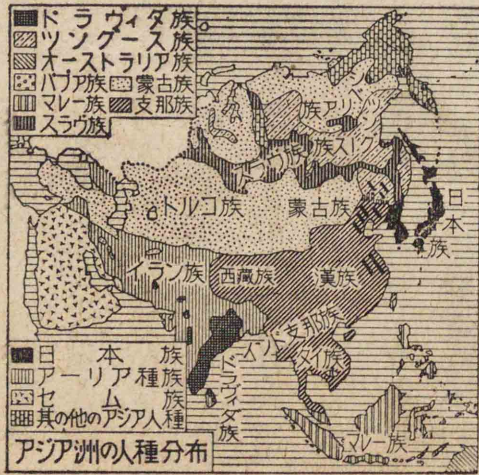




住民

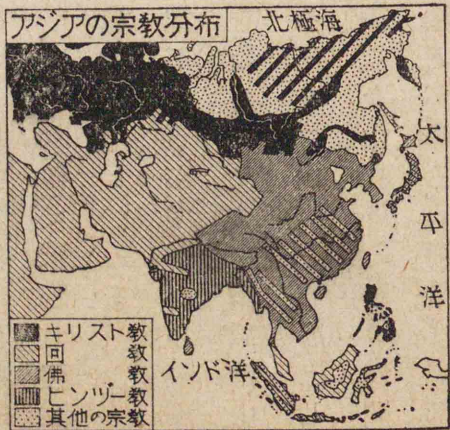
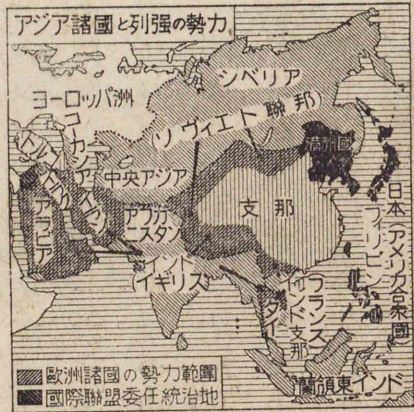
種で、主に中央山地以東に分布し、南東部にはマレー人種が住み、その他の地方には概ねヨーロッパ人種が居住する。支那・インド・パピロニアは夫々世界文化の發祥地であつたが、今は我が國以外は著しく歐米諸國に劣つてゐる。宗教は、佛教・回教・ヒンヅー教・キリスト教等が行はれてゐるが、これ等は何れもアジアに發生したものである。

政治 嘗ては世界的の大國家もあつたが、今は概ね衰へて、白人の支配を受け、我が國及び友邦滿洲國が嚴然アジア



政治

アの安定勢力として存在する外は完全に獨立を保つてゐるものはない。近年歐米各植民地の文化が向上するに従ひ、民族運動が盛になり、フィリピン・インド等は本國より獨立することを計り、その他の弱小國も各列強の壓迫に對抗してゐる。この事は、實にアジア大陸の一特色といふことが出来る。



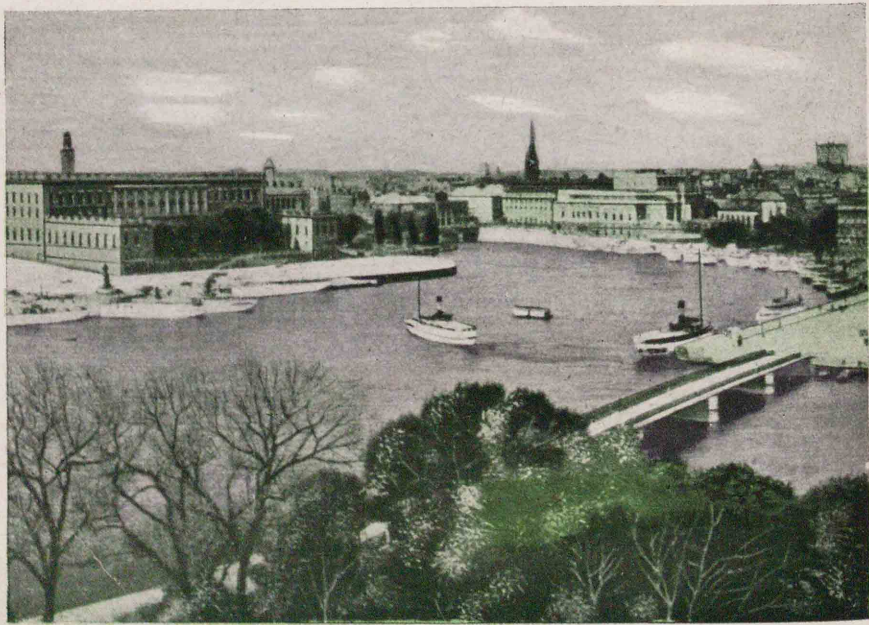








モスクーのクレムリン



ストックホルム

概説  
四六三萬方  
二六三萬人

ヨーロッパ

地方は、冬季が長く、寒冷で大陸性氣候を呈してゐるが、西海岸はメキシコ灣流と偏西風とのため、海洋性氣候を呈する。地中海岸は、夏は高温で乾燥し、冬は温暖で比較的降雨が多く、所謂地中海式氣候である。かかる地形と氣候とは、本洲を大生産地帯とし、民族國家の割據を誘致したのである。

九〇

## 第二章 東部ヨーロッパ

略ウラル山脈以西の廣大なロシア平原で、ヨーロッパの過半を占める。海洋と隔たることが遠いため、大陸性氣候となり、冬季が寒い。ソヴェト聯邦が大部分を占め、西部に僅かにバルト三國がある。

### 第一節 ソヴェト聯邦

概説 ソヴェト聯邦は、ヨーロッパの東半を占め、全領土は世界陸地の六分の一に及んでゐる。第一次歐洲大戰後社會主義の政治を布き、最近は



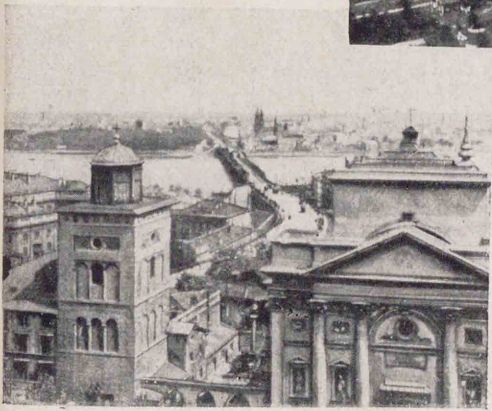
フィンランドの製材所



ロフォーテン島の漁船



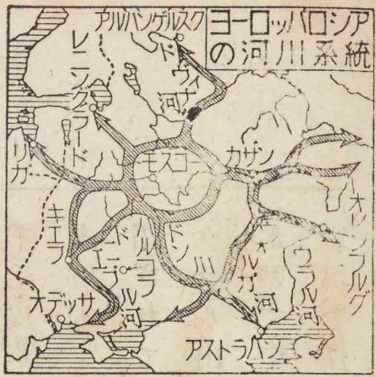
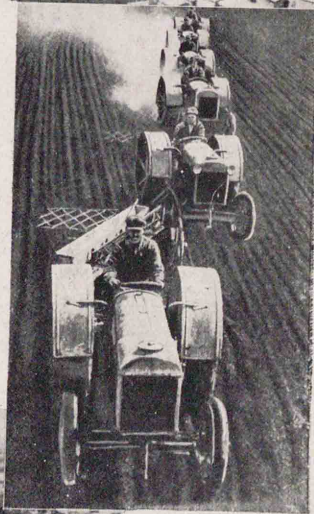
ワルソー



ゴルキーの市街



ロシアの國營農場



地勢・氣候

軍備の充實と領土の擴張とに努め、近隣の諸國に壓力を加へてゐる。

**地勢氣候** 大部は水蝕によつて生じた臺地で、中央のヴァルダイ丘陵(三百餘米を中心として)ヴォルガ・ドニエプル等の大河が緩かに蛇行し、互に運河で連絡してゐる。北部にはラドガ・オネガ等の氷河湖が多い。

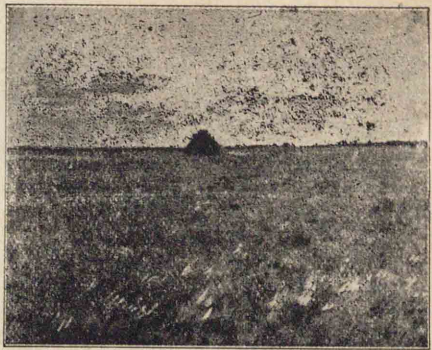
冬季は極めて寒く、長い間河海が氷結するが、大陸性氣候で夏季は氣温が上り、農業が盛である。これ等の氣候により、北から南にかけて凍土帯から樹林帯・草原帯と、漸移し、カスピ海沿岸には沙漠がある。

産業・處誌

**産業・處誌** 古來農業國として知られ、國民の七割がこれに従事してゐる。

ソヴェエト聯邦では、總ての産業部門を國家經營としてゐる。農業に於て





黒土帯の景觀

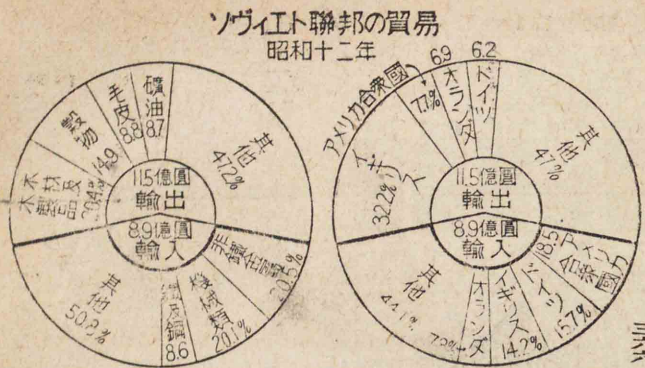
も集團農業の擴張を圖り、一村の耕地を村民共同で耕作させてゐる。

南部の黒土帯は、小麥・大麥・稗麥・玉蜀黍・甜菜・馬鈴薯等の世界的産地で、歐洲の穀倉と稱せられる。キエフ・ハルコフは農産物の集散加工が行はれ、オデッサはその輸出港である。南部の草地を初め、國內には廣く馬・羊・山羊・牛・豚・鶏等の飼養が盛で、

羊毛・皮革等を産する。森林も廣く、木材・木工品・毛皮等を産し、一部は開拓されて黒麥・亞麻等が作られる。ウラル山地には金・白金・銅等の鑛産が豊で、中部・南部には鐵・鋼・石炭・石油・岩塩を産する。一九二八年以來産



交通・商業



業五箇年計畫を反復實施し、農業の集團化と共に産業の総合的發展を圖つた結果、製鐵・機械・車輛・製粉・電氣等の諸工業が著しく進み、モスコ・レニングラード・ロストフ・スターリングラード等の工業地が勃興し、世界の工業國として數へられるに至つた。交通・商業 鐵道(延長八萬軒)・航空路はモスコを中心として遠く極東・中央アジアに及び、又近時自動車路も開けて來た。河川・運河も利用せられ、カザン・ゴルキ等の河港が發達した。

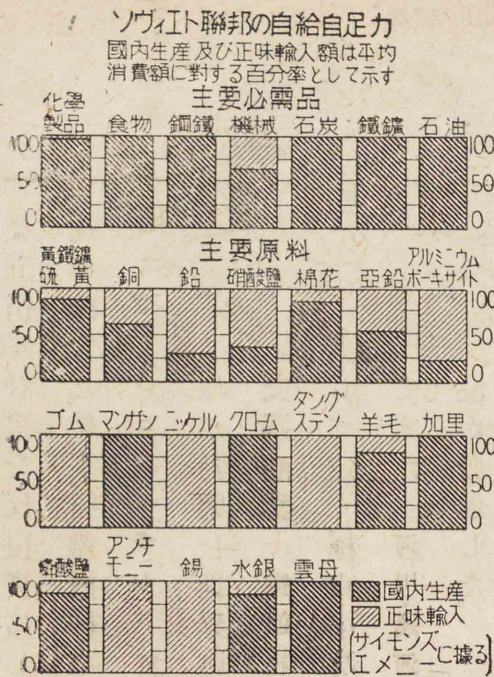
主要な鐵道及び運河 モスコを中心として四方に通じ、東方にシベリア鐵道・南東にタシケント鐵道を分岐してゐる。また、ムルマン鐵道は、北極海岸のアレキサンドロフスクに達する。近年レニングラードよりラドガ・オネガの諸湖を連ねて白海岸に至るスターリン運河が開かれた。また最近ヴォル



住民政治

ガ河とモスコートを運べるヴォルガ運河も開通した。海運は振はないが、南のオデッサ、北のレニングラードが各南北の中心となつてゐる。貿易は主に英獨との間に行はれ、林産物・農産物を輸出し、機械・鐵製品を輸入してゐる。尙國內には定期市が各處に開かれ、ゴルキの夏季市は古來有名である。

住民政治



住民政治 住民は一億二千萬に及び、アジアロシアを合すれば、實に一億七千萬に達する。大部分はスラヴ族の大ロシア人で、性質は粗野の上、極端に走り易いが、忍耐力が強く、ギリシヤ教を奉じ、文藝音楽に長じてゐる。この外、南部にドイツ人・ユダヤ人・トルコ族・北部にフィン人・ラップ人等が住んでゐる。

ソヴィエト聯邦は最近ドイツと戦端を交へるに至り、一大危機に遭遇してゐる。

一九一七年の革命以來、國土は分裂して多くの共和國を生じたが、一九二二年大ロシアを中心として新にソヴィエト社會主義共和國聯邦を組織した。その後國力の充實に努めてゐたが、近時極東には大軍を置いて滿洲國境を侵し、歐洲動亂の波に乗じてはポーランドの東半を併せ、フィンランド・バルト三國に進出し、更にバルカン方面をも視ひ、漸次世界赤化の野望を企圖してゐる。

日本とソ聯 我が國とは極東に於て領土が近接するのみでなく、友邦滿洲國の成立によつて、彼我の關係が益々複雑となつた。元來、ソ聯の國是は我が國體と相容れず、しかもその極東政策は東亞の新秩序を妨げることが甚だしく、今後のソ聯の動向には深い注意を拂ふ必要がある。

附 バルト地方 バルト海東岸地方には世界大戰後ニストニア(エストニア人)・ラトヴィア(レット人)・リヌアニア(リヌアニア人の三小



國が舊ロシアから獨立して國を建ててゐたが、最近ソ聯に再び併合された。何れも土地が平坦で、農林牧畜業等が行はれてゐる。

### 第三章 北部ヨーロッパ

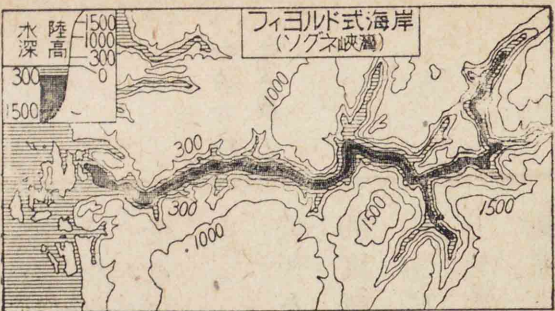
フィンランドからスカンディナヴィア半島・ユトランド半島を含む地方である。

#### 第一節 フィンランド

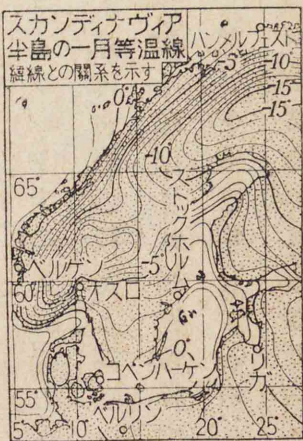
國內には氷河湖を初め、氷河の遺跡が多く、湖水は灌漑發電に利用せられる。全土の四分の三は森林がつき、水力電氣を利用して製材・バルブ・マツチ製造が行はれる。首府ヘルシンキは木材・バルブを輸出する。住民はアジア人種のフィン族が多く、大戰後に興つた共和國であるが、一九三九年、ソ聯の侵略を受け、目下その勢力下にある。

#### 第二節 スウェーデン・ノルウェー

三萬方軒  
三〇萬人

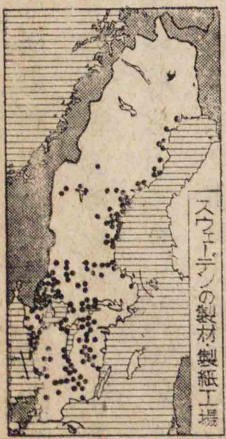


スウェーデン  
四萬方軒  
三〇萬人  
ノルウェー  
三萬方軒  
二〇萬人



スカンディナヴィア半島の一月等温線は緯線との關係を示す。キシコ灣流暖流によつて、高温・多雨となり、北端のハンメルフェストも不凍港である。

には良質の鐵鑛を産し、ナルヴィクより英獨に輸出せられる。また北部のロフォーテン諸島及び沿岸には鱈・鱒等の漁獲が夥しく、ベルゲン等の漁港が





發達し、ノルウェーの捕鯨船は兩極地方に活躍してゐる。住民はチュートン族が多く、着實勤勉で、新教を奉じ、各立憲王國を作つてゐる。スウェーデンの首府ストックホルムは形勝の地を占め、商工業が盛である。デーネボルグはこの國第一の商港で、また製材製紙の工業が行はれる。

ノルウェーの首府オスロは近年沿岸諸港と共にドイツ軍の侵略を受け、以來同國はドイツの勢力下に置かれるに至つた。

### 第三節 デンマルク

低平なユトランド半島と附近の島嶼とから成る。この國の集約的園耕農法は、世界の模範と稱せられ、酪製品・肉類・鶏卵等の産が多く、主に英獨に輸出され、織物・穀物・鐵器等を輸入する。住民はチュートン族で新教を奉じ、勤勉である。立憲王國であるが、今次の歐洲動亂にドイツのために征服せられ、その勢力下に置かれてゐる。

四萬方軒  
三五萬人

二〇萬方軒  
三萬人

首府コペンハーゲンハルはバルト海の門戸に當り、貿易が盛である。

アイスランドは火山島で活火山が多く、大間歇泉もある。獨立の君主國で、首府はレイキヤヴィクレイにある。

## 第四章 中部ヨーロッパ

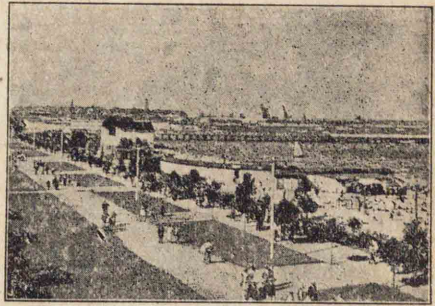
バルト海よりアルプスに至る地方で、ドイツを中心とし、ポーランド・スロヴァキア・ハンガリー・スイス等の諸國があり、政治上ドイツの勢力が強大である。

### 第一節 ポーランド

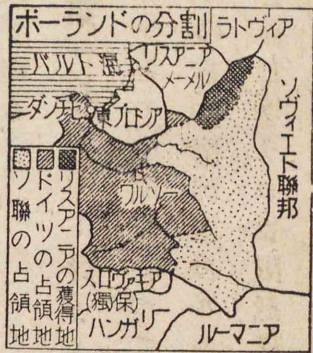
ソ聯とドイツとの中間に在つて、平野が廣く、麥類・馬鈴薯・甜菜等の農産が豊である。南部のカルパチア山麓は鑛産に富み、石炭・鐵・鹽・石油等を産し、クラカウ附近には精鍊業が發達した。また牛馬の飼養が行はれ、林業國として木材の輸出も多い。ロヅロには紡織

五萬方軒  
三〇〇萬人





グディニア港の景観



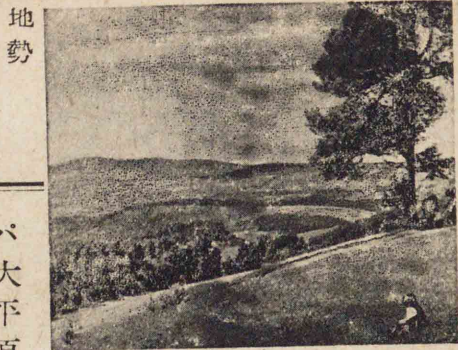
のために占領された。

ダンチヒ自由市 もドイツ領で、大戦後、国際聯盟管理の下に自由市としてポーランドの門戸となつてゐたが、最近再びドイツ軍に占領された。

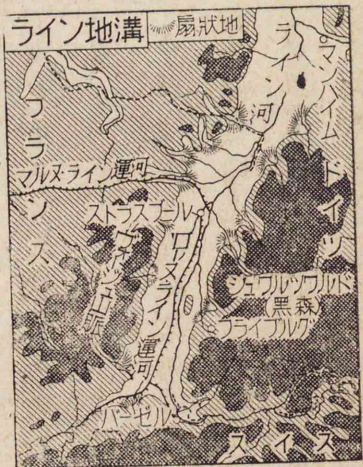
### 第二節 ドイツ

概説 ヨーロッパの略中央を占め、十數箇國の國境に接してゐる。大戦後、一時國勢が衰へたが、近年頓に勃興し、その活躍は頗る目覺し。

二千方軒  
四萬人  
奇萬方軒  
八三〇萬人  
概説



黒 森



ライン地溝帯ポヘミア盆地等がある。北部はヨーロッパ

バ大平原の一部で、ライン・エルベ・オーデル等の河川が北西に流れてゐる。海岸は沈降性で遠淺となり、河口は三角江を呈する。

氣候 山地の多い南部は、北部の平野と氣候に大差無く、西部は溫和であるが、東に進むにつれて大陸性氣候となり、降水量も少い。バルト海沿岸は冬季には氷結する。

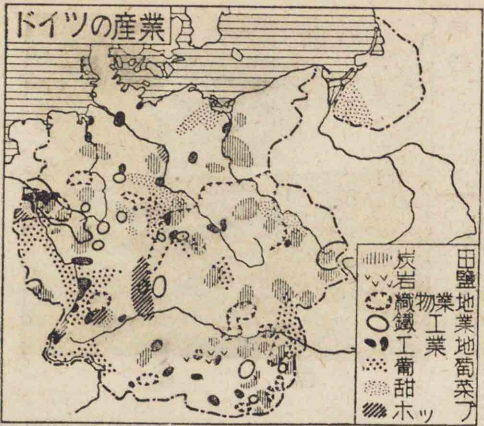
産業・處誌 自然資源等に恵まれてゐないが、勤勉な國民は學術をも應用

地勢  
氣候  
産業・處誌



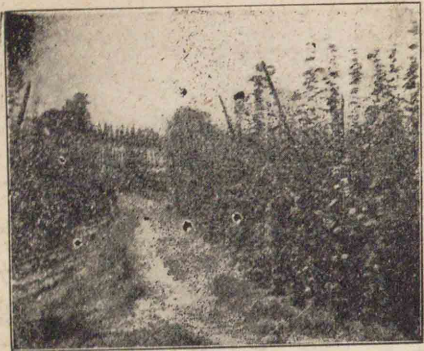
して、能くそれを開發利用し、各種産業を著しく盛ならしめてゐる。耕地は國土の半ばを占め、農民は國民の三分の一に達する。平野の四分の一は牧場に利用せられ、林制は世界の模範と稱せられる。就中工業は世界獨得の地位を占め、國內に不足な石油・ゴム・綿羊毛等も、その代用品の生産に成功してゐる。

北ドイツ



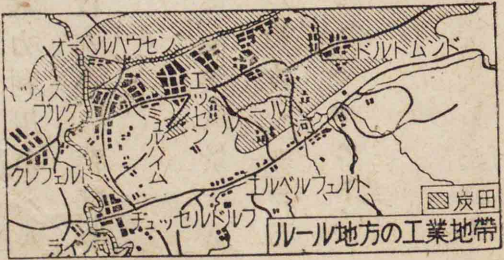
一北ドイツ 東部の東プロシア及び近年リスニアから復歸したメーメル地方は、木材・穀類の産に富み、ケーニヒスベルグ・メーメル三の二港より輸出される。中部は農業・牧畜に利用せられ、稈麥・燕麥・馬鈴薯・甜菜・牛豚等の産が多く、首府のベルリン及びマクデブルグ四(製糖)はその中心である。海岸地方のハンブルグ三・ブレーメン等の商港では造船業が盛である。

南ドイツ



ホップの栽培

西部のルール地方は豊富な炭田が横たはり、これを利用してエッセン五に製鋼(クルップ會社)業が勃興し、ケルン六に機械・化學工業、ヴイスマブルグ四に造船業が發達してゐる。  
二南ドイツ 一帯に丘陵性の山が多く、林業が發達し、また礦物の埋藏も少くない。河谷や低地には農業が行はれてゐる。サクソニア・シレジアには石炭・鐵・亞鉛等の重要礦産が多く、ドレスデン五美術工藝品、ライプテヒ七(出版業等の工業都市)が發達し、主要工業地帯をなしてゐる。ブレスラウ三は農産物の集散地である。



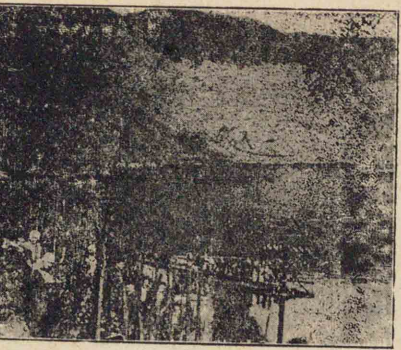
ボヘミア地方には沃野が連り、馬鈴薯・麥類・ホップ等を産し、山地は森林に被はれ、石炭・鐵も豊かなため、各種の工業



等が盛で、舊都ブライグビルゼン等の工業市がある。  
低地は農業が行はれる。 モラヴィアの

バヴァリア高地 牧場・森林が多く、ニュールンベルヒは玩具・鉛筆・樂器等の木工品の製造に著れる。またダニューブの河谷は、麥類の産に富み、ミュンヘンにはビール四の醸造が行はれる。

オーストリア地方 は大部分が山地で、森林が廣く、水力利用のバルプ・製紙が行はれる外、産業は一般に振はない。舊都ウイーンは美術工藝に著れる。



ライン河谷と葡萄園

ライン河の中流 は所謂ライン地溝帯で、氣候・風景に恵まれ、麥・煙草・葡萄の産が多く、またザール地方(一九三五年ドイツに復歸)の石炭を利用して、フランクフルト・マインツに機械・化學工業が行はれる。

ライン河はアルプ山中に源を發し、ライン地溝帯を北流す

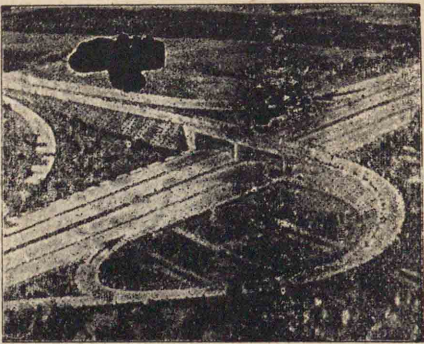
英

る。沿岸一帯は良好な農業地域で、葡萄園・ホップ園が連なり、美林に掩はれてゐる。峡谷部には奇岩が峙ち、古城址が散見して一幅の繪畫を見る如く、また大工業地を開き、國人はこの河を讚美して「父ライン」と稱する。

**交通・商業** 交通は著しく發達してゐる。鐵道の密度

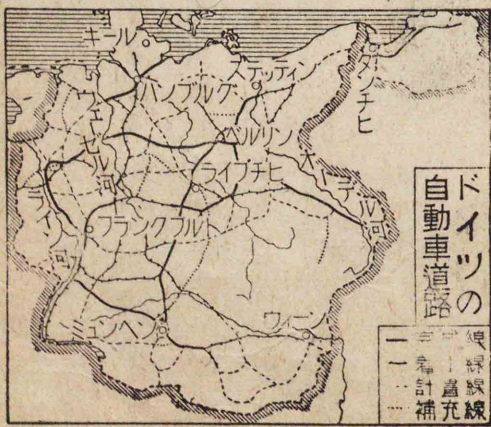
は英國に次ぎ、その延長は我が國の二倍に當る。全國に

交通・商業

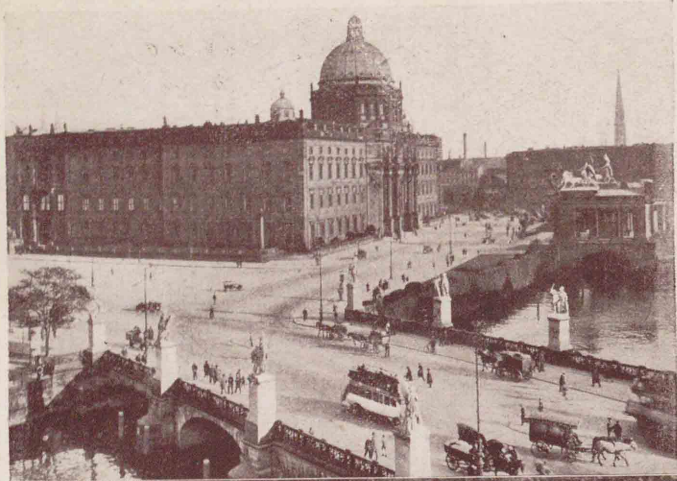


ドイツの自動車道路

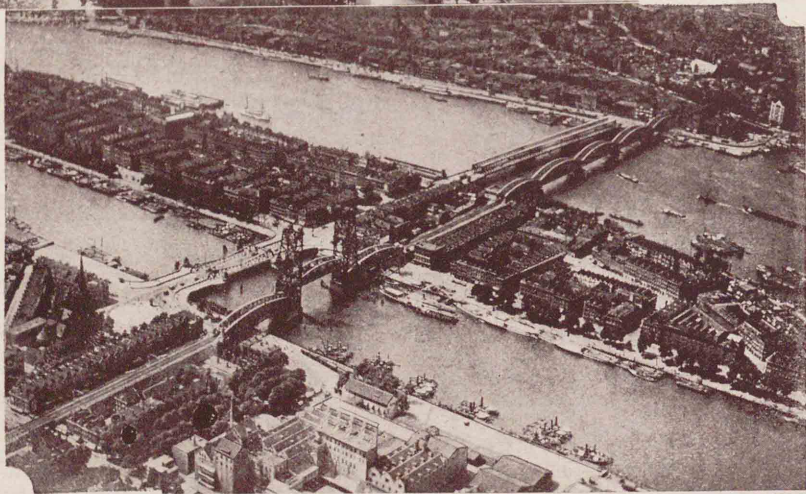
通ずる國營自動車路線も、その設備・速力共に優れ、四大河(ライン・エルベ・オーデル・ダニューブ)はこの國の動脈で、連河運河により連絡され、北方のキール運河はバルト海の咽喉である。航空路の發達は世界第一で、ベルリンを中心として歐洲各地







ベルリン



ロッテルダム

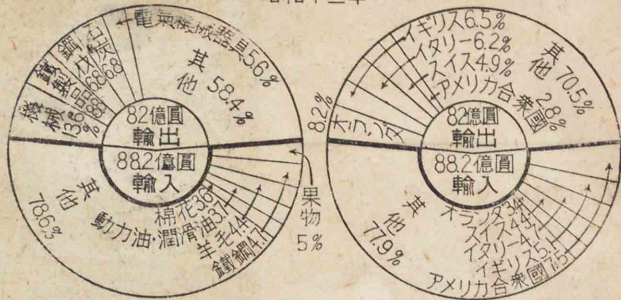


アントワープ

住民政治

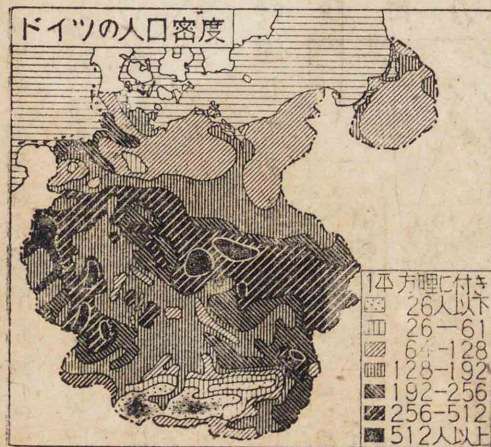
成り、新教・舊教が行はれる。國民は勤  
 勉で産業に努力し、學究心が優れ、ベル  
 リン等は學術の淵藪といはれる。

ドイツの貿易  
 昭和十三年



ヨーロッパ

及び遠く南米に及び、航空機の建造技術は他の追隨を許  
 さない。商船は大戦によつて大打撃を受けたが、近年の  
 回復目覚しく、噸數は世界第四位で、優秀船を備へて世界  
 に活躍し、ハンブルグは世界的の大貿易港である。貿易  
 は主に自國船により精製品を輸出し、原料・食料品を輸入  
 する。取引先は米・英・佛及び  
 日本・滿洲國等で、オランダを  
 通過するものも少くない。



106



最近ドイツはバルカン方面を捲き、更にソ連方面を捲き、戦端を至つた。

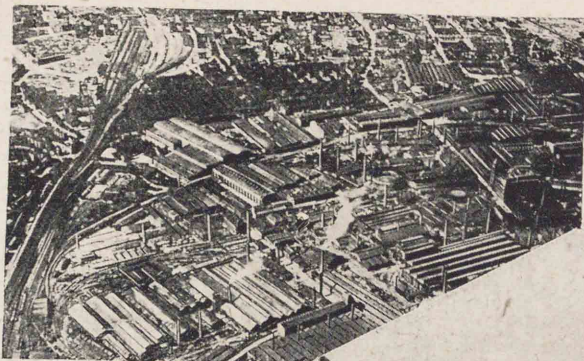
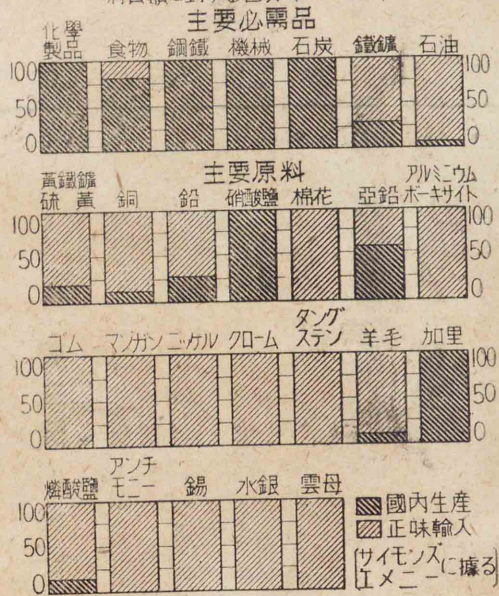
ヨーロッパ

ドイツ国土の消長	
年次	面積
一九一〇大戦前	五四一(千平方)
一九一九大戦直後	四七二(千平方)
一九三九現	六三三(千平方)
人口	面積
一九一〇大戦前	五八、四五〇(千人)
一九一九大戦直後	五九、八五〇(千人)
一九三九現	六三、四〇一(千人)

大戦後領土が縮小し、国力が疲弊した。が漸次國勢が回復して來た。殊にヒッラー總統が立つに及んで、着々領土の回復にも成功し、殊に一九三九年九月、ポーランド廻廊ダンチヒの回收を圖り、今次動亂を惹起したが、既にソ連と共にポーランドを分割し、更にデンマーク・ノルウェー・オランダ・ベルギー・フランスを席捲し、英國と覇を争うて、ドイツを中心とするヨーロッパ新態勢の樹立を計畫する等、歐洲第一の強國となつた。

ドイツの自給自足力

國內生産及び正味輸入額は平均消費額に對する百分率として示す

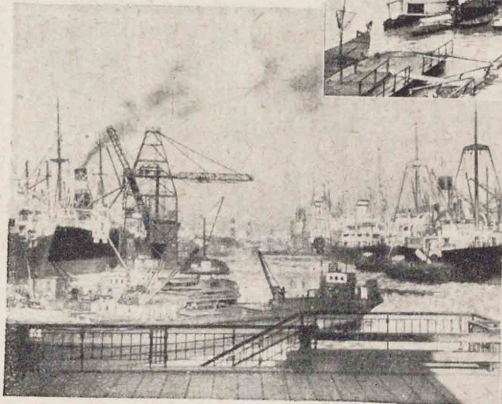


エッセンのクルップ製鐵所

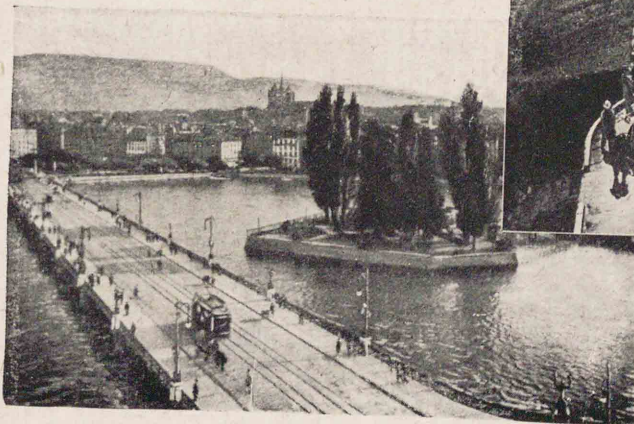


ブダペスト

ブレーメン港



ジュネーヴとモンブラン橋



ソイデル海の堤防



日本とドイツ

日本とドイツ 我が國は軍事學術上、この國の影響を受ける所が多い。殊に近年防共協定を結び、滿洲國を承認し、更に今次歐洲大戰に際して日獨伊三國同盟を締結するなど、兩國の關係は益々親善を加へて來た。また我が國との貿易額は多くはないが、我に機械類、硫安、鐵染料を輸出し、我から綿織物、魚油等を輸入する。

### 第三節 スロヴァキア

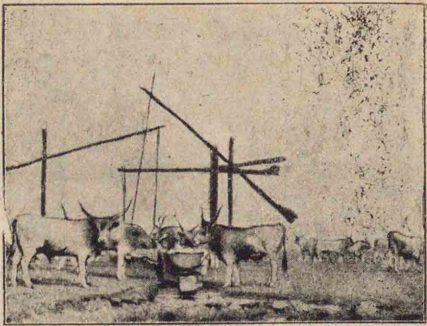
ドイツの南東に位し、舊チエコスロヴァキアの二地方であつたが、一九三九年三月獨立してドイツの保護國となつた。住民は西スラヴ族に屬するスロヴァク族で、舊教を奉ずる。カルパチア山地は鑛産に富み、山麓平地には牛・羊等の牧畜が行はれる。首府はブラチスラヴァである。

### 第四節 ハンガリー

ハンガリー盆地の一部を占める小内陸國で、氣候は大陸性で夏季が著く、地味も豊饒なため、小麥・玉蜀黍・甜菜の産が多い。雨量が少

四萬方糶  
二五〇萬人

三〇萬方糶  
二七〇萬人



景觀のスタブ

く、中央に草地(スタブ)が連り、牛・馬・羊の放牧が行はれる。住民はアジア人種に屬するマジール族で、舊教を奉ずる。首府ブダペストは製粉、屠畜の業が盛で、またこの國の交通・商業・政治の中心である。

### 第五節 スイス

アルプスとジュラ山脈との間に位する内陸國で、マッテルホルン・ユングフラウ等の高峰が聳え、レマン・ルツェルン等多くの氷河湖を湛へ、山水の美に富んでゐる。湖畔の低地には農業が行はれ、山地には森林が繁茂し、牧牛・酪業も行はれる。

水力電氣が豊富なため輸入原料を用ひて、時計、絹織、機械等、比較的高價な精巧品の製造が盛である。チューリヒ(絹織)、バーゼル(化學工業)は工業地として著れる。鐵道は殆ど電化せられ、アルプスにはシンブロン(長さ二〇糶)、サンユタル下等の大トネルが通じ、數條

四萬方糶  
四六萬人





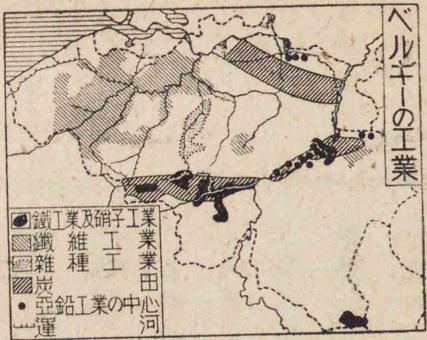


人文 地味が肥沃で園藝・牧牛が行はれ、ハーレムに産する花卉や、其の他國內各地に産するバター・チーズ・煉乳等は重要な輸出品である。獨英より輸入する石炭・鐵を以て各地に機業、アムステルダム、ロッテルダムに造船業が興つてゐる。首府ハーグには國際裁判所がある。鐵道の密度は世界に比なく、縦横に通ずる運河と相俟つて、交通の便が大である。近年蘭領インドとの間に航空路が開かれた。商業は位置の關係上、通過貿易が盛で、獨英・白等との取引が多い。住民はチユートン族で、早くから海外に發展し、本國に六十倍する植民地を領有してゐる。今回の歐洲戦争に捲きこまれ、本國はドイツ軍のため占領された。

我が國とは昔から貿易を行ひ、我が文化の開發に貢獻し、且つ現在も蘭領東インドに於て、經濟上密接な關係を有してゐる。

第二節 ベルギー(白耳義) 附ルクセンブルグ

三萬方軒  
八六萬人



自然

北部はオランダに續く低地で、東南部に向ひ高くなる。この間にマース・シエルト等の河が流れ、運河も多い。氣候は海洋の影響を受け、溫和で雨量が多い。

人文 低地丘陵地は溫暖で雨量に富み、麥類・甜菜・亞麻等を産する。アルダンヌ高原の北縁には、フランスにつ

く大炭田があつて工業が發達し、リエージュは鋼鐵・亞鉛の精鍊業、カン麻布

を輸出し、また佛・獨・蘭・英等と仲繼貿易を行ふ。

アントワープは世界屈指の貿易港で、我が商船も寄航する。河川・運河の交通は便利で、鐵道網

の密度は世界第一位である。人口の稠密なことも世界第一で、南部にラテン、

列國の人口密度 (數字は一方軒に對する人口)

ベルギー	オランダ	イギリス	日本	ドイツ	イタリア	フランス
272人	244人	194人	186人	144人	137人	86人
フランス	スペイン	支那	滿洲國	合衆國	ソビエト	ブラジル
76人	49人	43人	27人	16人	9人	6人



北部にチートン族が住み、一般に舊教を奉ずる。本土は狭いが、アフリカに廣大な植民地(本國の八十倍)がある。今回オランダと共に、本國はドイツ軍のため占領された。首府ブルッセルは交通の衝に當り、レースを産する。

ルクセンブルグ 大公國でドイツ人が多く、豊富な鐵鑛は主にベルギーに供給される。首府をルクセンブルグといふ。

### 第三節 イギリス(英吉利)

概説 イギリスはヨーロッパ大陸に近い島國で、大陸を制する優れた位置を占めてゐる。面積は我が國の三分の一、人口は二分の一に過ぎないが、早くから商業國として世界に發展し、その植民地は面積に於て世界陸地の五分の一、人口に於ては人類の四分の一に及んでゐる。

地勢・海洋 大ブリテン・アイルランドの二大島と數多の屬島とから成る。大ブリテンの北部は、スカンディナヴィア半島と對應して山

二萬方人  
四七〇萬人  
概説

地勢・海洋

氣候

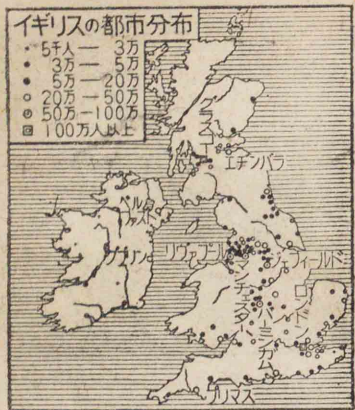
産業・處誌

勝ちで、海岸は峽灣をなし、處々に美しい氷河湖を湛へてゐる。南東部は北歐大平原の續きで、概して平原が多い。アイルランドは低い山地を繞らし、湖沼に富む。ティムス・ハンパー等の河川は舟運に適し、且河口が三角江となつて複雑な海岸線を作つてゐる。

氣候 北方に偏するが、メキシコ灣流と、偏西風との影響を受けて溫暖濕潤で、霧が多く、雨は西海岸に殊に多い。

産業・處誌

商工業に従事するものが國民の二分の一を占めるに反し、農民は僅か一割に足らず、食料は不足してゐる。



イギリスの都市分布

イングランドは、沃野が連り、小麦・馬鈴薯を産し、牧牛が行はれる。ベニン山麓は鐵・石炭の産に富み、重要な工業地帯をなしてゐる。山脈の西側に當るランカシャー地方は、濕潤な氣候を利用してマンチェスターを中心にして世界屈指の紡織業が發達した。





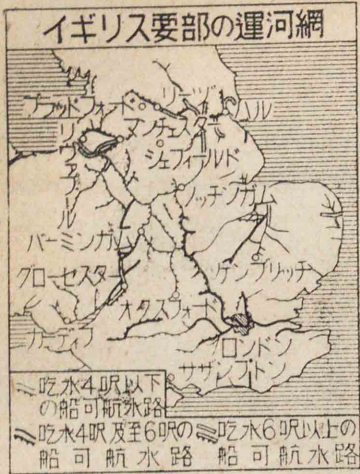
マンチェスターの綿布搬出

ランカシャーの綿製品は近時世界市場に於て、良質で低廉な我が製品のため大打撃を蒙つてゐる。

東側のヨークシャー地方は、雨が少く牧羊が行はれ、リリ  
ジ・ブラッドフォードを中心として毛織業が興り、パーミン  
<sup>一〇</sup> <sup>九</sup> <sup>八</sup> <sup>七</sup> <sup>六</sup> <sup>五</sup> <sup>四</sup> <sup>三</sup> <sup>二</sup> <sup>一</sup>  
ガム(製鐵機械・シユフィールド(勿物)等)等一帯は重工業が盛で、  
黒煙空を覆ひ黒郷地方の異名がある。首府ロンドン  
(倫敦は、テムムス河の三角河口を利用して發達した大  
大ロンドンハタ)



都て、水陸交通の要衝に當り、河岸の  
ドックには、各國の船舶が群集し、世界  
の商業・金融の中心である。その郊  
外のグリニチの天文臺は、本初子  
午線の通過する處である。北海の  
ドッガーバンクは世界の好漁場で、鯨



交通・商業

鱈等の産が多く、沿岸にハル・大ヤーマスの漁港が發達し、ニューカッス  
ルは造船、ミッドルスヴラは製鐵に榮える。<sup>三</sup>  
<sup>四</sup> <sup>五</sup>  
ウーリスは良質の石炭を産し、カーディフはその輸出港である。<sup>三</sup>  
スコットランドの中央大地溝帯は石炭鐵の産が多く、グラスゴウに  
造船・紡織等が發達し、エディンバラには有名な大學がある。<sup>三</sup>  
<sup>四</sup> <sup>五</sup>  
アイルランドの大部は英國の自治領をなし、農業牧畜が行はれ、首  
府ダブリンは醸造業が盛である。北部は英本國の一部をなし、ベ  
ルファストには製麻業が盛になつた。<sup>三</sup>  
交通商業 交通が頗る發達し、鐵道網の密なこと  
はベルギーと共に世界にその比を見ない。殊に  
商船は世界の三分の一を占め、ロンドン・サンパ  
トン・リヴァプール等の良港を有し、世界第一の海運  
國である。航空路は國內は勿論、遠く南阿・濠洲等





ロンドンの鳥瞰とタワーブリッジ



ドーヴァー海峡



パリのシャンゼリゼー街



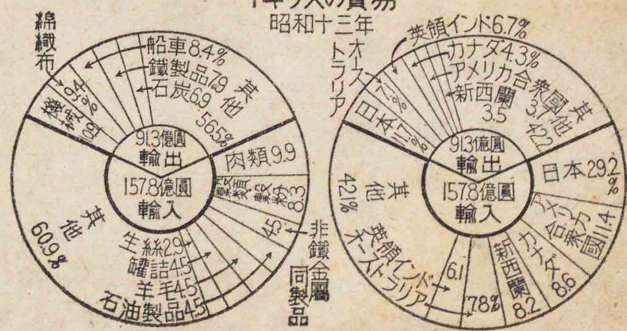
イギリスの人口密度

住民政治

ヨーロッパの植民地に通じてゐる。この國は世界商業の大中心をなし、殊にインド・南阿・カナダ・濠洲等の大生産地は本國に豊富な原料を供給すると共に、本國商品の一大市場となつてゐる。従つて貿易額は世界第一に位し、原料・食料品を輸入して、精製品を輸出し、主に米國・カナダ・佛國と取引する。

**住民政治** 世界第三の人口稠密國で、住民の四割は都市に集中してゐる。原住民のケルト族は、西部に多く、チユートン族のアングロサクソン人が主要民族で新教を奉じ、着實勤勉で實利に長じ、通商航海に勝れてゐる。本國は大ブリテン・北アイルランド聯合王國と稱し、世

イギリスの貿易 昭和十三年





イギリスと日本

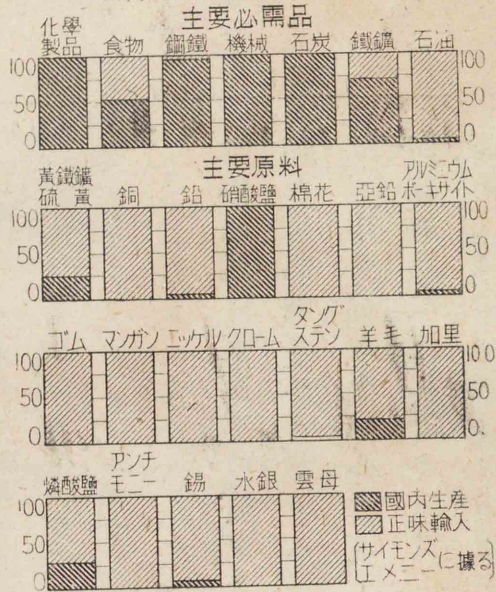
ヨーロッパ

一五九

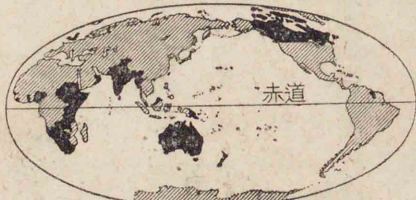
イギリスと日本 我が國と國情の類似する點が見られ嘗ては日英同盟を締結したこともあり、インド・オーストラリア等の植民地は現今我が重要なる貿易先となつてゐる。かくて彼我の商品は競争の地位に立ち、彼はあらゆる手段を講じて我が商品の進出を

イギリスの自給自足力

國內生産及び正味輸入額は平均消費額に對する百分率として示す



イギリスの主要領土

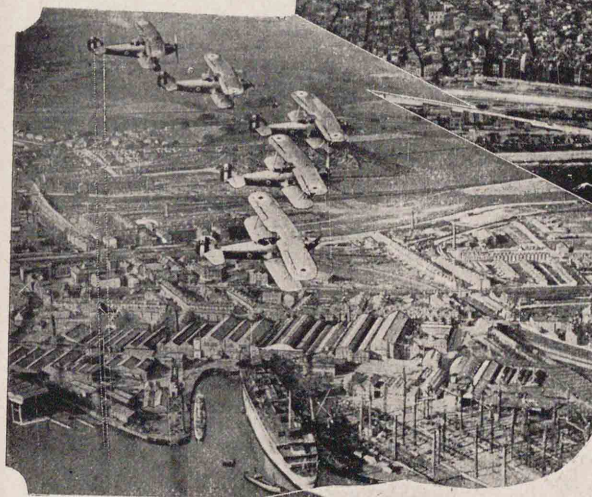


界最古の立憲國である。十六世紀以來、海外各地に廣い植民地を獨占し、これ等の領土を合せて大英帝國を組織した。然るに近時その植民地は自治獨立を叫び、加ふるに第二次歐洲大戰

ダブリン市街



ローヌ河畔のリヨン



マルセーユの航空景

モナコ

イギリスの造船所





防遏してゐる。又政治的には我が新東亞建設の眞意を認識せず、米佛等と共に支那の抗日政權を援助し、陰に陽に我が國力の發展を阻止しようとする等、最近兩國の關係は圓滑を缺いてゐる

#### 第四節 フランス(佛蘭西)

概説 フランスは、西部ヨーロッパの中部に位し、大西洋と地中海とに面してゐる。本國の面積は我が國の八割であるが、植民地は本國の二十二倍に達する。夙くから文化が開け、曾ては全歐を風靡したこともあるが、今は國勢が衰へた。

地勢氣候 東南部には、アルプス、西南部にはピレネー山脈が連り、何れも高峻で、イタリア・スペインに對する自然的國境をなしてゐる。中央高地を中心にセイヌ・ロアール・ガロンヌ・ローヌ等の諸川が放射狀に流れ、その流域に盆地、平野が開けてゐる。一般に溫暖多雨で、殊に南部は所謂地中海性氣候をなし、冬が暖いから果樹の

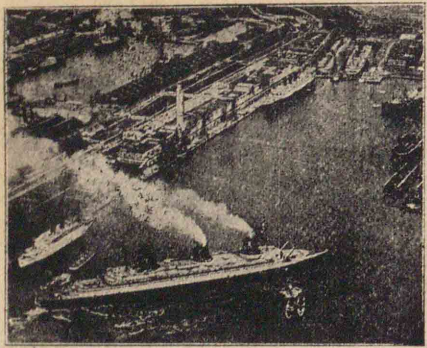
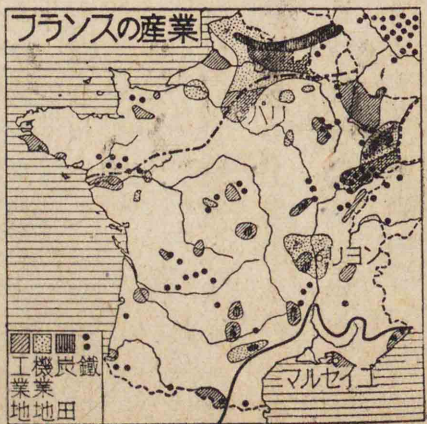
概説  
五萬方  
四萬人

地勢氣候

産業處誌

栽培が行はれ、保養地が連つてゐる。

産業處誌 一北フランス 白佛炭田が連り、ローレンは鐵鑛を産する。平野は、小麥・馬鈴薯・甜菜・葡萄を産し、ナンシー(製鐵)・ランス(葡萄酒・毛織物)・リール(毛織麻織)・ルアン(綿織)の工業市が發達した。首府

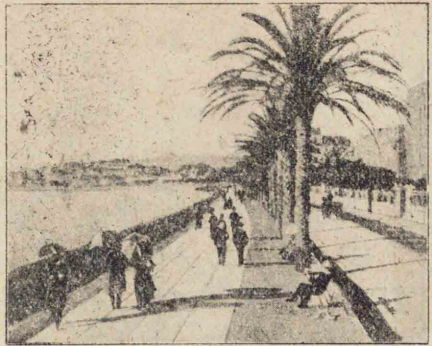
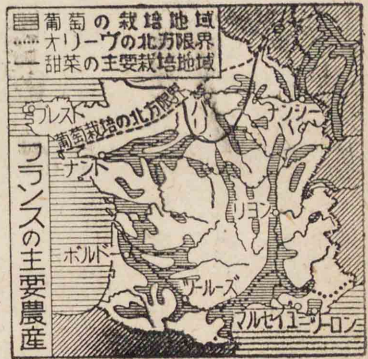


ルアーヴル

パリ(巴里)はパリ盆地の中心に位し、歴史的建築・美術品に富み、また世界流行の中心として、パリ小間物(化粧品・裝身具)の特産がある。セイヌ河口のルアーヴルはその門戸で、ストラスブールと共に、貿易港として名高い。シルブール・ブレストは、イギリス海峡方面に於ける重要な軍港である。ニ四フランス 小麥・玉蜀黍・葡萄・馬鈴薯の主要農産地



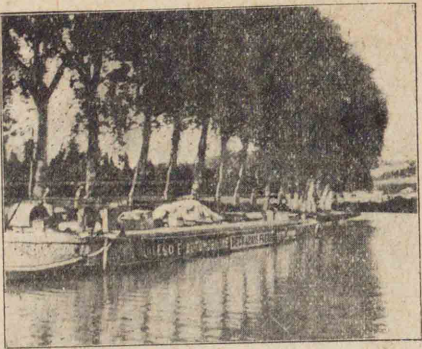
である。  
ナントは  
糖業地帯  
ポルドー  
は、葡萄酒  
産地メドック



リヴィエラ

ク地方の門戸である。サンテティエンヌは、石炭・鐵産地の中心で、製鐵機械業が榮え、佛國の「バーミンガム」と稱されてゐる。

南フランス ローヌ・ソーヌ河谷は發電によく、養蠶業が行はれ、リヨンは精巧な絹織物の工場が多い。葡萄・オリヴが生育し、マルセイユは、植物油の世界的市場で、多く葡萄酒・白石鹼(原料オリヴ)を輸出し、この國



ミディ運河

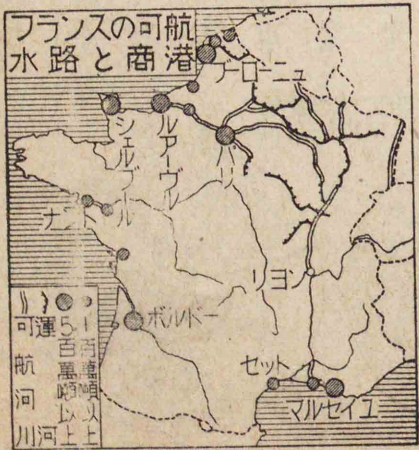
第一の貿易港である。その東方のリヴィエラ地方は、ニースを始め、世界的の保養地が多い。

交通商業 分水界が低いので、運河網の發達が著しく、海上の交通もまた頗る便利で、カレーはイギリスに渡る要津である。なほ西歐の中心にある首府パリを焦點として、鐵道・航空路が集中し各都市を連ねてゐる。

殊にイタリーとの間には、

モンスニの大隧道があつて、西部アルプスを横斷してゐる。また、近年本國とアフリカの佛領植民地間、及び遠くインドを超えて佛領インド支那間との定期航空路も開かれてゐる。位置の良好、産業の發達、廣大な植民地

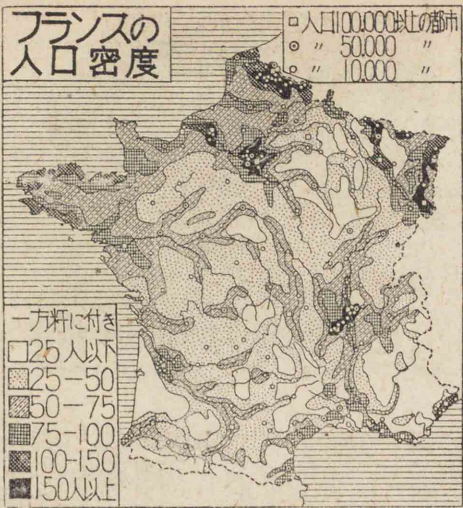
交通商業



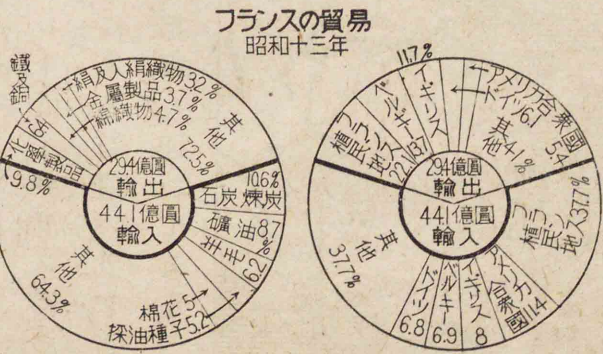


などは、フランスの商業を活潑ならしめて  
る。主要な取引國は英・米・獨・日等で、貿易  
額は、工業の發達が未だ英獨に及ばぬのと  
自給自足主義を採るとのために、英獨に劣  
り、世界第四位を占め、主に絹布・綿布・自動車  
裝飾品・葡萄酒等の工業  
品・贅澤品を輸出し、石炭  
及び諸織物の原料品を  
輸入する。

住民・政治

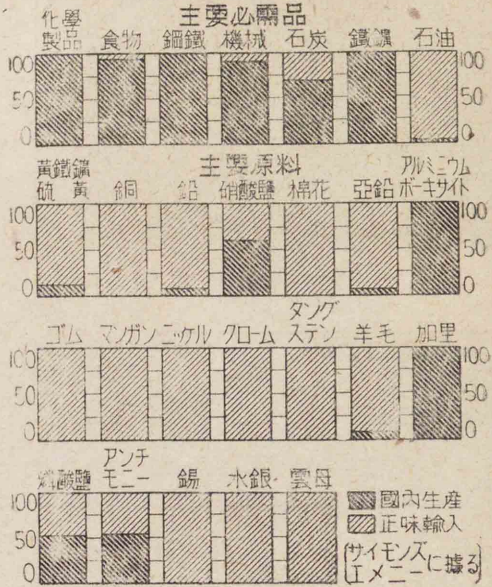


住民・政治 概ねラテン族  
のフランス人で、舊教を信  
ずる。夙くから文化が發達し、特に藝術方面に優れ、  
その言語は外交・社交上に用ひられてゐる。この國



日本とフランス

フランスの自給自足力  
國內生産及び正味輸入額は平均  
消費額に對する百分率として示す



だが、今も美術家の往來が行はれる。貿易その他に於て國交は厚  
いが、政治問題については、對立する場合が少くない。  
モナコ リヴィエラの小公國で、遊覽者が多く、公設賭場の収益で國費を辨  
ずる。その海洋博物館は世界に名高き。

は列強中、人口増加が最も少い國で、政  
府はその對策に腐心してゐる。立憲  
共和國で、世界大戰にドイツに勝つて  
一時隆盛を誇つたが、今次の第二次歐  
洲大戰に際してドイツの猛攻により  
これに降伏するに至つた。

日本とフランス 我が國の軍事學

藝・法律はこの國に負ふ所が多かつ



第六章 南部ヨーロッパ

南部ヨーロッパは地中海に面するイベリア・イタリア・バルカンの三半島を含み、ヨーロッパでは最も早く開けた地方である。

第一節 イベリア半島

北部にはピレネー・カンタブリア二山脈が東西に連

り、南部のシエラネヴァダとの間に高原が

続き、大河は概ね西流

する。山地は大陸性

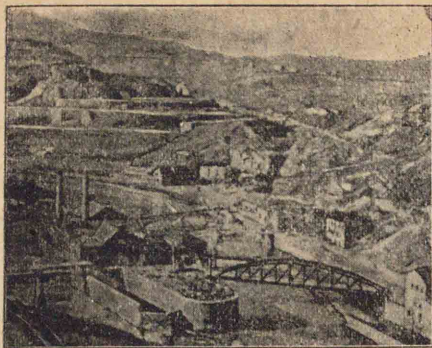
気候で雨が少く、牧畜

が行はれ、羊毛・皮革等の産がある。

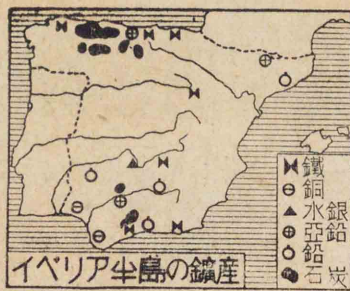
ビルバオの鐵を始め、水銀・銅・鉛等の

鐵産は豊かであるが、多くは外人の

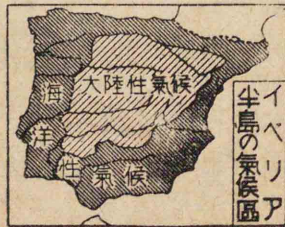
スペイン  
五萬方人  
二四五萬人  
ポルトガル  
九萬方人  
七三萬人



ビルバオ附近の鐵山



イベリア半島の鐵産



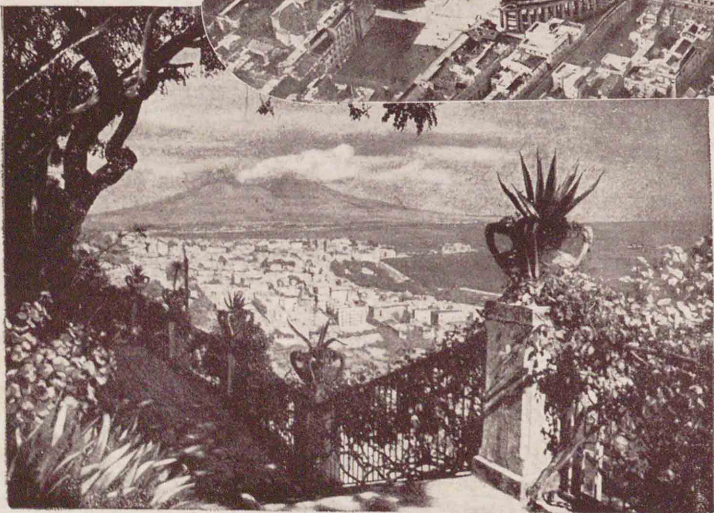
イベリア半島の氣候區

マドリッド市街



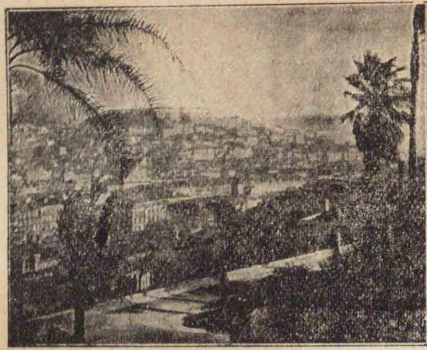
ローマ市内の  
ヴァティカン市

(中央はセントペテロ寺)



ネーブルスとヴェスヴィアス





リスボン

住民政治

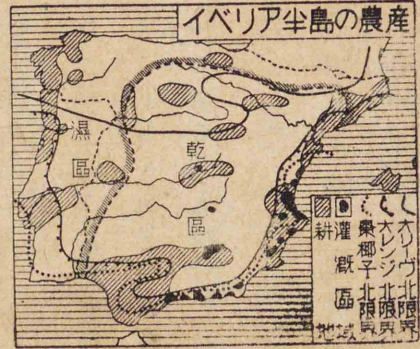
投資経営にかゝり、鑛石のま  
ま英・獨・伊に輸出される。地  
中海岸はオリヴ・葡萄・コ  
ク<sup>カシ</sup>柵が多く、バルセロナはコ  
ルクを輸出し、紡織製紙業が  
盛である。大西洋岸は多雨  
で葡萄・玉蜀黍・小

麥を産し、オポルトはポ  
ルトワインの輸  
出港である。

三

住民政治

住民の大部はラテン族で舊教を奉じ、スペイン・ポルトガル二共和国を建ててゐる。スペインは屢、内亂を繰返したが、近年フランコ政権が確立し、獨伊兩國を背景として防共を標榜してゐる。首府はマドリッドである。ポ



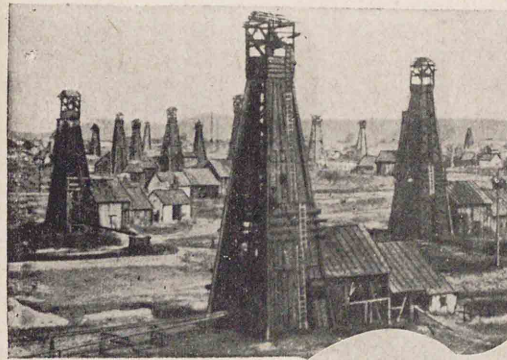
アテネの展望



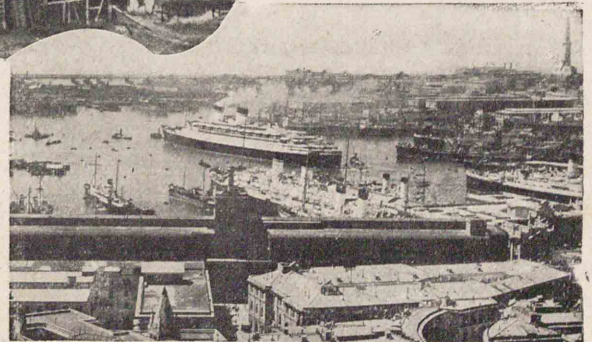
ブカレスト市



ギリシャの薔薇採取

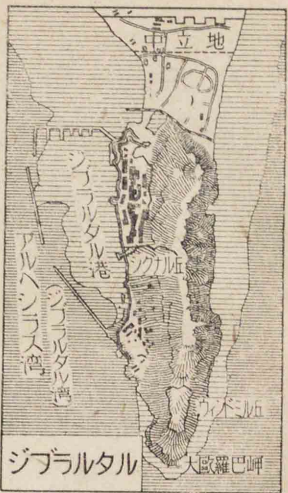


ルーマニアの油田



ゼノア港





ルトガルの首府リスボン<sup>五九</sup>は葡萄酒・コルクを輸出する。バレアル諸島 スペインの東地中海にあつて、軍事交通上樞要な位置を占める。ジブラルタル 地中海の西口を扼し、英國の直轄領土で、要塞貯炭所がある。

○ フンドラ

バスク族の小共和国で、佛・西兩國の保護を受けてゐる。

○ 第二節 イタリー(伊太利)

概説

五方料  
二五萬人  
三萬方料  
四五萬人

概説 イタリーは地中海の中央に突出する半島と數箇の島嶼とから成り、アフリカ・バルカン半島と相對し、これ等の地域と密接な關係を有する。面積・人口とも我が内地の二分の一であるが、近時バルカン・アフリカに進出して著しく領土を擴張した。

地勢氣候

地勢氣候

北部には高峻なアルプスが連つて、自然的國境となり、これから流れるポー河は、ロンバルデー平原を開いてゐる。アペ

産業



アルプス山麓の氷河湖

アルプスの水力利用の盛なものと、勞力が豊富なのとで近代工業が興り、ミランの紡織、チューリンの紡織、車輛、ジエノアの綿織物等は名高い。水都ヴェニス<sup>三三</sup>も嘗ては商工業が榮えたが、今は硝子、寶石細工を

ヨーロッパ

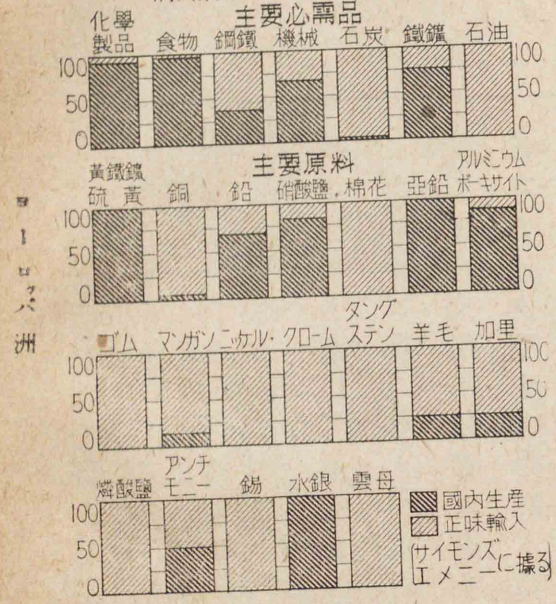
イタリーの産業  
● 地産地銷  
● 工業  
● 主要工業  
● 葡萄酒  
● 養蠶  
● 造船



ニン山脈は、半島の脊梁をなし、シシリー島よりアフリカに連る。ヴェスヴィアス・エトナ等有名な火山が聳え、屢地震が起る。一般に地中海性氣候を呈し、雨が多く、温暖であるが、北部は稍大陸性である。  
産業處誌 (一) 北部 ロンバルデー平原はこの國第一の生産地域で、小麦・玉蜀黍・米等の農産が多く、山麓は養蠶が盛である。近年



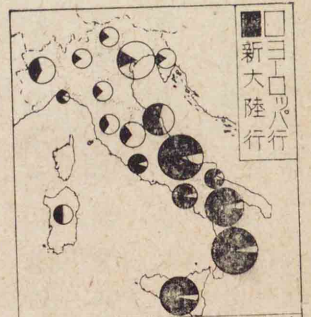
イタリアの自給自足力  
 国内生産及び正味輸入額は平均消費額に對する百分率として示す



ヨーロッパ

住民政治

住民政治  
 人口が稠密  
 以上に増加  
 率も大であ  
 るから、國外



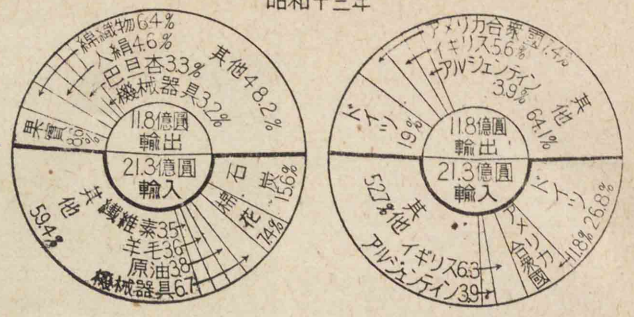
イタリア移民の出身地旅行先地



移民が多く、過去五十年間に一千万人に達した。  
 住民はラテン族のイタリア人が多く、熱情的で藝術に長じてゐる。立憲王國で、統一後未だ百年にならな

交通・商業

イタリアの貿易  
 昭和十三年



交通・商業 この國はスエズ運河開通以來、歐亞連絡の世界的航路に直面し、又鐵道はアルプスを越えて中歐諸國に通じてゐる。近年自動車の利用も著しく、航空路は國に隣接國北アフリカに開通した。ジノア、ブリンディシ、ネーブルス、フィウメはこの國の門戶、中歐の南門として發展してゐる。貿易は次第に増加して石炭、棉等を輸入し、綿、人絹製品を輸出する。

産するのみで、近代工業は對岸の埋立地に起つてゐる。  
 (二)半島島嶼 半島は農産に乏しく、僅かに葡萄、オリヴを産する。鑛産は、硫黄、大理石は豊であるが、石炭、鐵、石油等が少い。首府のローマ及び舊都フロレンスは人絹硝子、陶磁器の産が多く、ネーブルスは製糖機械等の工業が盛である。シシリ島のパレルモは果實、硫黄の産が豊で、サルデーニア島は鑛産地である。

ヨーロッパ



いが次第に國勢が振ひ、近年ムッソリーニ首相統率の下に國民一致協力し、エチオピア・アルバニア二國を併せて、植民地は本土の十倍に達した。また今次の大戦には、ドイツとの軍事同盟に基づいて英佛に宣戦し、地中海・バルカンの制覇を目指し、往年のローマ大帝國の實現を期してゐる。

ヴァチカン市　ローマ市内の西部を占める小獨立國家で、ローマ法王廳の支配に屬し、セントペテロ寺法王廳等がある。

日本とイタリー　自然・人文上我が國との類似點が少くない。既に滿洲國を承認し、我と防共協定を締結し、また日獨伊三國同盟を結ぶ等、極めて親善の關係を保つてゐる。貿易は盛でないが、我から屑絲・眞綿・製帽用眞田を買ひ、我へ自動車毛織物・帽子を送る。

サンマリノ　アペニン山中にある古い小共和國である。  
マルタ島　地中海にある英領の小島で、その主邑ヴァレッタは英國地中海艦隊の根據地である。

〇西方料  
二〇四 人

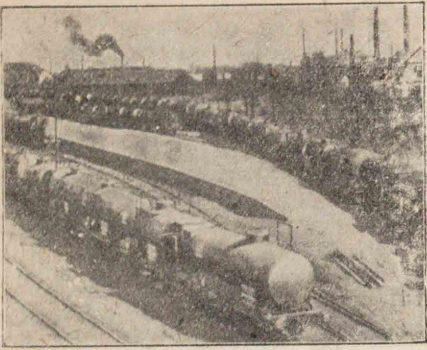
日本とイタ  
リ

六方料  
一四 萬人

### 第三節　バルカン半島

バルカン半島は、トランシルヴァニア・アルプ・バルカン・ディナル・アルプ・ピンドス等の山脈が連つて數地域に分かたれてゐる。ダニューブ河は、その間を貫流して黒海に注ぎ、流域は主要生産地帯である。地中海沿岸は屈曲・島嶼に富み、地中海性氣候で、葡萄酒・オリウ油・薔薇油等を産する。

内陸地方は稍大陸性を呈し、麥類・玉蜀黍・甜菜・煙草等を産し、テッサロニキ・ブカレスト・ガラツ等は、その集散地である。北東部には石油を産し、プロエステイで製油が行はれる。バルカン半島は歐亞諸民族の混合地域で、複雑な地形と相俟つて、小民



ルーマニアの油田



ルーマニアの油田



三五萬方人  
一四五萬方人

三〇萬方人  
一九〇萬方人

一〇萬方人  
六七萬方人

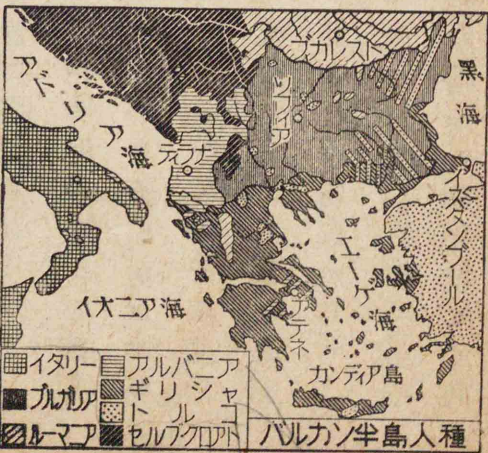
三萬方人  
六五萬方人

族國家が分立し、従つて古來紛亂が絶えず、歐洲の噴火口」と稱せられる。

ユーゴスラヴィア 南スラヴ族の立憲王國でテッサロニキを門戸とする。首府はベルグラードである。第二次歐洲戦争により獨逸兩軍のため、ユーゴスラヴィアが占領せらるるや、クロアチア國は獨立を宣言し、獨逸兩國の承認に引續き、我が帝國もこれを承認した。ルーマニア ラテン族(ルーマニア人)の立憲王國で、大戦後領土が倍加し、首府はブカレストである。

ブルガリア 南スラヴ族(ブルガリア人)の立憲王國で、舊領土の回收を計つてゐる。首府はソフィアである。

ギリシヤ ギリシヤ人の立憲王國で、古い歴史を有し、首府はアテネである。これ等の弱小國は民族的に一致しないのみでなく、強國に依存す



ギリシヤは最近獨逸兩軍の占領下にある。

産業

るので、これに乗じて、ソ聯はその大民族國家の建設と海洋への出口を求めて南進し、ドイツは石油とダニューブの水運を要求し、伊はアドリア海の制覇を期してアルバニアに進出し、英佛はそれ等を抑制せんとして干渉する等、バルカン諸國は多事多難である。

第七章 總括

産業 面積は狭いが、北東部を除いては、地形氣候に恵まれ、資源が豊富な上に、文化が進んでゐるため、自然はよく利用せられ、産業及び經濟の發達は殆ど最高度に達してゐる。略中央を東西に連る大平原は農業が進み、麥類・馬鈴薯・甜菜等が多く、殊にその東部は穀倉といはれ、その産物を穀物の不足する西部に供給する。南部の地中海沿岸には各種の果實が豊富で、養蠶及び米作も亦行はれてゐる。北東部は大森林が連り、中部の山地と共に林業が榮え、木材

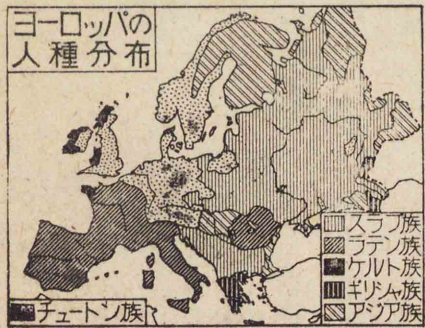
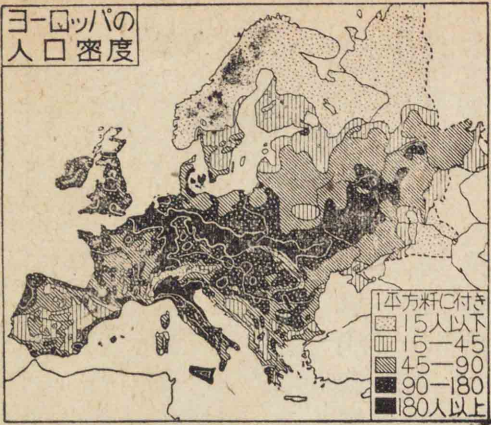




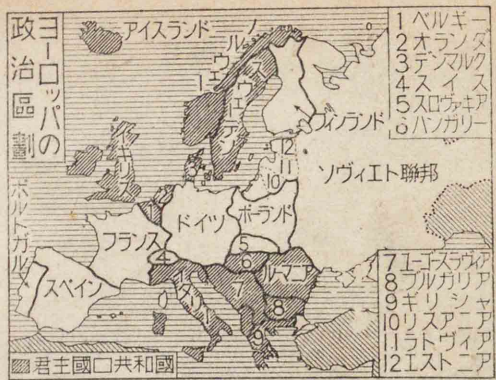


住民政治

も通じてゐる。海運は世界の主要航路が集中し、北アメリカとの往來が特に繁く、通信網もまた完備してゐる。従つて商業貿易が活潑で、英・獨・佛の諸國は、概ね我が國以上の貿易額を有し、世界の經濟金融の大中心となつてゐる。我が國と本洲との通商關係は、明治の中頃までは、本洲は我が國の最大の貿易相手であつたが、その後我が工業の進展につれ、原料供給地のアジア洲とアメリカ洲との貿易が盛となつた。しかも近來、我が工業の躍進により、國産品のヨーロッパ進出を見るに至つた。



住民政治 人口は五億を超え、世界最大の密度を有し、殊に西半に稠密である。ヨーロッパ人



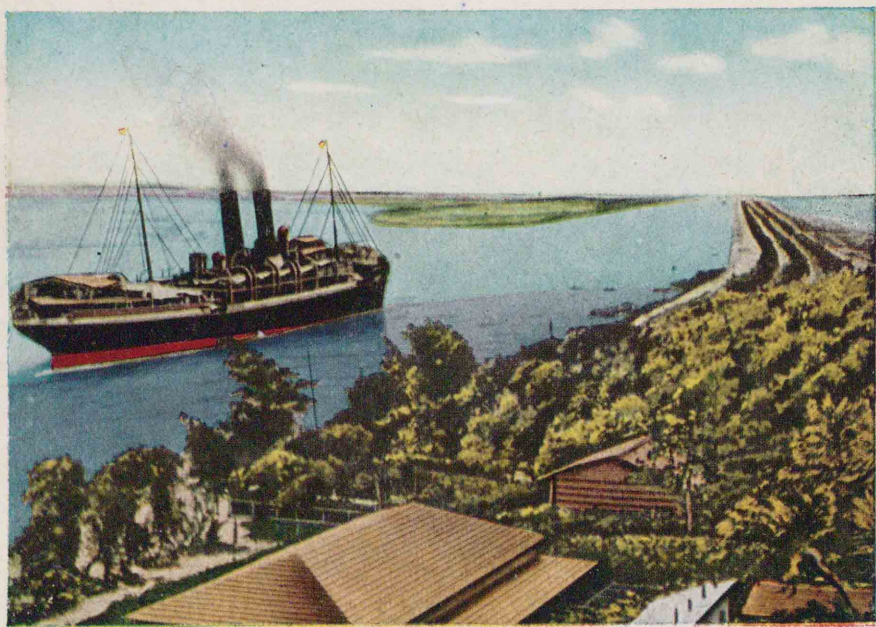
種が九割を占め、概ねキリスト教を信じる。その中、ラテン族は南部に多く、典雅で藝術に優れ、舊教を信じ、チュートン族は北西部に多く、着實で研究心に富み新教を奉ずる。スラフ族は東部に多く、素朴で忍耐力が強い。これ等の三大民族は他の弱小民族を支配し、或はそれ等の建てた國家を壓迫してゐる。

獨立國家は大小三十餘を數へ、その中獨伊二國は、各國家意識を強調し、國民精神を鼓舞して政治的・經濟的に現状打破を主唱し、英・佛は民主主義を強調し、現状維持を圖つて對立したが、遂に第二次歐洲大戰となり、將に英・佛等の舊勢力の壊滅を見ようとする情勢にある。





ピラミッドとスフィンクス



スエズ運河



概説  
地勢海洋

アフリカ洲

### 第三編 アフリカ洲

#### 第一章 序 説

東西の異中における緯度維度、  
度は知れぬもの多し、

面積 三〇四〇萬方呎  
人口 一五〇〇萬 人 一一方呎五人

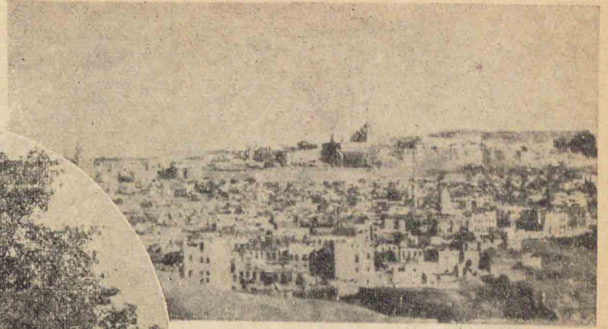
一四〇

概説 アフリカ大陸は、嘗て北部には世界最古の文明が起つてゐたが大部は暗黒大陸と言はれた。然るに十九世紀後半、リヴィングストン・スタンリー等の探検以來漸く内陸の事情が明らかとなり、其の後大部は白人の支配下に置かれたが、尙未開發の土地が廣い。

地勢海洋 アフリカ大陸は一面の高原つゞきで、北部にアトラス山脈が横たはり、東部に大地溝帯が縦走する。この大地溝帯は高い火山や



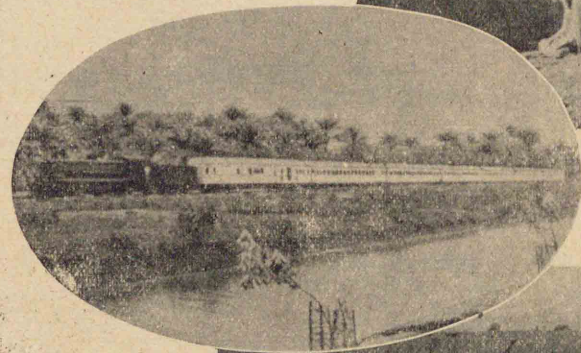
カイロ市街



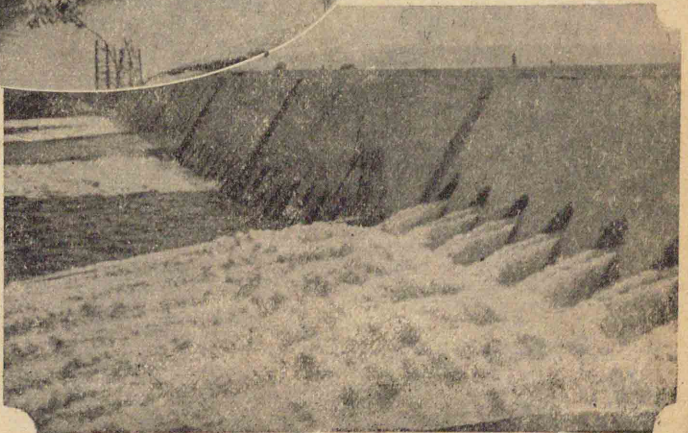
サハラ沙漠



スエズ運河地帯を  
走る列車

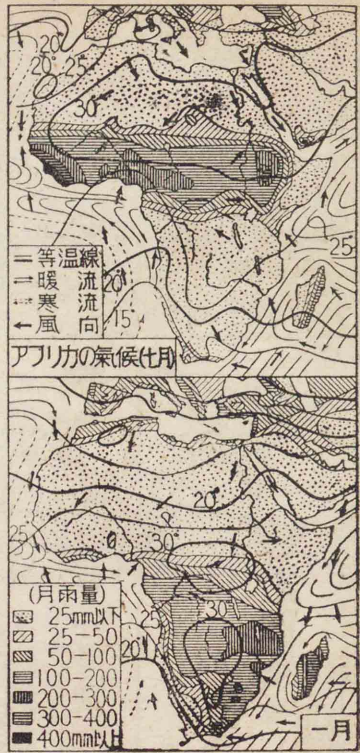


アスワンの大堰堤



バオバブ樹

氣候・生物



多くの湖沼を伴ひ、これより發するナイル・コンゴ等の大河は諸所に急流瀑布をなして海に注いでゐる。

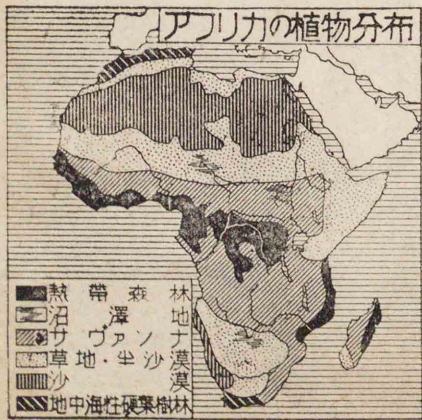
海岸は概ね單調で良灣に乏しい。

氣候生物 大部は熱帯に屬し、中

央の赤道地方は炎熱多雨で、熱帯林が繁茂し、南北兩端は冬季に、溫暖多雨の地中海式氣候を呈し、稍開拓が進んでゐる。

中央熱帯林の南北兩側は、サヴァンナよりステップに漸移し、更に北部にはサハラ・リビア、南部にはカラハリ等の沙漠が分布してゐる。バオバブ樹の孤立する草原には、獅子・

アフリカ洲





象・斑馬・密林にはゴリラ・大蛇・河馬・鱷等、巨大・獍猛な動物が横行して、本大陸獨特の景觀を呈する。

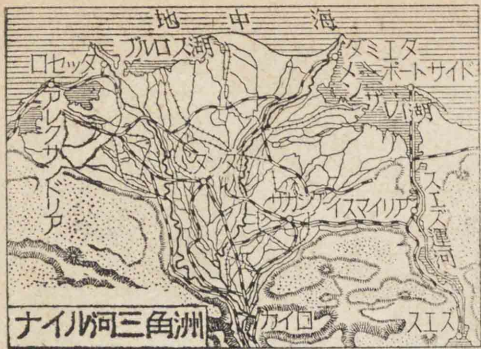
## 第二章 北部アフリカ

エジプト  
先萬方人  
五三萬人

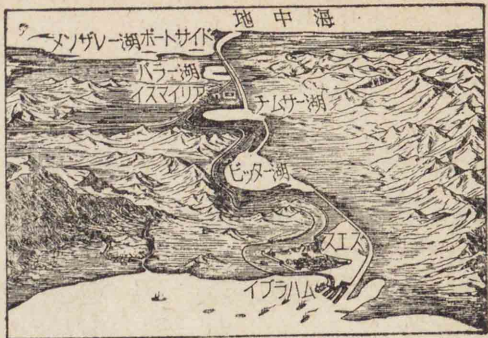
地中海沿岸地方で、氣候がよく、比較的開拓が進んでゐる。古來歐

洲との關係が深く、その植民地が多い。

エジプト 大部は沙漠であるが、ナイル河の氾濫によつて、河谷・三角洲は豊饒な農耕地となり、世界で最も良質の棉を産するほか、甘蔗・煙草・小麥の産が多く、また燐礦も少くない。



スエズ運河は南北の入口にポートサイド・スエズの兩港がある。



スエズ運河 紅海・地中海間の湖沼の多い地峽に、一八六九年レセプス(佛人)が開鑿した全長百六十軒、水面の幅百六十米、水深十一米の水平式運河である。その通過時間は十六時間で、歐亞間の航路が著しく短縮せられ、英印間八七〇〇軒二十一日短縮、東西の交通・經濟・政治上に新紀元を劃した。英國が運河の實權を握り、又國際運河として各國船に開放し、通航料を徴收する。一箇年の通航船舶は、約六千隻(三三〇〇萬噸)に及び、我が國の汽船も大いにこれを利用してゐる。

住民の大部はナイル流域に密集し、セム族のエジプト人が多く、回教を奉ずる。一時イギリスの保護國となり、大戰後獨立したが、依然イギリスの勢力が強大である。首府カイロは陸・水空の交通の要地に當り、附近にピラミッド・スフィンクス等、古代文化の遺蹟が多く、アスワン附近には大堰堤を築造して、乾期にも灌漑によつて棉が作られるやうになつた。アレクサンドリアは古來著名





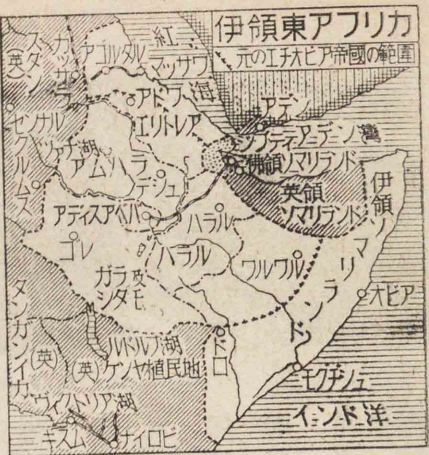


め、金剛石は近時急に産額を増して世界第一となり、尙ゴム、椰子油、銅、金等の産が多く、コンゴ河は水量が豊で、大陸横断路の一部となつてゐる。

大西洋には、ナポレオン一世の配所として有名なセントヘレナ島を初め、多くの火山島が散在し、交通上の要地となつてゐる。

#### 第四章 東部アフリカ

東部は紅海の南岸よりザンベジ河の下流に至る地域で、その西部にはアフリカ大地溝帯が連る。熱帯海岸に甘蔗、コブラ、ゴム、椰子油、煙草等を産し、紅海沿岸に鹽が作られる。高原は少雨で、サヴァンナには羊牛の牧畜が行はれ、珈琲、天然曹達等をも産する。海岸より高原に數條の鐵道を通じ、奥地の開發に供せられる。北部にハム族南部にバンツ族が多く、一般に文化が後れてゐる。伊領東ア



フリカは舊エチオピアを含み、首都アディスアベバよりフランス領ジブティに鐵道を通じ、イギリス領はソマリランド、ケンヤ及び統治委任地タンガンイカに分れ、南部に葡領東アフリカがある。我が商品は最近この地方に著しく販路を開き、我が汽船もジブティ、モンバサ、ザンジバル等に寄航し、綿製品を齎し、鹽を積んで歸る。

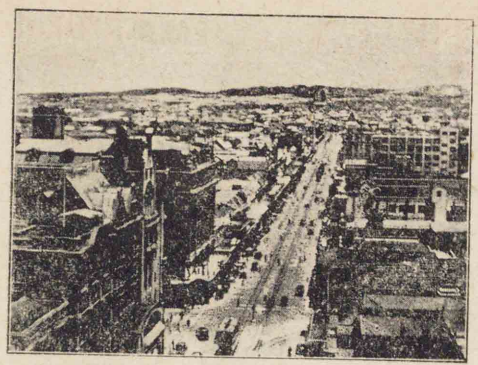
マダガスカル島は世界第四の大島でフランスに屬し、マレー人が多く、旅人木、擬猴類等の珍奇な生物が存在する。

#### 第五章 南部アフリカ

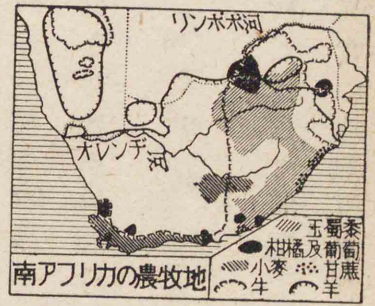
大陸南部を占める一大高原で、概して温暖である。海岸は甘蔗、玉蜀黍を産し、それより小麥、果實の産地に漸移し、更に内部は草地、沙



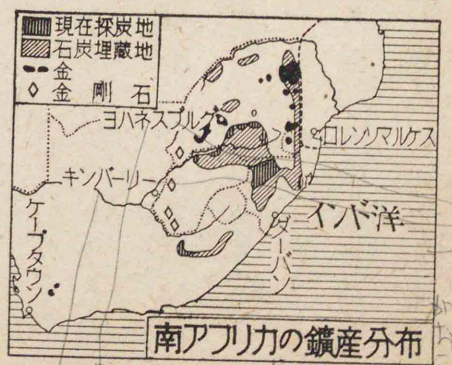
漠となり、牛・羊・駝鳥等が飼養せられる。内陸には金剛石・金・マンガン・鑽石・石炭の産出も多く、殊にヨハネスブルグ附近の金、キンバリー



ダーバン



南アフリカの農牧地



南アフリカの鑛産分布

リーの金剛石は世界的に著れる。住民は黑人(バンツ・ホッテントット・ブッシュメン)のほか、氣候が溫和なため、蘭人(デリア人)及びイギリス人が多く有色人種の移民を禁じてゐる。英領南アフリカ聯邦は、四箇の自治州より成り、プレトリアに聯邦政府を置いてゐる。聯邦議會のあるケープタウンは、アフリカ縦貫鐵道の起點で、金・小麥・羊毛等を輸出し、ダーバンと共に我が南米

航路の寄航地で、我が國へは羊毛を輸出し、我が國からは綿製品を輸入する。

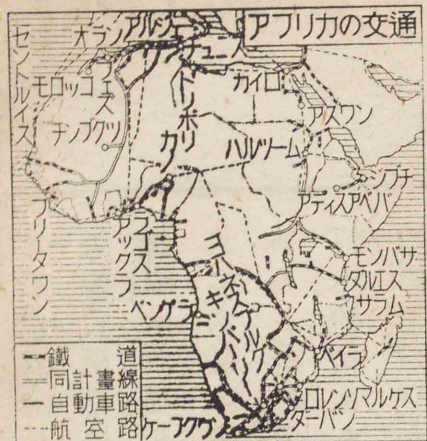
ベチアナランド・ローデシアはイギリスの保護地、舊獨領西南アフリカは南アフリカ聯邦の委任統治地である。

### 第六章 總括

産業  
交通・商業

産業 大部は酷熱で密林・沙漠が廣く、南部の鑛産以外はあまり産業は振はない。近年白人の努力によつてナイル河畔その他に人工灌漑が行届き、寡雨地も耕地と化して、棉・椰子等の熱帶性産物を次第に増加しつつある。また牛・羊等の有用動物も生育するに至つた。

交通・商業 交通は自然的障害が著しく、今尙原始的



英吉利人が自給する  
南西戦争  
一四八

金剛石  
ヨハネスブルグ  
キンバリー  
ケープタウン

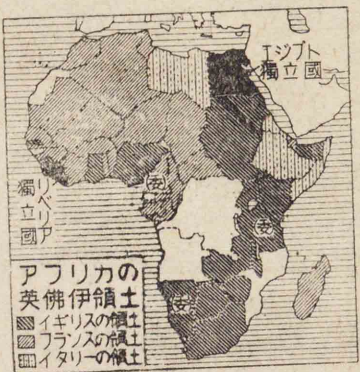
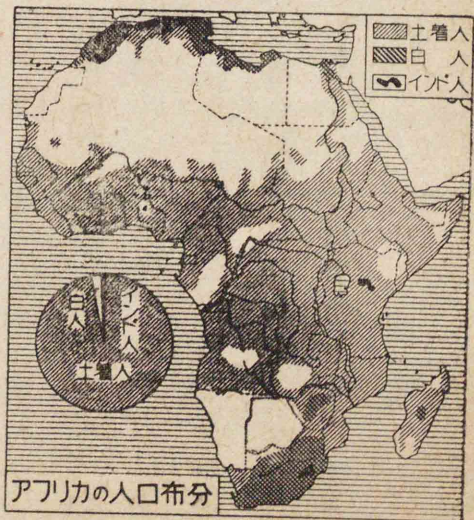


で馱獸人力による場合が多いが、近時自動車の利用も盛になつた。鐵道は北部と南部とに敷設され、更に大陸縦貫鐵道が完成し、航空路もこれに沿つて開拓され、英本國へ連絡する。物々交換の原始的商業が残存し、貿易は主に領有

住民政治



國との間に進行はれる。近時我が商品の進出が著しい。  
住民政治 アフリカ人種は全住民の三分の二を占め、主として中部以南に居住する。ヨーロッパ人種は北部・南部に分布



はエチオピアを併合し、ドイツも亦その舊領の回收を企ててゐる。  
し、支配的地位に立つてゐる。ハム・セム族は回教を奉じ、白人はキリスト教を信ずる。土人は文化の程度が低く、白人の支配に甘んじ、エジプト・リベリアの如き獨立國に於ても白人の勢力が強い。英佛二國の領土が本洲の大部を占めてゐるが、近年イタリ

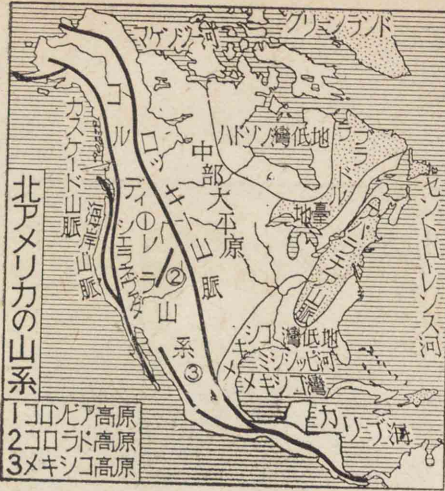


### 第四編 北アメリカ洲

面積 二萬六千方千米  
人口 一億二千萬人

#### 第一章 序 説

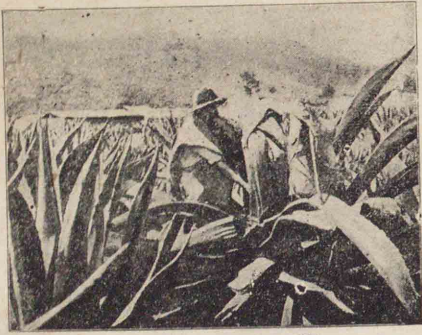
概説  
地勢・海洋



概説 北アメリカ洲は、太平洋・大西洋によつてアジア・ヨーロッパ大陸と離れ、南アメリカ洲と共に新大陸と呼ばれる。コロンブスの発見以來、西歐人が渡來して植民地を開いたが、一七七六年、アメリカ合衆國の獨立以來、十一箇の獨立國が出来た。

地勢・海洋 東部にはアパラチア山脈やローレンシア高臺があり、西部には多くの高原盆地を挟み、火山を伴つた雄大なコルディレラ山系が連つてゐる。この東西兩高地の間には大平原

氣候・生物

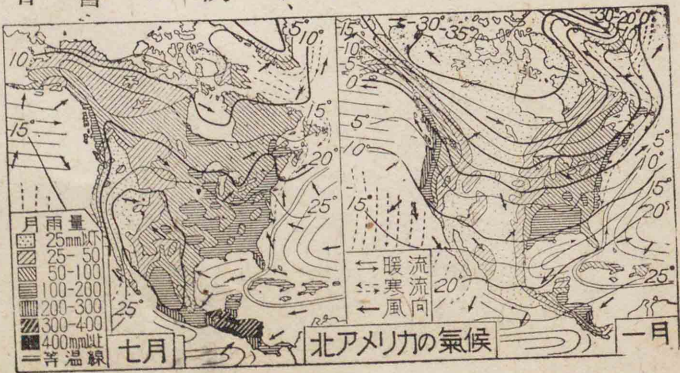


龍舌蘭

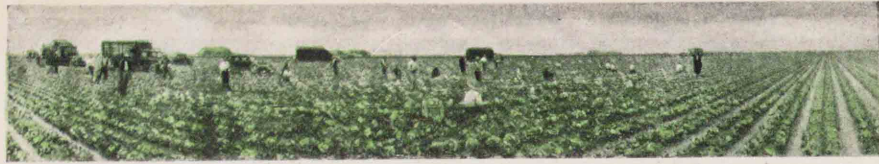
北アメリカ洲

が開け、世界第一の長流ミシシッピ河が流れ、五大湖等が横たはつてゐる。海岸は一般に屈曲に富み、特に北部には峽灣・島嶼が多い。氣候・生物 大西洋岸はメキシコ灣流に洗はれ、海洋性氣候を呈するが、北部はラブラドル海流が南下して比較的寒い。太平洋岸は日本海流の影響を受けて雨が多く、温暖である。内陸は大陸性氣候で雨が少く、草原・沙漠がある。

サボテン・龍舌蘭・ピューマ・海狸・蜂雀・響尾蛇等は本洲特有の生物で、棉・甘蔗・珈琲等は他洲より移植されたものである。







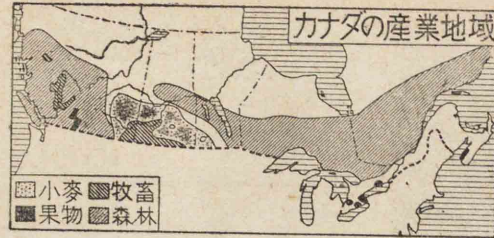
カリフォルニアに於ける我が移民の農場



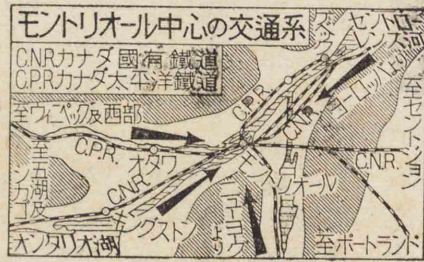
カリフォルニアに於ける果樹園



北アメリカの棉の栽培景



概説  
地形・気候・産業  
九毫萬方軒  
一二三萬人  
東部



概説

面積は略ヨーロッパに匹敵し、南部は開拓が進んで、資源に

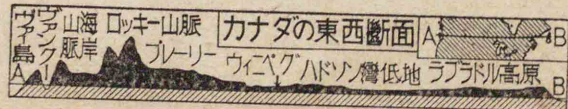
第一節 カナダ(加奈陀)

北方にあるので気温が低く、不毛地が多い。廣大な地域であるが、人口が少く開拓が不十分である。

第二章 北部地方

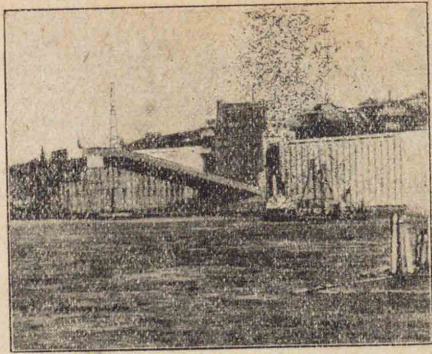
北アメリカ洲

富み、イギリスの主要植民地となつてゐる。  
地勢気候産業 東部はローレンシア臺地が連り、ニッケルの産に富み、セントローレンス河谷には、附近の森林とナイアガラの水力とを利用し、製材・パルプ・製紙が行はれ、オタワ・モントリオール・ケベック等の工業地が勃興した。近海は漁業が盛で、不凍港ハリ





中部低地  
西部山地  
交通商業



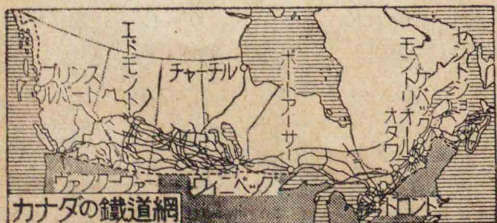
ヴァンクーヴァーの  
小麦倉庫

フランスは漁港・商港として榮えてゐる。中部平原は雨が少く、<sup>六</sup>ウニペグ附近には牧牛・酪業が行はれ、又小麦・馬鈴薯を産し、<sup>三</sup>五大湖沿岸の鐵・銅と共にポータースーで集散される。西部山地は白金・金・石炭等の鑛産に富み、<sup>二</sup>温暖多雨で森林が發達してゐる。海岸には鮭・鱒の漁獲が多く、中心地の<sup>五</sup>ヴァンクーヴァーは木材を輸出する。

交通商業

鐵道は南部に發達し、カナダ國有鐵道及びカナダ太平洋鐵道の幹線がある。五大湖・セントローレンス川は水運に利用されるが、冬期は凍結する。大西洋岸は歐洲及びアメリカ各地との交通が繁く、太平洋岸もアジア及び濠洲と航路を通ずる。貿易は英・米との間に盛に行はれ、主に小麦・新聞用紙・パルプ等を輸出し、石炭・石油

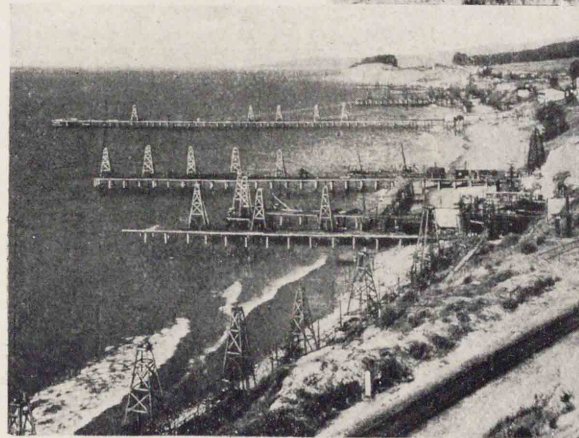
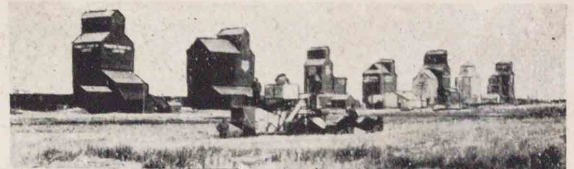
北アメリカ洲



カナダの鐵道網

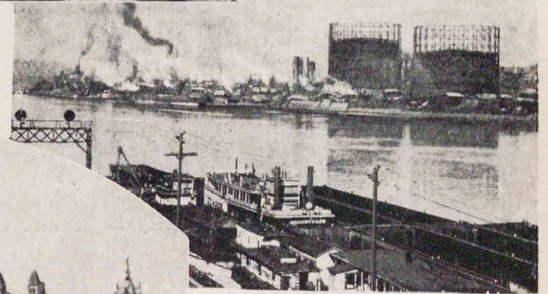
一五五

カリフォルニア  
の油田



カナダの  
小麦收穫

オタワ市



ピッツバーグ

セントジョンズ港



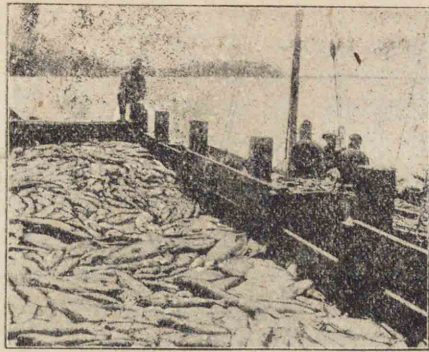


綿製品等を輸入する。

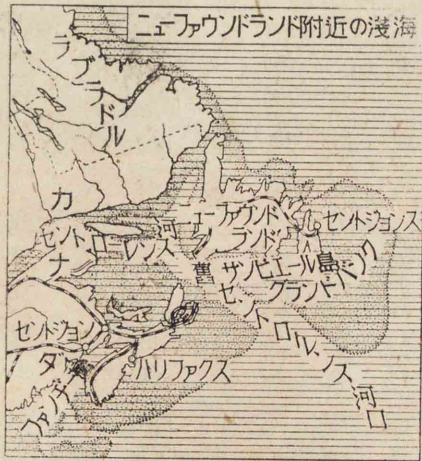
住民政治

住民政治 曾てはフランスの植民地であつたが、十八世紀以來イギリスの領土となつたもので、イギリス人が過半を占め、東部にはフランス人が住み、北西部に少數の土人が居住する。聯邦組織で、カナダ自治領と稱せられ、オタワに總督が駐在する。議會軍備を有し、國際上恰も獨立國の觀がある。

二萬方  
元萬 人



フレザ-河の鮭漁



ニューファンドランド 島内は多くの鑛脈を藏し、石炭、鐵、銅の採掘が行はれ、また近海は鯨、鱈、鯖等の世界的漁場となり、首府セントジョンスは商港漁港として發展した。

第二節 アラスカ 附 グリーンランド

アラスカ 山が多く寒氣が酷しいので開拓が遅れてゐるが、山地の金、河川や沿海の鮭、プリビロフ諸島の臘肭獸等の産が有名である。近年、アジア洲に對する交通、軍事上、重要視せられ、アリューシャン列島中のウナラスカは軍港となつてゐる。

グリーンランド 世界最大の島でデンマークに屬し、僅かにエスキモー人が漁獵を行つてゐる。

第三章 アメリカ合衆國

概説 六四萬方  
二五〇萬 人

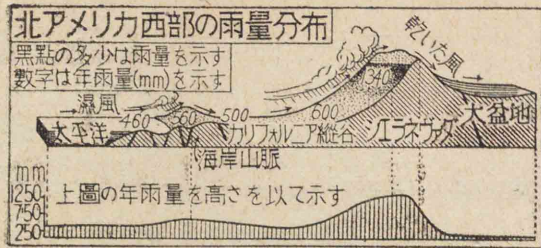
概説 温帶の中央に位する廣大な地域を占め、列強中最も資源に富み、その國勢は新大陸の全土に及ぶ。

地勢海洋 東部にはアパラチア山脈が連り、その山麓臺地と海岸平地との間には瀑布線が發達し、發電地帯となつてゐる。

北アメリカ洲



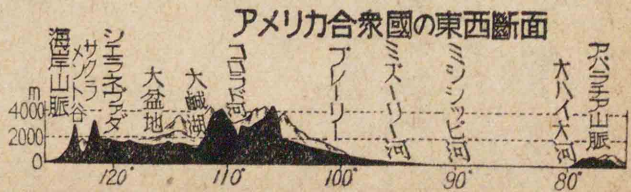
氣候  
産業・處誌



西部のコルデレラ山系には、ロッキー山脈を主として數條の山脈が並列し、その間に大盆地コロラド高原及びカリフォルニア盆地等を擁してゐる。中央平原は主にミシシッピ河の流域である。海岸は大屈曲に乏しいが、大西洋岸には良港灣が多い。

氣候 南部は高温多雨で熱帯生産地となり、北部に進むに従ひ雨量を減じ、草原となる。メキシコ灣流に臨む東海岸は氣候が良好であるが、西部の高原は乾燥不毛地が廣い。太平洋岸は地中海性氣候を呈し、冬は温暖である。

産業・處誌 國土が廣く、地味も肥え、氣候も良好で、また資源が豊富な上に、その利用、開發がよく行はれてゐるので、産業の發達は著しく、その規模も大きい。



東部 臺地平地には良質の棉、煙草を産し、アパラチア山地の豊富な石炭、石油、鐵及び瀑布線の水力を利用して機械、紡織、製油、煙草製造等が行はれ、ポストン、フィラデルフィア、リッチモンド等の工業市が興つた。ニューヨーク(紐育)は米國の東半を後背地として發達した世界最大の商工市

で、大建築が聳えてゐる。郊外のバターソンは我が生絲を輸入して絹織に榮え、首府ワシントン(華盛頓)は清麗な政治都市である。近海は鱈、鯨等の好漁場で、沿岸には牡蠣の養殖も行はれ、ボルティモアは罐詰業が盛である。

中部 五大湖の附近は鐵(全國の七〇%)を産し、又、石油、石炭も多く、且ナイアガラの多量の水力發電によつてピッツバーグ、クリーヴラ

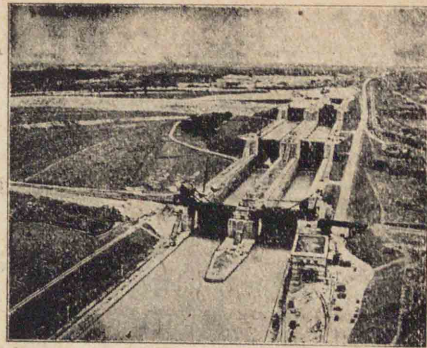
中部

北アメリカ州

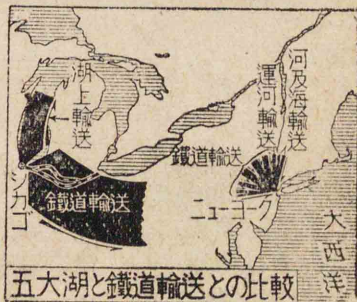
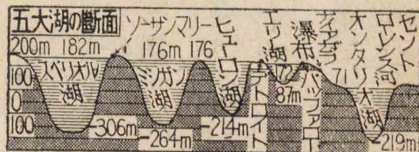








ナイアガラ瀑布回避運河



通過貨物のみでも、ニューヨーク、ワシントン、ロンドン

西部

西部 山地は金銀銅鉛亜鉛アルミニウム等の鑛産に富み、大盆地は灌漑によつて農業、牧畜が行はれ、コロンビア高原には森林が連つてゐる。カリフォルニア盆地は果樹園藝が盛で、邦人の活躍が目覺



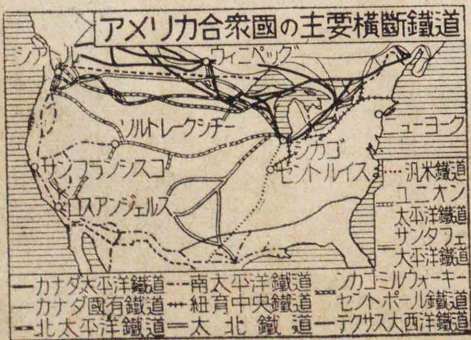
交通・商業

ロスアンゼルスは製油、映畫製作で著れる。

交通・商業 産業の發達と共に、交通も著しく進歩してゐる。鐵道は世界延長の三分の一を占め、東部に多く、數條の大陸横斷線によつて、太平洋、大西洋を連絡してゐる。また自動車

自動車の發達が世界第一で、その製造高は一年に二百七十萬臺を算する。

自動車 米國の自動車製造會社は、デトロイトの



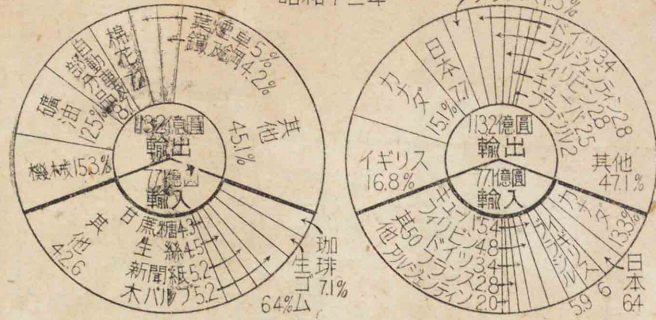
しく、サクラメントがその中心である。ロスアンゼルス附近は世界最大の油田があり、南部のインピリアル谷は邦人の努力によつて棉果實の産地となつた。サンフランシスコは西岸第一の貿易港で、シアトルと共に極東濠洲との取引が行はれ、





サンフランシスコの鳥瞰と中心街

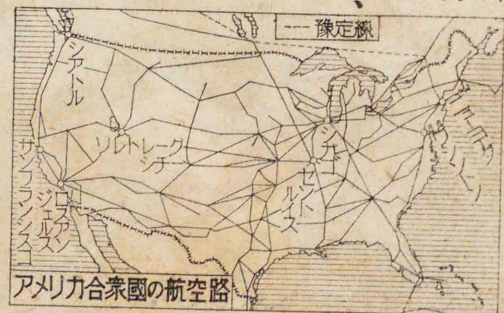
アメリカ合衆国の貿易  
昭和十三年



五大湖及びミシシッピ河は水利が多く、重要な内陸水路である。海運は世界大戦後大いに發達し、ニューヨーク・サンフランシスコ等を中心として各大陸に向つて開け商船噸數もイギリスに次いで第二位である。航空路は國內は勿論、遠く南米・アジアに及んでゐる。

海底電線・無線電信は他の大陸との間に連絡され、ラジオの發達も著しく、無線電話も大いに利用されてゐる。

貿易は加英・日・佛・獨等との間に行はれ、パナマ運河開通以來、商圏が著しく擴大した。常に出超を續け、機械・礦油・自



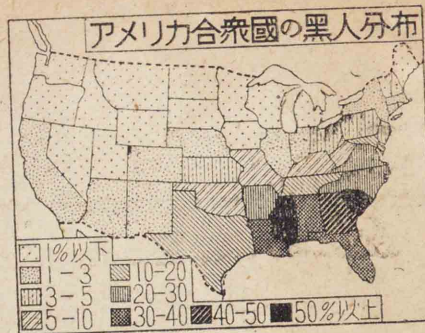
アメリカ合衆国の航空路

北アメリカ洲

フォード自動車會社・ゼネラル自動車會社等が最も有名で、米國の自動車總産額の九割を占めてゐる。我が國の各地にも、この會社の特約販賣店がある。



住民政治



北アメリカ洲

一區四十八州より成る聯邦共和國で、嘗ては移民を歓迎したが、近年これに制限を加へ、殊に東洋移民を禁止した。モンロー主義を唱へ、汎米政策を實行し

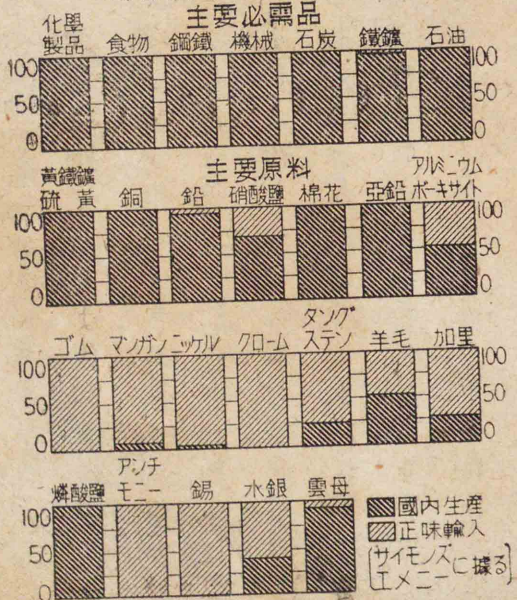
自動車及び部分品、棉花、葉煙草、鐵及び鋼等を輸出し、珈琲、生ゴム、パルプ、新聞紙、生絲等を輸入する。

住民政治

人口は一億二千萬を超え、人口密度は我が國の十分の一に過ぎない。チヤートン系の白人が大部を占め、キリスト教を奉

アメリカ合衆國の自給自足力

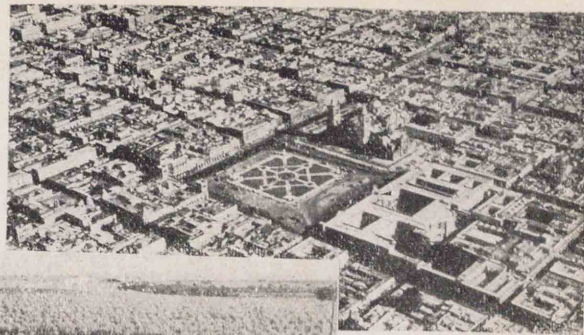
國內生産及び正味輸入額は平均消費額に對する百分率として示す



ユカタン半島のシザル麻畑



メキシコ市の下瞰



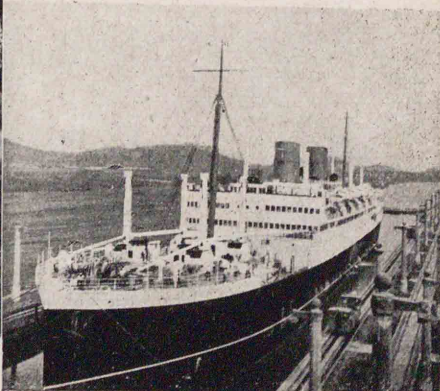
キューバの煙草畑



モントリオール市



パナマ運河 (ミラフロレス開門)







日本とアメリカ合衆國

て新大陸に勢力を伸ばし、國際間に重きをなしてゐる。日本とアメリカ合衆國 嘗ては我が國の開國を促し、十一萬の移民を入國せしめてゐる。近年は我が國第一の貿易相手國として親密を加へ、我より生絲、罐頭、詰陶磁器、織物類を輸出し、彼より棉花、礦油、鐵機、自動車等を輸入してゐる。然し、既に本邦移民を禁止し、支那に於ける門戶開放を唱へ、強勢なる海軍を擁して、通商條約の廢棄を我れに通告する等、我が國の大陸政策を牽制し、近時動もすれば兩國の利害は相反するものがある。

### 第四章 南部地方

概説

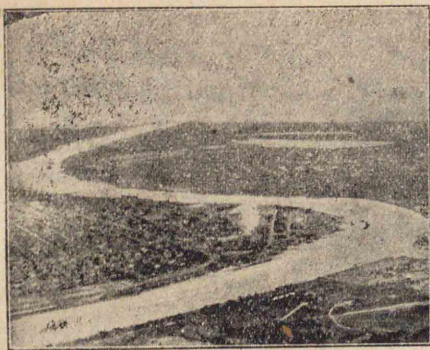
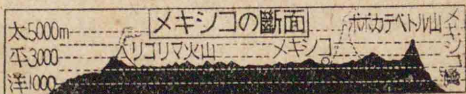
概説 南北アメリカ大陸の中間に位し、陸橋的役目を有すると共に太平洋・大西洋を分ち、兩洋の連絡上重要な位置を占める。大部は熱帯に位

地勢・氣候・産業

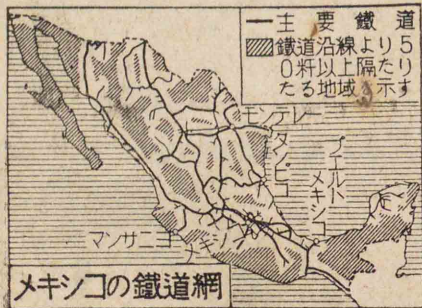
し、弱小國が群立してゐる。

### 地勢・氣候・産業

コルディレラ山系はメキシコ高原よりユカタン半島に續き、更に西インド諸島を列ねてゐる。火山脈を伴ひ、火山・地震の多い地方である。大部は北東貿易風帯に屬し、酷熱で雨が多く、低地には甘蔗・バナナ・マホガニー材を出し、高地には珈琲・ココア・煙草・棉・シザル麻等を産する。

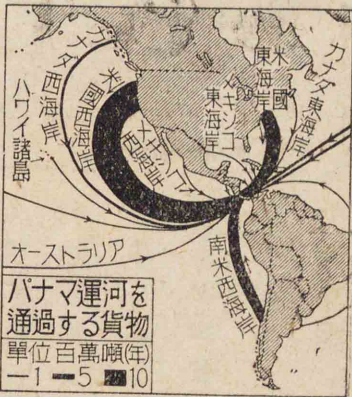
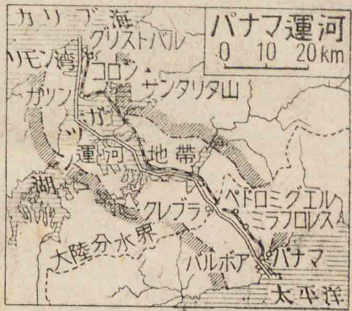
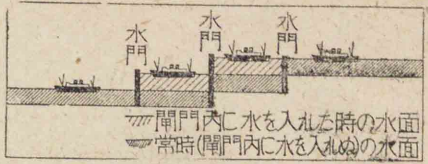


タンピコの油田



メキシコ高原は銀(世界第一位銅鉛等の鑛産に富み、氣候が乾燥するので、サボテン・龍舌蘭が野生し、小麥・玉蜀黍が作られる。東麓のタンピコは、合衆國につゞく石油の産地である。交通・商業 鐵道は多く外資によつて





敷設され、メキシコを中心として米國に三條の縦斷線が通じてゐる。海運も亦多く外國船に依存してゐる。パナマ運河は米國の經營により一九一四年に開通した閘門式運河で、

これを通過するに七時間を要する。この運河によつて太平洋大西洋の航路が著しく短縮し、世界の交通・商業に大變化を來した。近年交通量の激増に鑑み、更にニカラグア運河の計畫がある。貿易は主として米國との間に行はれる。

住民政治

住民政治 大部はイスパニア人とその混血のメスチゾ族より成り、西インド諸島にはアフリカの黒人が多い。嘗てはイスパニア・フランス等の植民地であつたが、メキシコを初め、中央アメリカに



キューバの甘蔗の收穫



は七箇の共和國、西インド諸島にもキューバ・ハイチ・ドミニカの三箇の共和國が獨立してゐる。その外、米・英・佛・蘭等の植民地が各處にあるが、一般に米國の勢力が大きい。メキシコの首府メキシコは、二千米の高原上に位する。キューバの首府ハバナは砂糖・タバコ

處誌  
メキシコ  
二萬方人  
四〇萬

産業

産業 氣候が良好で、天然資源に恵まれ、その上交通が便利で、各種産業の發達は著しい。農業は、中央大平原で大規模に、所謂アメリカ

第五章 總括



カ式大農法で行はれ、玉蜀黍、麥類、棉、煙草、甘蔗の産額は、世界に冠絶し、馬鈴薯、甜菜等の産も多い。また、豚、牛、羊等の世界的牧畜地帯である。林業は、西部及び北東部に盛で、北部の沿海は、魚族が多く、世界的の水産産業地として知られてゐる。鑛産は、アパラチア山系、五大湖附近及びコルデレラ山系中に頗る豊で、金、銀、銅、鐵、石炭、石油等は、何れも他の大陸を凌ぐ。かくて原料と水力の利と相俟つて、近年益々大規模に近代工業が行はれ、東部地方は殊に盛で、世界有数の大工業地帯をなしてゐる。

## 交通・商業

**交通・商業** 土地は、一般に平坦であるから、鐵道の敷設が容易で、鐵道の延長は、世界の凡そ三分の一以上に達し、東部地方は鐵道網の發達が著しい。殊に太平洋、大西洋を連絡する十條の横斷線がある。五大湖、諸大河の水運は、大陸の交通に便利を與へてゐることが多い。自動車の普及も著しく、日常必須の交通機關となつてゐる。

沿岸は良港灣に富み、航路は四方に通じて、海運は盛である。殊にヨーロッパとの間に最も盛で、巨船の往來が頻繁である。パナマ運河の世界海運界に與へた影響も大きい。航空路の發達も著しく、北アメリカ各地は勿論、南アメリカ及び太平洋を横斷して、遠くアジアとも定期航空路が開けてゐる。

通信機關も普及し、海底電線、無線電信は諸大陸に通じ、無線電話も國內は勿論、ヨーロッパ、南アメリカの主要都市間と、我が國との間に通じてゐる。

貿易も近年益々盛で、この大陸に産する食料品、原料品や工業製品は、世界各地に仕向けられ、主に嗜好食料品、贅澤品を輸入する。英、加、獨、佛及び我が國との間に取引が大きい。特に我が國にとつては、本洲は原料、食料の重要な供給地で、アメリカ合衆國の棉花、石油、鐵、木材及びカナダの木材、パルプ、小麥は我が必需品である。我よりは從來生絲、絹織物、陶器等を輸出してゐたが、近來綿織物、人絹織物、

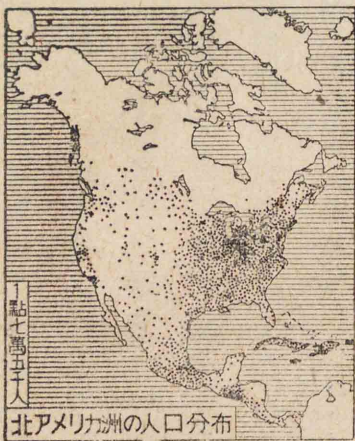


住民政治

ゴム製品電球等の雑貨の輸出が著しく増加して、實にアメリカ合衆國は輸出入共に我が國の最大の貿易相手國である。

**住民政治** 人口は東部に密で、西部山地北部寒冷地に疎である。

白人が四分の三を占め、チウトン族を主とし、南部にはラテン族が多い。原住民のインディアンは、南部に至るに従つてその數を増し、エスキモーは北部の寒地に住む。曾て奴隸であつたネグロ族は熱帯に、東洋人は西部に多い。十一箇の獨立國の中、廣大な領土と



豊富な資源とを有する米國が壓倒的に優勢で、モンロー主義を唱へ、汎米政策を實行して中、南米に勢力の伸展を計つてゐる。

第五編

南アメリカ洲

面積 一八〇萬方  
人口 七〇〇萬人

附 北極地方、大西洋

第一章 序 説

概説

**概説** 新大陸の南半で、大部は南半球に位し、我が國の對蹠地に當る。舊大陸より遠く離れてゐるため、開拓が遅れた。コロンブスの發見以來、西、葡兩國の植民地となつたが、十九世紀の初から何れも分離して、十箇の共和國が獨立するに至つた。

地勢海洋

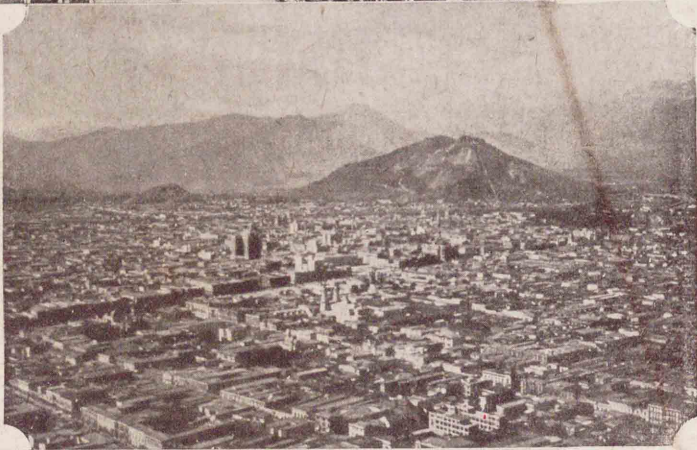
**地勢海洋** 西部には高峻なアンデス山脈が連つて火山脈を伴ひ、

地震が多い。東部にはギアナ・ブラジル兩臺地がつゞき、その間に低平な大平原が開け、オリノコアマゾン・ラブラタの三大河が流れてゐる。海岸は一般に屈曲が少い。

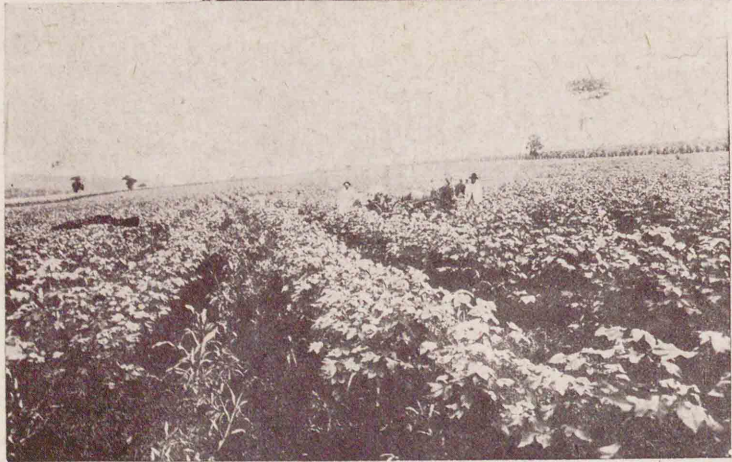




ブエノスアイレス港

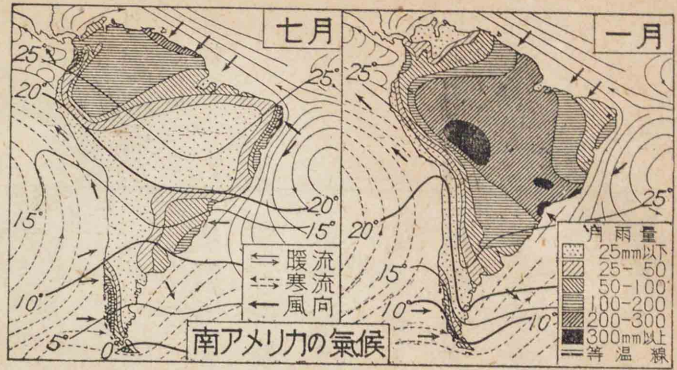


サンティアゴ市の展望



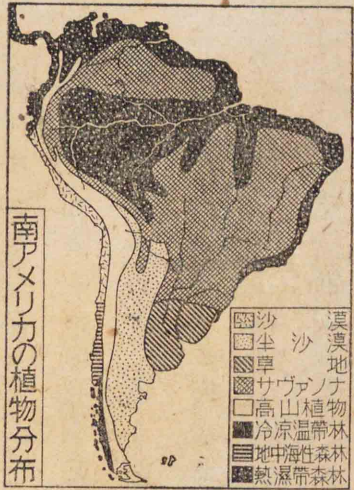
ブラジルに於ける  
邦人の棉花栽培

氣候・生物



南アメリカ洲

第二章 北部地方



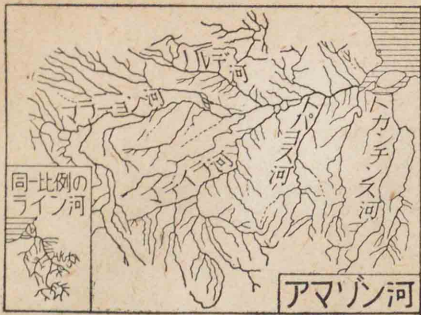
南アメリカの植物分布

く、アンデス以東は草地・沙漠が連る。

一般に炎熱多雨であるから、野生ゴム・マテ茶ケプラチヨ等の有用植物や、ジャガイロ・ピエー・マナマケモノ・アリクヒ・アルマデイロ・蜂雀等珍奇な動物が少くない。羊・牛等は舊大陸から移入繁殖したものである。

氣候生物 大陸の三分の二は熱帯で、貿易風帯に屬し、炎熱て雨が多く、アマゾン流域にはセルヴァスの密林が繁茂してゐる。南部は西風帯で、西岸に雨が多





アメリカ洲

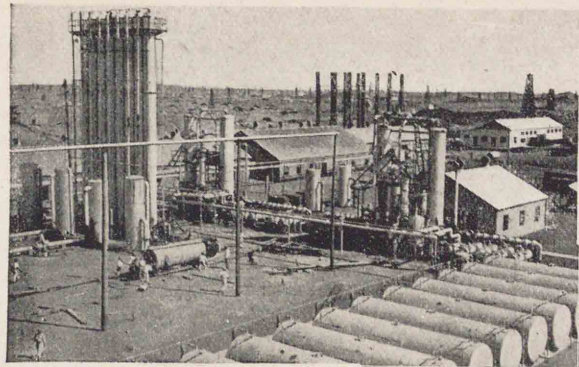
地勢・氣候・産業  
アマゾン河が緩かに流れる。高温多雨のセルヴァスには野

八五萬方  
四四二萬  
人  
概説  
地勢・氣候・産  
業

主として赤道以北の熱帯地で、海岸に雨が多く、甘蔗・ココア・珈琲・葉煙草等を産し、また石油等の鑛産も多い。コロンビア共和国の首府ボゴタ附近からは、寶石・パナマ帽の産がある。ヴェネズエラ共和国の首府カラカスから、ラグアイラ港まで鐵道が通じ、マラカイボ湖畔の石油が近時世界的に知られてゐる。ギアナは英・蘭佛に分屬し、イギリス領トリニダード島はアスファルト・石油を産する。

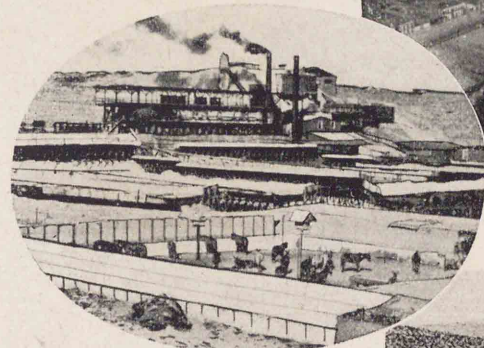
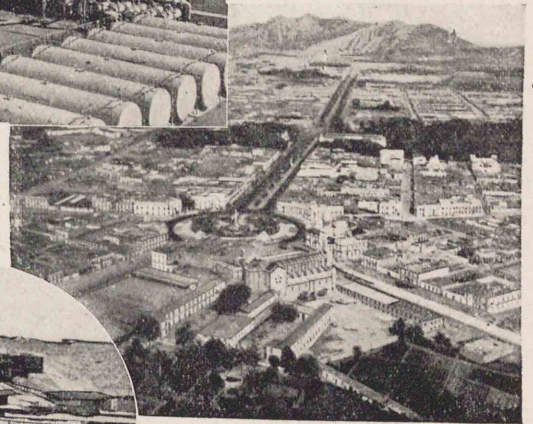
### 第三章 中部地方(ブラジル)

概説 南米第一の大國で、面積は我が國の十三倍に當る。大部は熱帯に屬し、資源が豊て、各國の移民を收容して開拓を計つてゐる。



ペルーの製油所

リマ市の大觀



チリ硝石の工場

グァノ島の鳥群

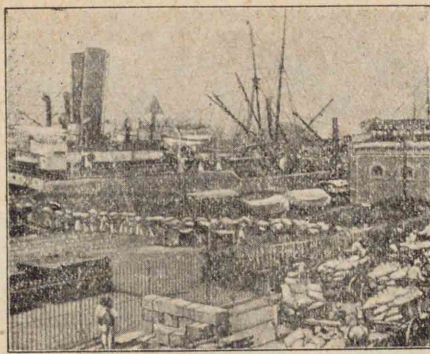


ティティカカ湖の蘆舟



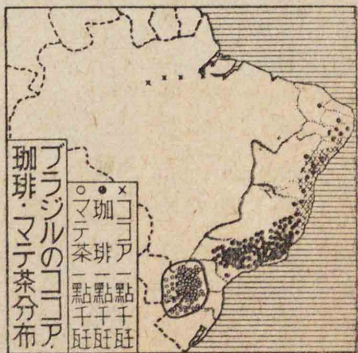
生ゴム・椰子油・染料等の産が多く、殊にゴムは最も良質で、マナオス・ベレム(パラ)から輸出する。

ブラジル高地は古い臺地で、鐵・金剛石・金・マンガンの産に富み、東部の亞熱帶地に玉蜀黍・甘蔗・煙草・ココア・マテ茶を出し、レシフ・<sup>三</sup>バイア



サントス港の珈琲積出し

は、その中心地で、共に砂糖と棉の輸出港である。南部の丘陵地に珈琲が栽培せられ、サンパウロ州を中心として世界の六割を産し、棉・玉蜀黍等と共に、各國移民によつて作られてゐる。サンパウロはその中心をなし、<sup>三</sup>サントスは移民の上陸地で、珈琲の積出しに榮える。南部は草原で、牛・豚・羊の畜産が少なくない。近時綿工業・羊毛工業等が發達した。貿易は主に米・歐との間に



住民政治

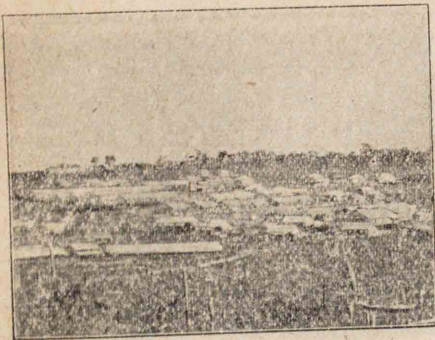
行はれ、珈琲・棉を輸出し、機械その他の製品を輸入する。

住民政治

住民の九割は南部高原に住んでゐる。ポルトガル人の子孫が多く、曾ては移民を歓迎して開拓を進めたが、一九三四年以來これを制限した。五十餘年前ポルトガルから獨立して立憲共和國となつたもので、首府リオデジャネイロは風光明媚の良港である。

日本とブラジル

日本とブラジル 本邦移民は既に二十萬に達し、サンパウロ州に

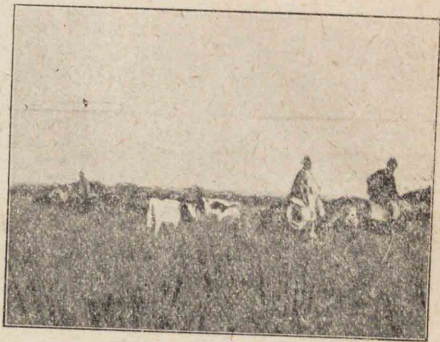


サンパウロ州の我が移民居住地



多く居住する。近時はアマゾン下流にも入植してゐるが、移民制限後、我が渡航者が著しく減じた。この國は南米に於ける我が主要貿易國で、我が國から陶磁器・雜貨類を輸入し、我が國へ珈琲・水晶等を輸出する。





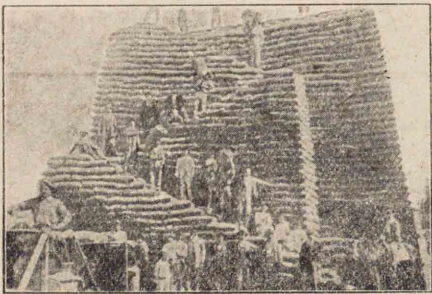
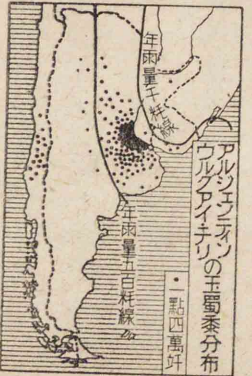
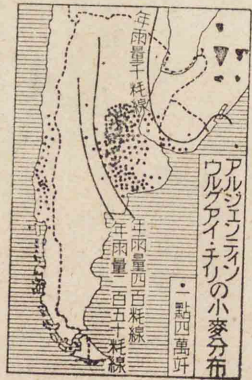
パンパスに於ける  
牧牛景觀

### 第四章 南部地方

南部の温帯地方で、パラグアイ・ウルグアイ・アルゼンティンを含み、廣漠たる平原が展開し、世界的農業、牧畜地帯となつてゐる。

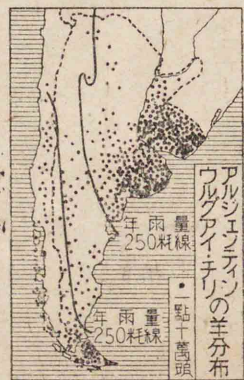
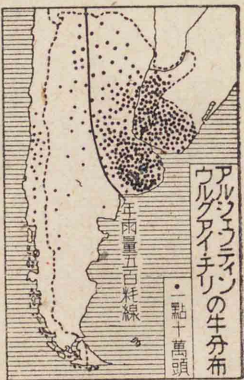
#### 地勢・氣候・産業

はれ、棉・ケプラチヨ等を産する。パンパス(草原)は人工灌溉によつて小麥・玉蜀黍・亞麻が作られ、又羊・牛の牧畜が盛で、羊毛・肉類・バター・皮革等の世界的産地である。ロサリオ、バイアブランカは穀類・畜産の積出し



アルゼンティンの  
小麥の積出し

に著れる。西部山麓は人工灌溉によつて棉・葡萄を産し、メンドサで集散される。鐵道の發達は南米第一で、アンデス横斷線は開通し、第二横斷線も完成に近く、自動車の利用も多い。貿易は主に歐米との間に行はれ、小麥・玉蜀黍・肉類・羊毛・毛皮を輸出し、織物類・石油・鐵及び鐵製品等を輸入する。



住民政治  
パラグアイ  
を萬方人  
ウルグアイ  
を萬方人  
二〇六萬人

住民政治 曾てはイスパニアの植民地であつたので、その子孫が多く、南部にはバタゴニア人が住む。パラグアイ共和國の首府アスンシオンはマテ茶・肉類を輸出する河港で、ウルグアイ共和國の首府モンテヴィデオは肉類・罐詰羊毛・小麥等の積出しに榮える。ア



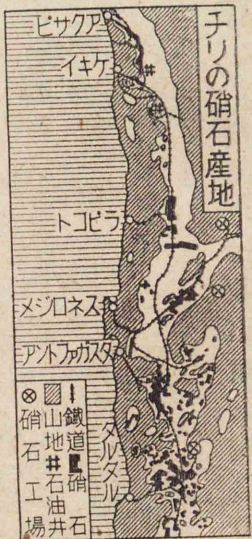
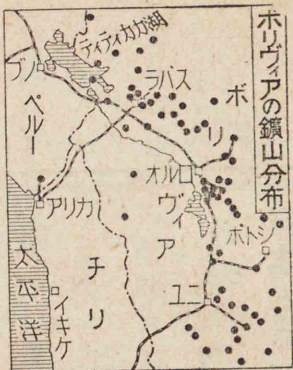
アルゼンティン  
二六〇萬方軒  
二二六萬人  
日本とアルゼンティン

ルゼンティン共和國は南米第二の大國で、ブルジルと共に南米の入移民國として知られる。首府ブレンノスアイレスは南半球最大の都で、アンデス横斷鐵道の起點をなし、農畜産の大市場である。日本とアルゼンティン アルゼンティンは南米中、最も富裕な國で、又我が第一の取引國である。主に我が絹織綿織物を買つて、羊毛を送る。本邦移民は五千餘人で、何れも農業・商業に活動してゐる。フォークランドは牧羊が行はれ、捕鯨の根據地たる南ジョージア島と共に英領である。

### 第五章 西部地方

地勢・氣候・産業

アンデス山脈と西海岸地方とで、チリ・ボリヴィア・ペルー・エクアドルの諸國に分れ、鑛産が多く、高地に文化地帯が發達してゐる。地勢・氣候・産業 高峻なアンデス山脈が海岸に近く縦走し、イリマ



チリの鑛石産地  
ニアコンカグア等の火山が聳え、高原にはチリ・ボリヴィア・ペルー・エクアドルの諸國に分れ、鑛産が多く、高地に文化地帯が發達してゐる。地勢・氣候・産業 高峻なアンデス山脈が海岸に近く縦走し、イリマ

一等の鑛産が豊で、ポトシ・セロデパスコ等の鑛山都市が發達し、海岸のカヤオ・アントファガスタより鑛石を輸出する。東部のセルヴァスはゴムを産し、イキトスはアマゾン河通航の終點である。太平洋沿岸は、北部にココア、中部の寡雨地にグアノ・硝石を産し、イキケより輸出される。チリの中央部は地中海性氣候で、小麦・野菜・果實の耕作に適し、南部の多雨地には森林が繁つてゐる。高原では羊牛の牧畜が行はれ、羊毛・皮革・肉類等を輸出する。





交通・商業

住民政治  
チリ

古萬方糶  
人

ボリヴィア

一三萬方糶  
人

ペルー

二五萬方糶  
人

エクアドル

一五萬方糶  
人

三〇萬人

日本との關係

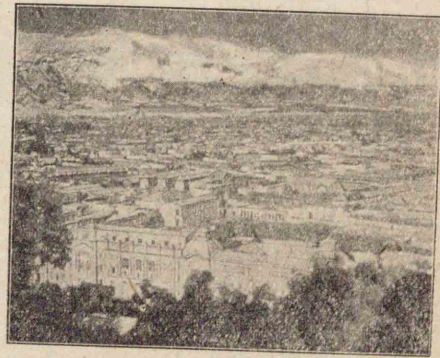
南アメリカ洲

交通・商業

山地の交通にはリマ・アルパカが用ひられ、鑛業の發達に伴ひ海岸に鐵道が通じた。沿岸諸港は、歐米に鑛石を輸出してゐる。

住民政治

アンデス高原は、曾てアメリカ土人によつて建てられたインカ帝國の故地で、クスコはその舊都である。十六世紀以來スペインの植民地となつたが後に全部獨立して共和國となつた。チリは狹長な點で我が國に酷似する。首府はサンティアゴで、外港ヴァルパライソはアンデス横斷鐵道の西端である。ボリヴィア・ペルーは鑛産で著れ、首府ラパスは三千六百米の高地に在り、リマには邦人が多い。エクアドルの首府はキトである。



サンティアゴ市

日本との關係

沿岸諸港は我が南米航路の寄航地で、我よりは綿

布の輸入、彼よりは硝石の輸出が盛である。ペルーに於ける本邦移民は二萬五千に及び、主として商業・農業に活躍してゐる。

第六章 總括

産業

産業 農業・牧畜が盛で、特に氣候の良好なブラジル高地の南部と、水運の便の多いラプラタ河下流地方とは、世界の食料品・原料品の供給地となつてゐる。鑛産は、東西の兩高地に多く、金・白金・銀・錫・銅・石油を出し、また、鳥糞・硝石の特産もある。工業の發達は、一般に

交通・商業

後れてゐる。

交通・商業

交通は、今尙不便で、アマゾン・ラプラタ・オリノコの三大河が内陸に進むべき重要道路となつてゐる。その中、ラプラタ河は最も利用され、鐵道もラプラタ地方・南部ブラジル・チリ附近に發達して、何



南アメリカの交通

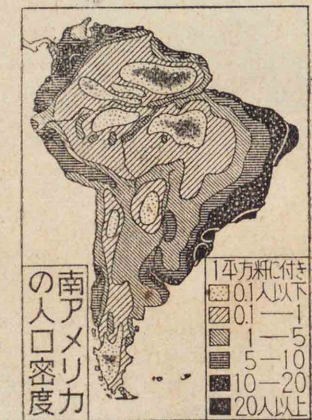
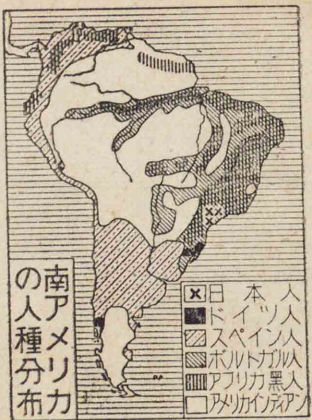
南アメリカ洲



れも海岸の都市から内陸へ向つて放射状に走つてゐる。大陸横断鐵道二線の外に、ペルー等では、太平洋岸から谿谷に沿うて内部に向ふ短距離の鐵道が多い。近年米人は、縦走の汎米鐵道を計畫して、ラテンアメリカを糾合せんとしてゐる。海運は、陸運よりも發達し、他の大陸との間に、汽船の往來が次第に繁くなり、殊にパナマ運河の開通以來、太平洋岸の諸港は、俄に活氣を呈した。

航空路も、次第に開け、歐米と連絡する外、東岸及び西岸に沿うて南北を連ね、また、サンパウロとアリカ及びモンテヴィデオとサンティアゴを結ぶ横断線も開けて來た。我が南米航路の汽船は、南阿を経て東岸に來るものと、アメリカ合衆國を経て西岸の諸港に來るものがある。

貿易は、これ等の海運によつて、主として歐米諸國との間に行はれ、原料品・食料品を輸出して、精製品を輸入する。また、歐米の諸國は、この地方に盛に投資して、その經濟的開發を計つてゐる。



住民政治

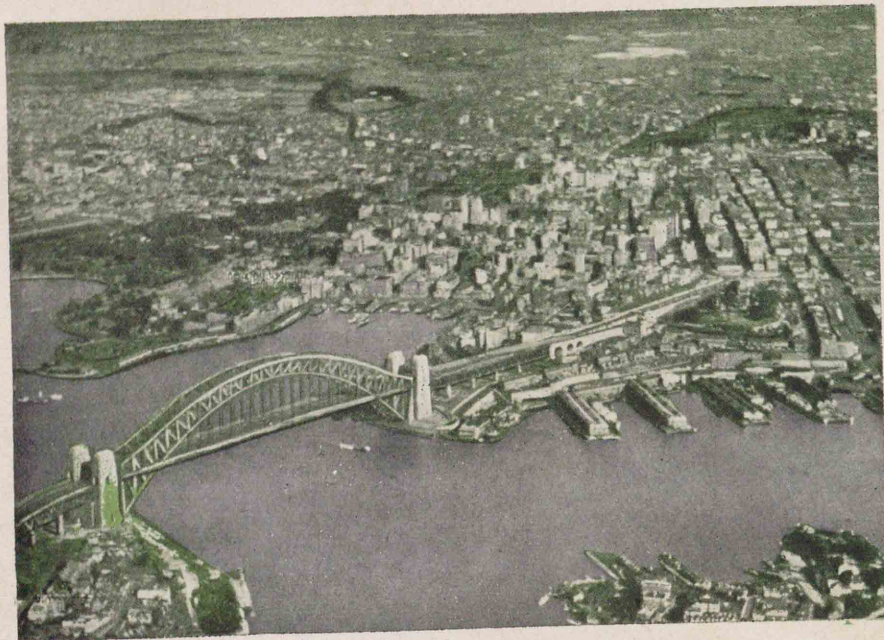
少く、移民を歓迎してゐたが、最近制限を加へるやうになつた。ギアナを除く大部は、西葡兩國植民地より獨立したもので、アルゼンティン、ブラジル、チリが南米のA・B・C三國といはれ、最も富強であるが、米國の干渉が多い。

附 北極地方・大西洋

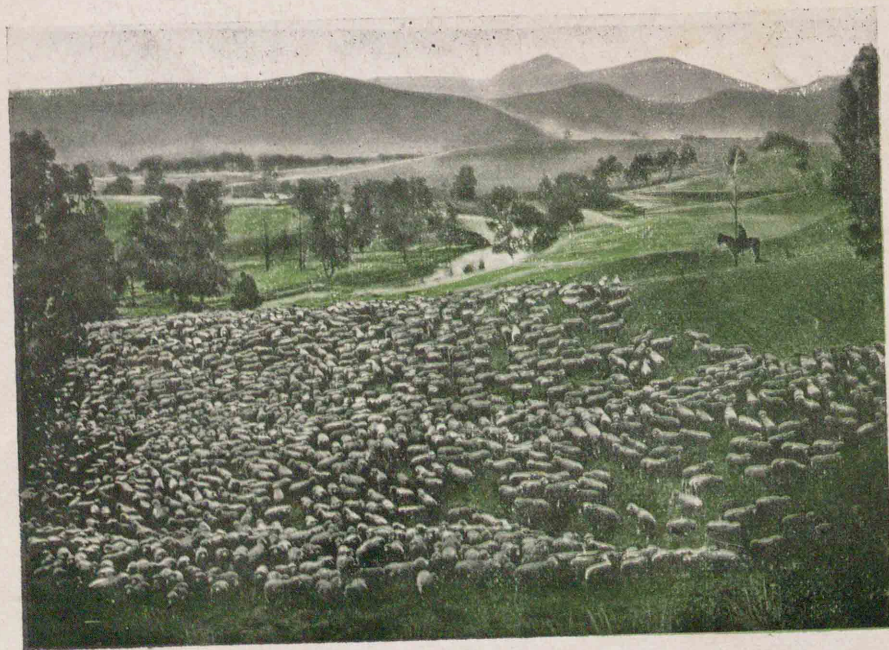
北極地方 北極海が大部を占め、堅氷に鎖されてゐる。米人、ピアリーは北極に達し、諾人、アムンゼン、伊人、ノビレ、米人、バード等は、航空機によつて此の地を探險し、次第にその地理が明瞭になつた。

北極地方





シドニーの大観

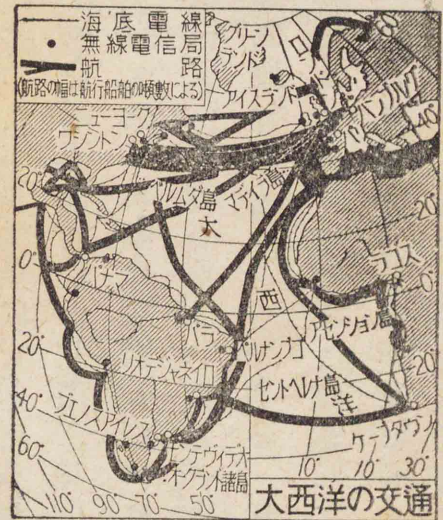
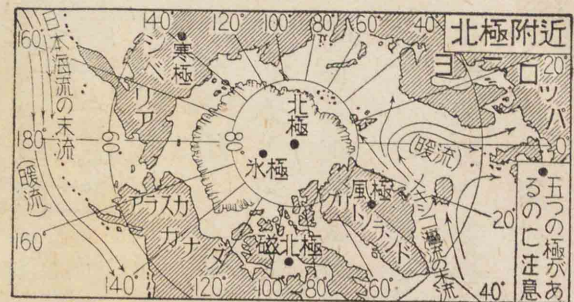


オーストラリアの牧羊

大西洋

南アメリカ洲

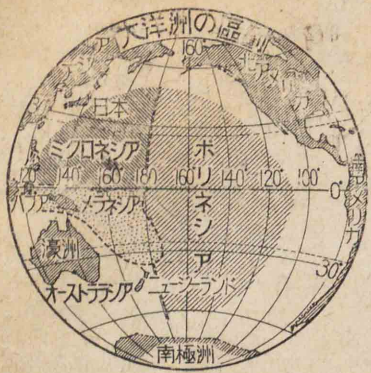
船を浮べてゐる。



四大陸に囲まれその連絡に用ひられる汽船は  
實に世界の過半に及び、歐米航路は世界の豪華  
政治經濟上、イギリスの勢力が最も大である。

スピツベルゲン  
の石炭捕鯨の外  
に近年極北の航  
路及び航空路の  
開拓に着眼せら  
れてゐる。  
大西洋 世界第  
二の大洋で、新舊





大洋洲

概説  
地勢・海洋・氣候

概説

第一章 序説

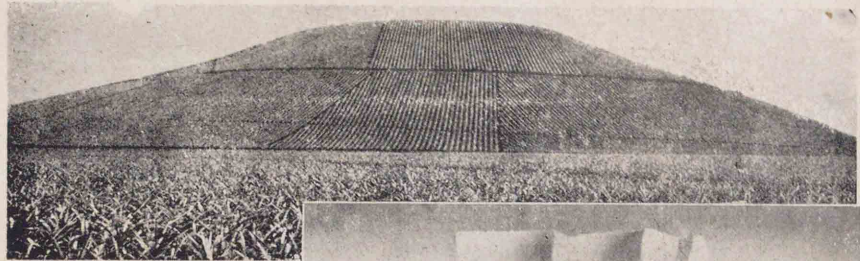
大洋洲は、オーストラリア大陸と太平洋上に散在する大小無数の島嶼との總稱である。十八世紀の後半、英人タックの探検後は、白人の移住者が相踵ぎ、英・米・佛・蘭・日等の領土となつたが、今尙文化の中心に遠く、開發が後れてゐる。

**地勢・海洋・氣候・産業** オーストラリアは世界最小の大陸で、太平洋にはこれを繞つて多くの弧狀列島があり、火山脈を伴つてゐる。オーストラリア大陸は概ね熱

第六編 大洋洲

(オセアニア) 面積 八〇〇萬平方千米 人口 一〇〇萬 一人一平方千米

附 南極地方・インド洋・太平洋



ハワイの  
バナナ畑



南極の氷山と  
ペンギン



中央盆地の  
大鑽井



オーストラリアの  
小麦の山積

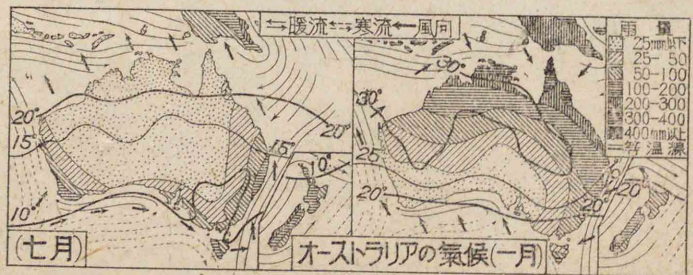


メルボルン市街



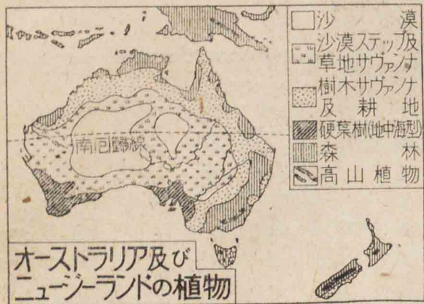
帶性氣候で、大陸内部には沙漠が横たはつてゐる。近時、ヨーロッパから小麥、玉蜀黍、牛羊等の有用動植物が移植せられて、盛に増殖し、世界に於ける重要な原料供給地となつた。一般に島嶼部は海風と驟雨とで凌ぎ易く、ニュージールランド及び大陸の南部は溫和で、白人の移住に適する。しかし産業は發達してゐないが、太平洋上の交通要路に當るものは、政治軍事上重要視されてゐる。

オーストラリア、タスマニア、ニュージールランドをオーストララシアと稱し、島嶼部はメラネシア、ミクロネシア、ポリネシアに大別する。



七〇萬方人  
六五萬人

概説  
地勢・氣候・産業  
東部高地



大洋洲

## 第二章 オーストララシア

### 第一節 オーストラリア聯邦(濠洲)

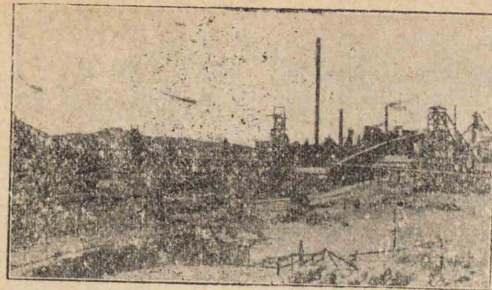
**概説** 南半球の、太平洋とインド洋との中間を占め、赤道を隔てて我が國の南方に位し、距離も近く、彼我の關係が深い。

**地勢・氣候・産業** 東部高地 オーストラリアアルプスが連り、金銅、石炭等の埋藏が豊で、石炭を除き、何れも大半は輸出される。北部は良灣が多く、近海には二千籽に互る大堡礁が發達してゐる。貿易風帯に屬し、高温多雨でバナナ、甘蔗を産し、南部の濫帶は森林が繁茂し、開拓されて農業、牧畜に利用せられ、牛、羊、小麥等の世界的産地となつてゐる。殊に羊毛は産額、品質共に世界無比である。シドニー、メルボルン、ブリスベーン



中央低地  
西部高地

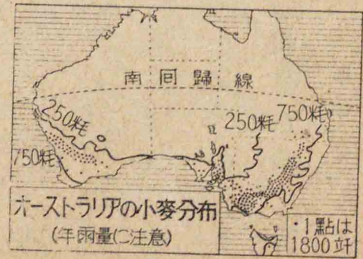
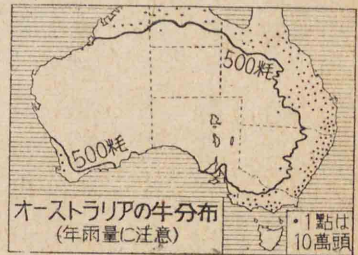
タウンズヴィル等  
はその積出港である。  
中央低地  
マリー  
レーダーリング  
盆地は、



ブロークンヒル 鑛山



人工灌漑によつて小麦を産し、大鑛井盆地は鑛井によつて牧羊が行はれ、アデレードは農畜産の集散地として榮えてゐる。ブロークンヒルは銀、鉛、亜鉛の大鑛山である。  
西部高地 高原には金鑛が多く、カルグーリ、リークール、ガルディー等の鑛山市が急速に發達した。海岸は地中海性氣温で、小麦、葡萄、柑



タスマニア  
六八萬方  
三萬 人  
交通・商業  
住民・政治

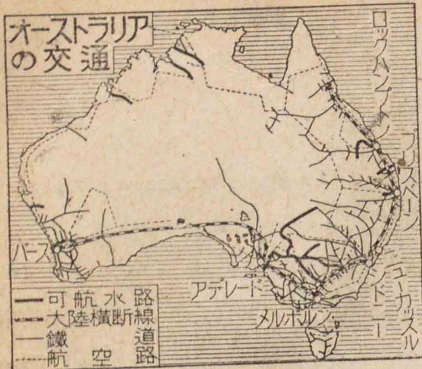
橋を産し、パースはその中心で、プリマントルより輸出される。ブルームは眞珠に著れ、邦人の從業者が多い。タスマニアは氣候が良好で保養に適し、果實が多く、ホバートは良港である。

交通・商業

鐵道は東部に多く、海港より奥地に通ずる開拓鐵道が夙くより發達し、東西横斷線は完成され、南北縦貫線も現在工事中である。近時英本國より航空路も開けた。海運はイギリス船を主とし、我が國の汽船も活動してゐる。羊毛(生産の九割)、小麦、金、肉類等を輸出し、機械、麻織物、絹織物、自動車用品、石油、藥品類等を輸入してゐるが、イギリス本國との取引が過半に達し、日、白米等がこれに次ぐ。

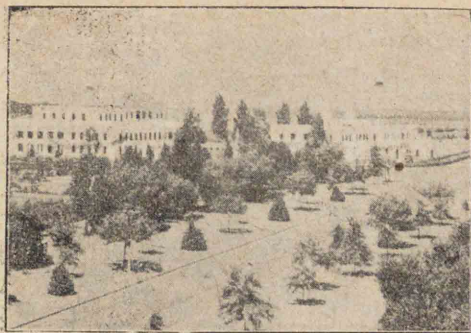
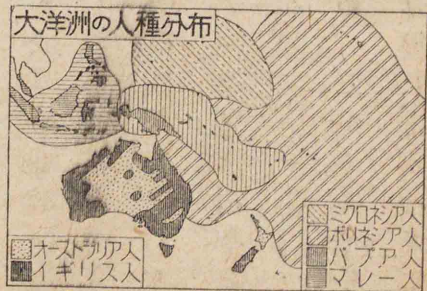
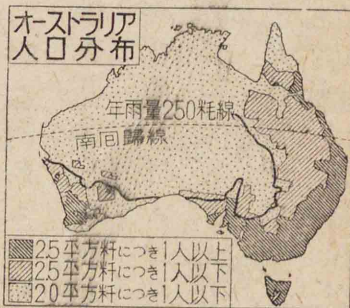
住民・政治

もといギリスの流刑地であつたが、十九世紀の中頃金鑛が發見されて以來、移民が急増し、土人は北部





熱帯地に壓迫せられて減少しつつある。住民の九割はイギリス人で、その大部は南東の一部に居住する。人口密度が極めて小さいにも拘らず、白人濠洲を唱へて東洋人の移入を禁止して



カンベラの聯邦政廳



る。イギリスの自治領で、總督の下に聯邦議會軍備を有し、恰も獨立國の觀を呈する。聯邦は首府區、北部地方及び六自治州より成り、カンベラに首府を置く。

日本とオーストラリア

三萬方料  
一五萬人

日本とオーストラリア 濠洲は羊毛の供給地として我が國と密接な關係を有してゐたが近年日本綿布の輸入を制限し、保護貿易政策をとつた爲、兩國の取引は縮少した。在留邦人は四千人に上り、木曜島、ブルーム附近に多い。

第二節 ニュージージーランド(新西蘭)

イギリスの自治領で、クック海峡によつて南北二島に分れ、北島に火山・温泉が多く、南島には南アルプスが連り、その南側に平野が發達してゐる。温帯に位し、西風が卓越するので、雨の多い西側に、玉蜀黍、牛、乾燥地の東側に、小麥、羊を産し、羊毛産額は濠洲米國、アルジェンティンに次ぎ世界第四位で、酪製品、凍肉等と共に首府のウェリントン及びオークランドより主に英國に輸出せられる。

第三章 太平洋諸島



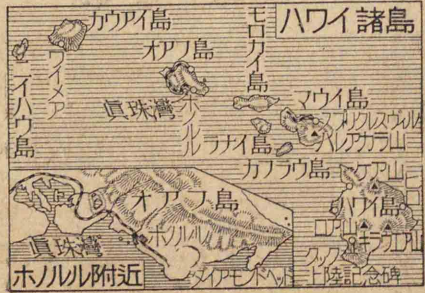


メラネシア  
 パプア島  
 二二萬方軒  
 二八萬 人  
 ニューカレ  
 ドニア  
 一九萬方軒  
 五萬 人  
 ミクロネシ  
 ア  
 ポリネシア  
 ハワイ諸  
 島

メラネシア 濠洲の北東部に連る。パプア島は世界第  
 二の大島で、我が國よりも廣く、蘭濠に分屬する。氣候が  
 濕潤で、健康に適せず、森林が深く繁茂してゐるが、近年ゴ  
 ム椰子・珈琲・葉煙草・金等を産する。然しなほ未開地が廣  
 い。動物には鰐・鸚鵡・極樂鳥等が見られる。ニューカレドニアはフ  
 ランス領で、ニッケルを産し、邦人採掘者は五千人に上る。

ミクロネシア 北西部に位し、我が南洋群島が  
 大部を占める。アメリカ合衆國領のグアム島  
 は交通軍事の要地で、イギリス領ナウル・オーシ  
 アン(大洋)二島は燐礦を産する。

ポリネシア ハワイ諸島は太平洋の中央に位  
 する火山島で、ハワイ島のキラウエアの火口に  
 は熔岩を湛へる。溫暖で雨が多く、甘蔗・パイナップル



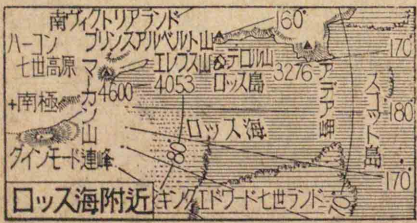
一七萬方軒  
 四萬 人

南極地方

プル・バナナ・珈琲を産し、砂糖・罐詰が作られ、首府ホノルルより輸出  
 される。住民は本邦人が最も多く、十五萬に達して全人口の四割  
 を占め、主に農耕に従事し、或は商業を營む。尙他に多くの民族が  
 雜居してゐる。アメリカ合衆國領で、太平洋の交通軍事上重要な  
 位置を占め、パール灣は海軍根據地である。ミッドウェー(米)、ウェーク(米)、  
 サモア(米・英)等も交通通信上の要地である。

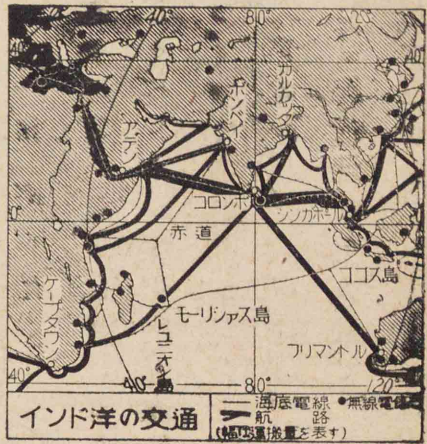
附 南極地方・インド洋・太平洋

南極地方 氷原に被はれた一大高原で、寒氣が酷  
 しく、ペンギン・鯨・臘肭獸・海豹等が棲み、我が國・ノル  
 ウエー等の捕鯨船が活躍してゐる。一九一一年諾  
 人アムンゼンが南極に達し、翌年我が白瀬中尉も  
 ロッス海附近に至り、次でアメリカ人バードは飛行  
 機で探検を試み、漸く地理が明瞭となつた。



大洋洲

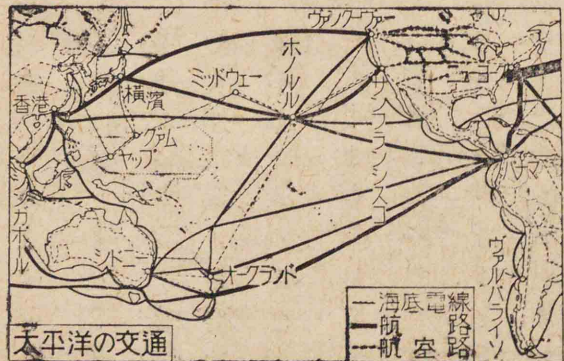




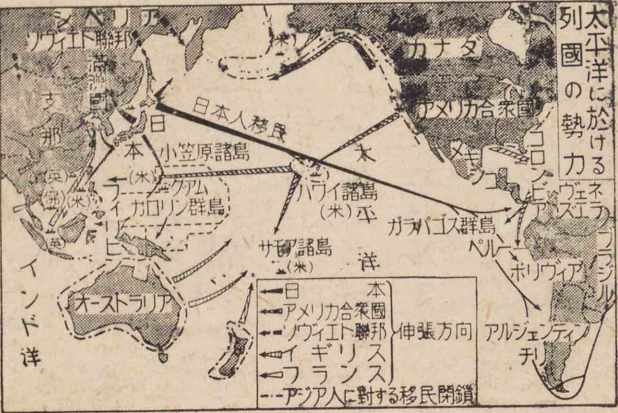
インド洋の交通

の諸港が發展し、ココス島、モリシアス島も利用せられてゐる。

太平洋 太平洋は地表の三分の一を占める世界最大の海洋で、四大陸に圍まれてゐる。その大陸の沿岸には長大な新褶曲山脈と、これに伴ふ火山地震帯を繞らし、殊に



太平洋の交通



つた。

西部には日本列島を初め、花綵列島が並び、その前縁には數多の海溝が連つてゐる。我が國は太平洋の一隅に位し、沿岸各地に移民を送り、資本を投じ、貿易を行ふ等經濟上密接な關係を有してゐる。英佛蘭ソ聯等の歐洲諸國は東進して太平洋岸に領土を占め、米國も亦パナマ運河開通後著しく經濟的發展をなすと共に、太平洋を横斷してアジア進出を企てる等、今や太平洋は列強爭覇の焦點となつた。



結論

我等は世界地理を學び、世界の各國が各、その自然と民族性とに立脚して作つた産業・文化の特色を知り、以て我が國が世界六十餘國中、如何なる地位を占めてゐるかを明瞭にすることが出來た。我等は我が國が世界に比類のない美しい國體を維持し、生々發展して已まない國情に鑑み、日本臣民たるの誇りを衷心より感ずると共に、列強の長所を採り、各種産業の振興を計り、更に一層國威の宣揚に努めなければならぬ。今や世界は支那事變・歐洲戰爭を契機として、英佛等の舊勢力が敗退し、日・獨伊等の新勢力により新態勢が建設されようとしてゐる。かやうな世界歴史上に比類のない轉換期に際會した上、世界新態勢の結成に重要な役割を持つ我が國民は、自奮自勵、全力をアジア新秩序の建設に盡し、以て肇國の宏謨を翼賛し奉らなくてはならない。

昭和十二年十二月十七日發行  
 昭和十三年二月二十八日發行  
 昭和十四年三月三十日發行  
 昭和十五年十二月二十日發行  
 昭和十六年八月三十日發行

新令實業新選地理 外國篇 修正版  
 定價 金壹圓七錢



著作權所有 不許複製

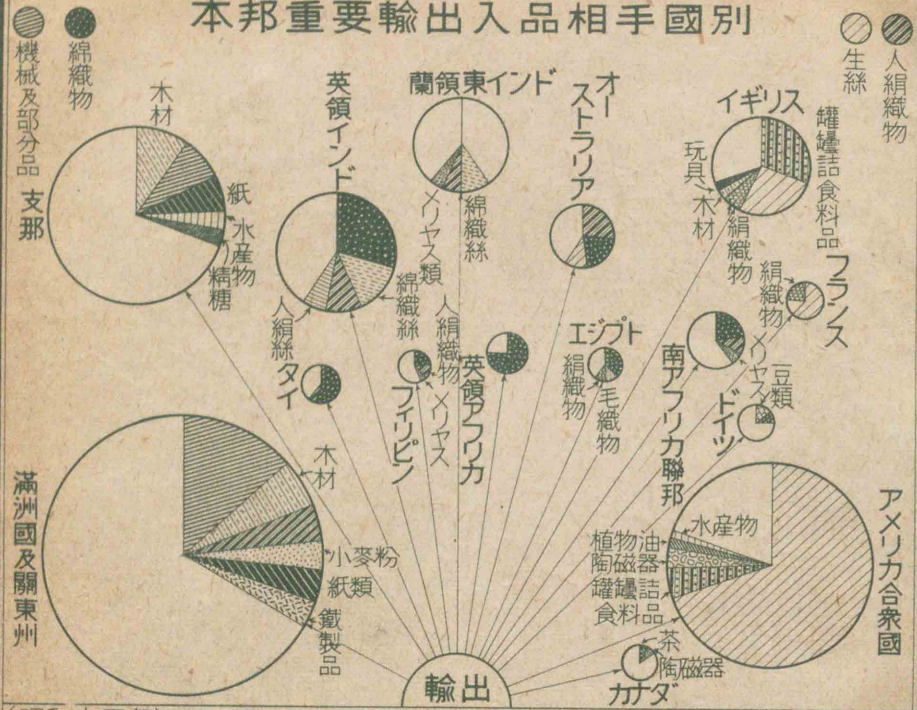
著者 守屋荒美雄  
 補訂者 守屋美智雄  
 發行者 東京市神田區西神田一丁目三番地 株式會社 帝國書院  
 代表者 守屋紀美雄  
 印刷者 東京市京橋區銀座西二丁目三番地 高橋郁

發賣所

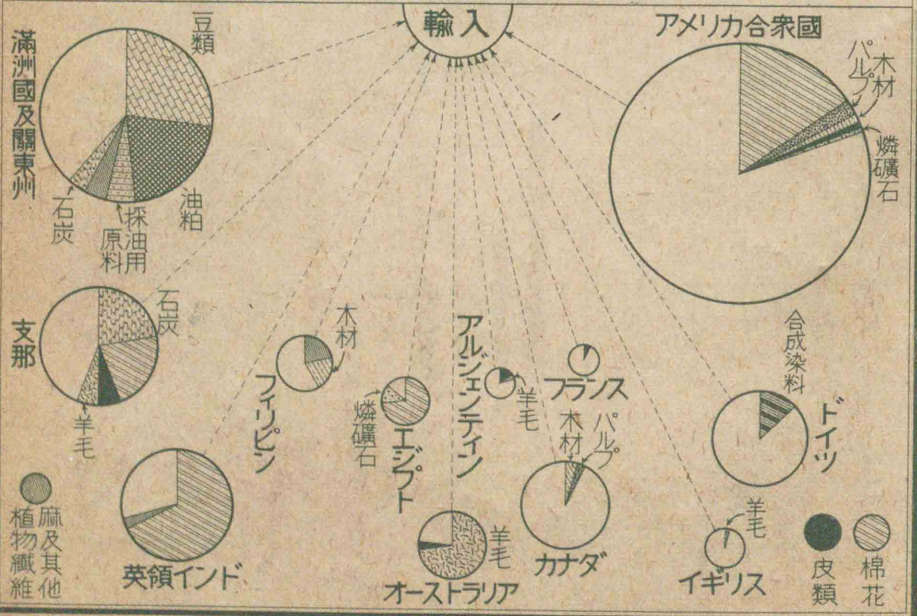
東京市神田區西神田一丁目三番地 株式會社 帝國書院  
 振替口座東京六七〇一四番  
 電話九段(33) 四四二八六 四四二八七 四四二八八 四四二八九



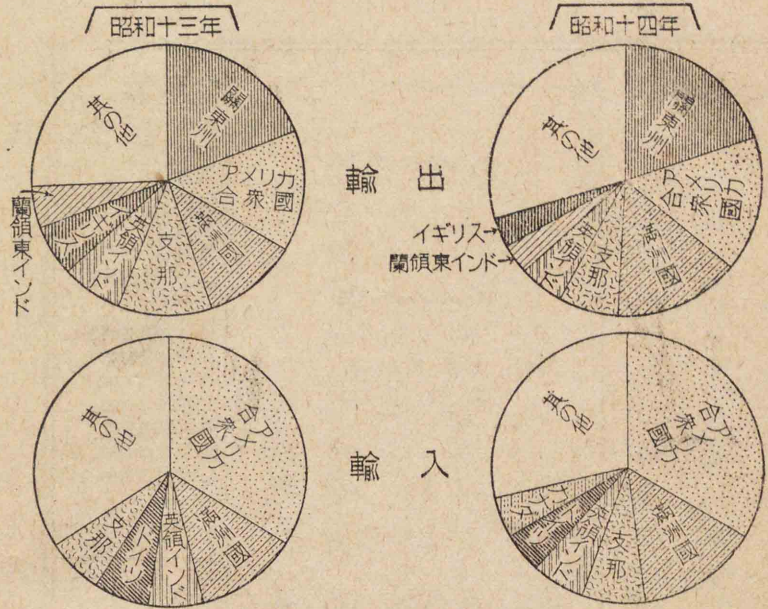
### 本邦重要輸出入品相手國別



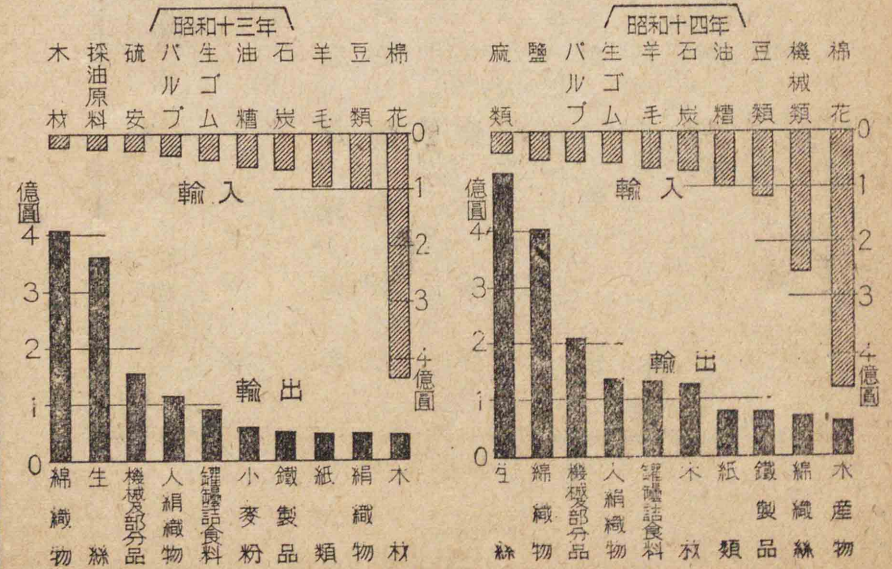
(昭和十四年)



### 相手國別輸出入高



### 品別輸出入高









二松組  
木本八重

広島大学図書

2000019078

